交通信号機設備工事仕様書

沖縄県警察本部

令和3年4月改訂

目　　次

第1章　総則

第1　適用範囲 …… 1

第2　工事場所 …… 1

第3　一般事項 …… 1

1　関係法規等の適用

2　監督員

3　疑義

4　許可・申請等の手続き

5　現場管理

6　施工

7　工事の変更

8　他工事との競合

9　工事経過の報告

10　施工の立会

11　後片づけ

12　工事完成

13　補償

第2章　機器及び材料

第1　機器 …… 3

第2　材料 …… 4

第3章　工事

第1　土木工事 …… 4

1　障害物処理

2　掘削

3　覆土及び埋戻し

4　路面復旧

第2　建柱工事 …… 5

1　信号機専用柱の種類

2　建柱

第3　コンクリート工事 …… 6
1　コンクリート
2　骨材
3　コンクリートの打込み
4　モルタル仕上げ
第4　基礎工事 …… 6
1　床掘工
2　基礎砕石
3　基礎出来形
第5　制御機取付工事 …… 6
1　取付位置
2　取付方法
第6　車両感知器取付工事 …… 7
1　車両感知器の種類
2　取付位置
3　取付方法
第7　交通信号灯器取付工事 …… 7
1　取付位置
2　取付方法
第8　押ボタン箱取付工事 …… 8
1　取付位置
2　取付方法
第9　配線及び配管 …… 9
1　使用材料
2　配管
3　配線
4　電源線引込
5　地中配線・配管
第10　塗装 …… 10
第11　撤去材の処理 …… 10
第12　その他 …… 11
1　ケーブル及び電線数量
2　湿気防止等の処理
第13　その他の工事 …… 11

第4章　検査
第1　検査 …… 11
第2　引渡し …… 11

第5章　その他 …… 11

資料-1-1　工事資料 …… 13
資料-1-7　工事標示施設(板) …… 19
付表-1-1　週間工程表 …… 20
資料-1-8　工事写真撮影方法 …… 21
資料-1-17 完成図書 …… 30
資料-1-18 完成図面及び設計図面 …… 31
付表-1-2　交通信号機工事完成図書式 …… 32
付図-1-1　交通信号機工事完成図作図基準 …… 33
付表-1-3　交通信号機管理簿書式 …… 34
付表-1-4　視覚障害者用付加装置管理表書式 …… 35
付表-2-1　使用材料表 …… 36
付図-3-1　交通信号機標準構成図 …… 39
付図-3-3　クランク加工柱 …… 41
付図-3-4　ベース加工柱 …… 42
付図-3-5　基礎出来形 …… 43
付図-3-6　鋼管柱(地際)腐食防止 …… 44
付図-3-8　制御機自立式 …… 46
付図-3-9　制御機架台・アンカー …… 47
付図-3-11 車両感知器標準構成図 …… 49
付表-3-1　ケーブル・電線　数量表 …… 51
付表-3-2　制御機用ケーブル長計算式 …… 52
付表-3-3　電源箱用ケーブル長計算式 …… 53
付図-3-13 車両灯、歩行者灯ケーブル長計算式 …… 54
付図-3-16 架空配線柱間ケーブル長計算式 …… 57
付図-3-17 地中配線柱間ケーブル長計算式 …… 57
付図-3-18 制御機用管路　詳細図 …… 58
付図-3-25 視覚障害者用付加装置用管路　詳細図 …… 65
付図-3-26 標準端子配列 …… 66
付図-3-28 交通信号機設置位置及び埋設配管図 …… 68

交 通 信 号 機 設 備 工 事 仕 様 書

第１章　　総　　則

第１　適用範囲

この仕様書は、沖縄県公安委員会が道路交通法第四条に基づいて設置する交通信号機の設備工事（以下「工事」という。）について適用する。

第２　工事場所

工事場所は、別添工事設計書に示すとおりである。

第３　一般事項

１　関係法規等の適用

工事施工にあたっては、関係する法令、規則及び基準等を遵守すること。

２　監督員

監督員とは、この工事を監督するために指定された職員又は、その補助者をいう。

３　疑義

この仕様書の解釈に疑義を生じた場合は、その都度監督員の指示に従うものとする。

４　許可・申請等の手続き

請負者は、工事着手前に監督員と協議して、この工事に必要な手続きを行うこと。

⑴　道路管理者に対する手続き

ア　工事資料、資料－１－１(P13)～1－６(P18)参照

イ　工事着手届

ウ　工事完了届

⑵　所轄警察署長に対する手続き

ア　道路使用許可申請　（道路使用許可条件の厳守）

⑶　電力会社に対する手続き

ア　電力申請届　（新設、容変、種変、増設、一撤等）

イ　共架申請届、共架廃止届

ウ　全撤届（供給廃止）

⑷　ＮＴＴに対する手続き

ア　添架申請届　（新規取付、廃止等）

⑸　その他該当する官公庁等への手続きを行う。

５　現場管理

⑴　請負者は、現場代理人及び主任技術者を選任し、工事の管理を行わせること。

（工事現場に常駐してその職務に従事する者で、請負業者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者に限る）

⑵　工事現場においては、十分な保安措置をとるとともに、他の交通並びに第三者の業務に支障を

与えないように十分注意すること。

⑶　工事を行う際は、必要な標示施設等を設置するほか、資料－１－７(P19)を参考に、工事区間の起終点に標識板を設置すること。

６　施工

⑴　工事の施工にあたっては、関係機関の許可条件に従うこと。

⑵　工事は、工事仕様書及び工事設計書に示された機能を完全に発揮させるように施工すること。

⑶　機器の種別、取付位置等は、別添工事設計書によるほか、詳細については監督員の指示によること。

⑷　この仕様書に明記していない事項及び工事施工中疑義を生じた場合は、その都度監督員の指示を受けること。

なお、施工上当然なすべき事項は、これを簡略してはならない。

⑸　工事及び製作に必要な工業所有権等の使用については請負者がその責に任ずるものとする。

⑹　機器取付終了前に、監督員と信号機運用開始日時を調整すること。運用開始前は、ドライバー、歩行者等が誤認しない様カバーをかける等の措置をとること。

７　工事の変更

⑴　工事施工上、支障を生じた場合における工事方法等の変更は監督員の承認を得て行うこと。

⑵　現場の状況等により必要があるときは、協議により工事の内容、工法等の変更を行うことができる。

８　他工事との競合

⑴　他工事と競合する場合は、監督員の指示に従い関係請負者と協議のうえ施工すること。

⑵　工事施工中に、他所管工作物に損傷を与えた場合、又は第三者の身体に危害を与えた場合は、その責はすべて請負者が負うものとする。

また、責任者は現場の状況をすみやかに監督員に報告し、必要な措置をとること。

９　工事経過の報告

請負者は、工事の進捗状況を、週間工程表（実施・予定）、付表－１－１(P20)に示す工程表を週に１回、監督員に提出し報告すること。

また、完了した工事箇所については、週間工程表の「備考」欄に「○月○日工事完了」と記載すること。

10　施工の立会

工事完成後、容易に確認できない工事等を施工する場合は、必ず写真撮影を行うこと。

また、必要に応じて監督員の立会を受けること。

11　後片づけ

工事完成後には、仮設物の撤去、後片づけ及び清掃をすること。

12　工事完成

請負者は、工事完成後、所定の完成通知書及び工事写真（Ａ４版ファイル）、完成図書（Ａ４版ファイル）を工期内に提出すること。

⑴　工事写真は、次に掲げる事項を撮影するものとし、必要に応じて現場管理の状況、安全対策の

状況等を撮影する。信号柱の基礎等、不可視となる出来形部分については、出来形寸法が確認出来るよう特に注意して撮影するものとする。

また、埋設物等がある場合には、埋設物等の状況を黒板に記載し写真撮影を行い添付すること。

ア　建柱及び基礎工事の状況、撮影方法は、資料-１-８(P21)～資料-1-１５(P28)を参考とする。

イ　施工前、施工状況、施工後、撮影方法は、資料－１－１６(P29)を参考とする。

⑵　完成図書は、次に掲げるものを添付すること。資料－１－１７(P30)を参考とする。

ア　交通信号機完成図、交通信号機管理簿のデーターを記録したＣＤ－Ｒ

イ　交通信号機工事完成図

ウ　交通信号機管理簿

エ　視覚障害者用付加装置管理表（新設・更新時）

オ　電力柱共架（実施・廃止）申請承諾書写し

カ　電力引込廃止（全撤表）

キ　ＮＴＴ柱添架申請・解答書写し

ク　返納品一覧表

ケ　産業廃棄物管理表（マニフェスト）Ｄ標の写し

上記に明記していない事項でも、必要と認められるものは添付すること。

以上の添付資料は、完成図書として、編綴すること。

また、完成図書とは別に、電力申請書（写し）、Ａ４版交通信号機完成図、Ａ４版交通信号機管理簿を１部提出すること。

⑶　交通信号機完成図

交通信号機工事完成図は、規定のＡ４書式、付表－１－２(P32)を使用し、付図－１－１(P33)及び資料－１－１８(P31)を参考に jw－cad 又は Autocad で作図すること。

また、縮尺は適切に作図すること。

⑷　交通信号機管理簿

交通信号機管理簿は、規定の書式、付表－１－３ (P34)で作成すること。また、記事には過去に施工された工事も記載すること。

⑸　視覚障害者用付加装置管理表

視覚障害者用付加装置管理表は、規定の書式、付表－１－４(P35)で作成すること。

13　補償

工事完成後、一年以内に生じた瑕疵ある事故は請負者が責任をもって無償取替又は修理を行うこと。

第２章　　機器及び材料

第１　機器

１　交通信号制御機、車両感知器及び交通信号灯器等の機器については、交通安全施設仕様書（警察庁仕様）で制定されているものを使用すること。

なお、交通安全施設仕様書にない特殊な機器を使用する場合は、事前に監督員の承諾を受けるこ

と。

２　機器の取付けは、秒速60メートルの風速に耐える支持力が得られるよう固定すること。

３　機器の錠については、タキゲン製の沖縄県警仕様とすること。

第２　材料

１　この工事に使用する材料は、付表－２－１(P36)～付表－２－３(P38)によるものとするが、詳細は事前に監督員の承認を得たものとする。

２　付表－２－１(P36)～付表－２－３(P38)以外の材料を使用する場合は、日本産業規格に制定されているもの及びこれに準ずるもので事前に監督員の承認を得たものとする。

３　施工上又は製作上必要な図面、見本等は、施工又は製作に先立ち監督員に提示して承認を受けること。

４　機器及び材料の種別、数量は、別添工事設計書及び工事積算書に示す。

５　取付け金具等は、溶解亜鉛メッキ防錆処理とする。

第３章　工事

第１　土木工事

１　障害物処理

⑴　工事の支障になる障害物は監督員の指示に従って処理すること。

⑵　既存の電気工作物、給排水管、ガス管等の埋設物に影響を及ぼすおそれのある場合は、当該管理者の立会いの上処理すること。

２　掘削

⑴　掘削は、道路管理者及び所轄警察署長の許可条件に従うこと。

⑵　舗装面の取り壊しは、コンクリートカッター等を使用して必要部分のみを取り壊すこと。

なお、発生する濁水（汚濁）に関しては、沖縄県土木建築部発出の「 アスファルト舗装版切断に伴い発生する濁水の取扱基準について（通知）（平成24年３月28日土技 第1257号）」に基づき適正に処理すること。

⑶　ブロック舗装のブロック平板は、破損しないよう丁寧に取扱い交通に支障のない位置に整理すること。

⑷　掘削は溝堀り又はつぼ堀りとし、えぐり掘りをしてはならない。

⑸　掘削は所定の深さまで行い、石や突起物を取り除き、床面を平坦にならし底固めとする。

⑹　床掘は、歩行者、車両等の交通を妨げないように施工すること。

また、工事のため路面の配水を防げないようにし、工事に支障を及ぼす雨水、湧水、たまり水等は、第三者に支障を与えないように配水する。

⑺　道路横断箇所は、横断部の１／２又は１／３ずつ掘削し、その部分の埋設及び埋戻し完了後、次の掘削に移り、道路の一つの側の交通を常に確保する。

３　覆土及び埋戻し

⑴　掘削箇所が当日中に埋戻し出来ない場合は、第三者に対して安全な措置をとること。

⑵　掘削土をそのまま埋戻すのが不適当な場合には、他の良質な土で埋戻すこと。

⑶　埋戻しは、所定の支持力が得られるようランマー等で突き固めるか、水締め等を行い強固にすること。

⑷　埋戻しは、道路管理者その他の許可条件によるものとし、指定のない場合は監督員の指示によること。

⑸　残土は、産業廃棄物として「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適正に処理すること。

４　路面復旧

⑴　路面復旧については、道路管理者その他の許可条件により原状復旧すること。

⑵　本復旧までの間は、再生砕石又は常温アスファルト等で仮復旧し、第三者の通行の支障にならないように努めること。

⑶　本復旧は、原状復旧しアスファルト舗装については、当該道路管理者の工事仕様書に基づく撮響範囲を確保すること。

第２　建柱工事

１　信号機専用柱の種類

⑴　信号機専用柱（以下「専用柱」という。）として使用する専用柱は、原則付図－３－１(P39)～付図－３－２(P40)及び表－２－１(P36)～表－２－２(P37)のとおりとする。

⑵　特に指定した場合は、コンクリート柱を使用する。詳細については監督員の指示によるものとする。

２　建柱

⑴　建柱位置は、別添工事設計書による。詳細については監督員の指示によること。

⑵　建柱にあたっては、道路の建築限界及び道路条件を考慮すること。

⑶　建柱は原則として丸穴工法により行い、特に指定する場合の他、支線、支柱、根かせを使用しない。

⑷　柱の根入れは原則として「柱長の１／６以上」とする。但し、埋設物等障害のある場合は監督員の指示を受けること。

⑸　鋼管柱の建柱方法は、コンクリート柱に準ずる、埋設物等障害がある場合は、監督員に報告し、付図-３-３(P41)～付図-３-４(P42)のとおり、 鋼管柱にクランク加工、ベース加工を施すこと。
　また、鋼管柱基礎強度計算を行い適切な基礎とすること。

⑹　鋼管柱の切断は一切認めないので、埋設物の調査を確実に行うとともに、必要があれば試掘も行うこと。

⑺　鋼管柱は、現場に合わせて、制御機・押ボタン箱・感知器・電源箱・回線箱等の台座加工・立て込み加工・クランク加工・塗装等を施すこと。

⑻　既設の鋼管柱に穴開け等の加工を施す場合には、機器を設置するための台座、カップリング等を溶接し、防錆処理を確実に行うこと。
　また、加工前に監督員の承認を受けること。

⑼　柱の設置・建替に際しては、原則、車灯が交差点の下流側となるよう配意すること。

第３　コンクリート工事

コンクリート工事は流し込みにより施工し、コンクリートが床掘全体にむらなく密着するよう打設すること。

１　コンクリート

⑴　コンクリート工事に使用するコンクリートは、原則、ＪＩＳ認定工場で製造したレディーミクストコンクリートを使用する。

⑵　コンクリートの強度は、無筋構造物は、設計基準強度より「２１－８－２０」を標準とする。

２　骨材

骨材は、洗浄、硬質及び耐久性のあるもので、ごみ、泥、有機不純物、塩分等を含んではならない。

３　コンクリートの打込み

⑴　コンクリートの打込みに際しては、水道管等、その他の工作物を移動させないように注意して内部振動機等により突き固めること。

⑵　コンクリートの打込み後は、急激な温度変化、乾燥、荷重、衝撃等の有害な影響を受けないように十分これを保護措置すること。

４　モルタル仕上げ

⑴　モルタル仕上げの指示ある箇所は、コンクリートにモルタルが密着するように仕上げること。

⑵　モルタルの調合は、容積調合で普通、１（セメント）：３（砂）とする。

第４　基礎工事

１　床掘工

第１「土木工事」に準じて施工すること。

２　基礎砕石

⑴　所定の深さに掘り下げ床付面を平坦にならし、再生砕石を施して十分締め固めながら所定の厚さに仕上げるものとする。

⑵　仕上げ厚は、普通地盤の場合、１０ｃｍとする。

３　基礎出来形

⑴　基礎の出来形は、付図－３－５(P43) を標準とし、取付物等が過剰な場合は、監督員に報告し基礎強度計算を行い、適切な基礎とする。

⑵　鋼管柱建柱位置が植樹帯（土部分）の場合は、地際に腐食防止を行う、付図－３－６(P44)～付図－３－７(P45)を参照すること。

第５　制御機取付工事

１　取付位置

⑴　制御機の取付位置は、付図－３－１(P39)～付図－３－２(P40)交通信号機標準構成図による。

⑵　原則として制御機の横方向が道路と平行で、取付位置は車両の進行方向に対し柱を挟んで反対側になるように設置し、歩行者の通行の支障とならないようにすること。

２　取付方法

⑴　制御機の取付方法は自立式、付図－３－８(P46)～付図－３－１０(P48)及び電柱抱込式、付図－３－１(P39)～付図－３－２(P40)に示すとおりである。

⑵　他所管の電柱を借用する場合は、指定の条件を厳守し、毀損したり障害を与えないこと。

⑶　取付にあたっては、道路の建築限界、保守点検及び手動操作に留意すること。

⑷　取付は、付属の取付金具を使用すること。

⑸　制御機筐体には、Ｄ種接地工事（１００Ω以下）を行うこと。

⑹　制御機の設置・取替に際しては、現場に合わせて、現示の出し方、多段動作時の各階梯の設定秒数等を調査・検討し、その結果を報告すること。

⑺　系統路線上に設置される制御機については、路線上の全制御機のオフセットも検討し、その結果を報告すること。

第６　車両用感知器取付工事

１　車両感知器の種類

車両感知器は、原則として超音波式とすること。但し、道路構造等によって画像式、電波式、遠赤外線式、ループ式とする。

２　取付位置

感知器の取付位置は、付図－３－１１(P49)～付図－３－１２(P50)に示すとおりである。

３　取付方法

⑴　車両感知器の標準取付方法は、付図-３-１１(P49)～付図-３-１２(P50)に示すとおりである。

⑵　他所管の電柱を借用する場合は、指定の条件を厳守し、毀損したり障害を与えないこと。

⑶　取付にあたっては、道路の建築限界留意し、超音波受信機の設置位置は、車両が追突し難い方向に取り付けること。

⑷　取付は、付属の取付金具を使用すること。

⑸　車両用感知器筐体は、Ｄ種接地工事を行うこと。

⑹　超音波送受信器の標準取付方法は、付図-３-１１(P49)～付図-３-１２(P50)のとおりである。

⑺　ストレートアームには、支持棒、両側に感知器補強材（振れ止め金具）を取り付けること。

⑻　画像式、電波式、遠赤外線式、ループ式の場合の工事方法は別途指示する。

第７　交通信号灯器取付工事

１　取付位置

⑴　交通信号灯器の取付位置、種類については別途工事設計書による。詳細については監督員の指示によること。

⑵　灯器用アームは、図面上の寸法にとらわれることなく、現場に合わせて、適切な長さとなるよう調査・検討し、その結果を報告すること。

２　取付方法

⑴　交通信号灯器の標準取付方法は、付図－３－１(P39)に示すとおりである。

⑵　取付にあたっては、道路の建築限界、視認性及び道路条件を留意すること。

⑶　他所管の電柱を借用する場合は、当該管理者の条件を厳守し、毀損したり障害を与えないこと。

⑷　取付は、付属の取付金具を使用すること。

⑸　車両灯器については、強風にも十分耐えられるよう振れ止めを行うこと。

⑹　歩行者用灯器のストレートアームが長くなった場合、ターンバックルで補強すること。

第８　押ボタン箱取付工事

１　取付位置

押ボタン箱の取付位置、種類については別途工事設計書による。詳細については監督員の指示によること。

２　取付方法

⑴　押ボタン箱の標準取付方法は、下記図及び付図－３－１(P39)に示すとおりである。

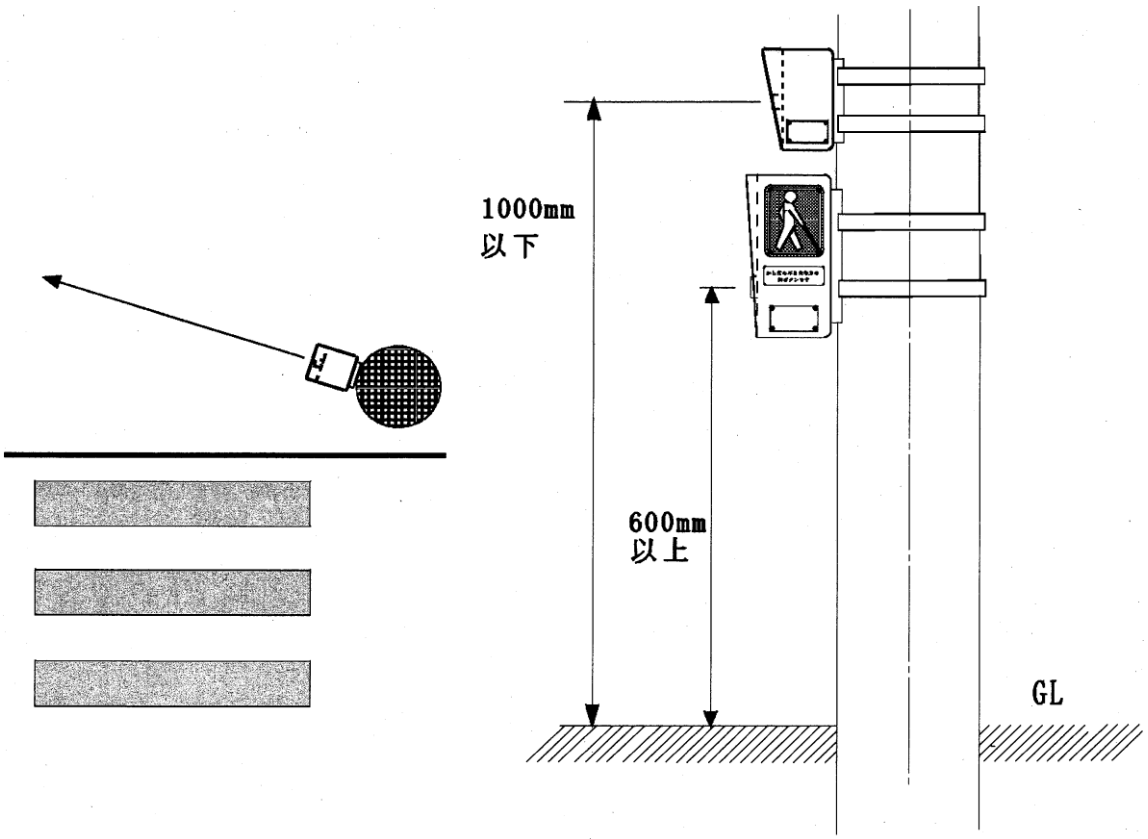
⑵　取付にあたっては、道路の建築限界、歩行者の手動操作に留意すること。

⑶　他所管の電柱を借用する場合は、当該管理者の条件を厳守し、毀損したり障害を与えないこと。

⑷　押ボタン箱には、Ｄ種接地工事を行うこと。

⑸　歩行者用押ボタン箱及び弱者用押ボタン箱ともに原則600㎜～1000㎜の範囲内の高さに設置すること。

また、弱者用押ボタン箱が下側となるよう設置すること。



第９　配線及び配管

１　使用材料

⑴　配線及び配管に使用する材料は第２章、第２によるものである。

⑵　使用する線種、芯線数、管種等の指定は、別添工事仕様書及び付表－３－１(P51)、付図３－１８(P58)～付図－３－２５(P65)よること。

２　配管

⑴　立上りケーブル、電源ケーブル、接地線等は関係する付図により所要の配管を行いケーブルを保護すること。

⑵　立上り管路の先端は雨水等の侵入を防止する処置を施すこと。

３　配線

⑴　電線は途中接続をしてはならない。但し監督員の指示による場合は除く。

⑵　灯器の配線は、灯器開閉素子ごとに行い最大６灯までとする。

⑶　電線と機器端子との接続は確実に行うこと。

⑷　電源引込線は、ビニル電線を使用し、接地側は白、電圧側は黒とすること。

⑸　接地線は緑色とする。

⑹　電線がより線の場合は、素線がばらばらにならないような処置を施すこと。

⑺　架空配線にて行う場合は、付図－３－１(P39)を標準とする。

⑻　吊線は、たるみなく引留ること。

⑼　吊線は、各支持点においてマルチ掛けを行い、そのいずれかの支持点においてＤ種接地工事をを行う。

⑽　架空配線が道路を横断する場合は、最低位置が地表上６ｍ以上とする。

⑾　架空配線は、支線引留金物、支持引留金物に取り付けた丸シンブル用巻付けグリップにより引留めること。

⑿　信号灯器への配線の引下げは、ツヅミ型碍子をもって柱に接触しないよう引下げ、信号灯器に接続すること。

⒀　歩行者灯器のみに配線する場合は、途中に中間支持金物に取り付けた低圧引留碍子に引き留めること。

⒁　架空配線と信号灯器引下げ配線、又は制御機引下げ配線との接続用に接続端子箱を設け取付位位置は地上６ｍ以上で通常、付図－３－１(P39)の位置を標準とする。

⒂　系統線及び連動等の架空配線の場合、径間距離が長すぎることのない様適切な区間において借用柱共架等により系統線支持金物にて支持すること。また、系統線支持金物では架空線が損傷をを受けると認められる場所においては系統線引留金物で引留めること。

なお、詳細については別途工事設計書及び監督員の指示によること。

⒃　架空配線を借用柱に取りつける場合は、公安委員会の札を縛り紐等で取り付けること。

⒄　使用する接続端子箱の構造、構成については、別途工事設計書及び監督員の承認を受けること。

なお、接続端子箱の扉裏には端子表を張り付け現示を記載すること。

⒅　接続端子箱の端子数は、別途工事設計書及び監督員の指示によること。

⑲　接続端子箱の標準端子配列は、付図－３－２６（P66)～付図－３－２７（P67）を標準とする。

⑳　接続端子箱内の各ケーブルには、ケーブル札を取付、行先柱、ケーブル芯数を記載すること。

㉑　接続端子箱の内側ケーブル挿入口には、ネオシール（相当品）を詰めること。

㉒　ＮＴＴ線路引込用に使用する回線接続端子箱の形状、構造、構成については、監督員の承認を受けること。

㉓　電線が街路樹その他により損傷を受けると認められる箇所は、保護材により保護すること。

４　電源線引込

⑴　制御機設置柱には、電源開閉器箱を取り付けること。

⑵　電源開閉器箱の外形、構造、構成については、監督員の承認を受けること。

⑶　電源開閉器箱の標準取付方法は、付図－３－１(P39)～付図－３－２(P40)に示す。

⑷　電源開閉器箱用管路（コン柱）内は、IV（600）5.5㎟×２本（白、黒）を使用すること。

⑸　電源引込線の接続点から電源開閉器箱までの間、及び電源開閉器箱から制御機までの配線は、付図－３－１９(P59)に示す電線管で保護すること。

⑹　電源開閉器箱用管路エントランスキャップ部のIV線には、エフコテープを２０ｃｍまきつけ、エントランスキャツプ（プラスチック部分）にはネオシール（相当品）にて保護すること。

５　地中配線・配管

⑴　地中配線を行う場合の保護管路は、別途監督員の指示によること。

⑵　管路の埋設位置については、別添工事設計書によるほか、詳細については監督員の指示による。

⑶　埋設する場合の土かぶりは、原則として歩道では０．６ｍ以上、車道では１．２ｍ以上とする。

⑷　信号機用地中埋設配管は、付図－３－２８(P68)を基本とする。

⑸　管路敷設の埋戻しは、保護砂を敷設し、菅の上部３０ｃｍの位置に埋設シートを敷設すること。

⑹　埋設土工事に関しては、第３章、第１に準拠して行う。

第10　塗装

⑴　工事に必要な材料のうち、十分な表面処理のおこなわれていないものについては、塗装を行うものとする。但し、特に必要と認められない面は除く。

⑵　電線管及びその他加工部分等は、塗装及び防錆処理を施すこと。

⑶　塗装は事前に色見本を監督員に提示して、承認を受けること。

⑷　色の指定がされている工事箇所の、専用柱、アーム、電源開閉器箱、回線接続箱及び管路等については、指定色塗装（材料発注時又は納品後の塗装仕上げ）を施すこと。

第11　撤去材の処理

⑴　工事施工に伴う既存施設の解体、その他により生じた撤去材は、再使用（返納品）は整理の上指定された場所に返納すること。

⑵　廃棄する機器及び工事材料は、廃棄物処理法その他関係法令等に定めるところによるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い適正に処理すること。

第12　その他

１　ケーブル及び電線数量

灯器用ケーブル、電線管内ケーブル・電線、制御機用ケーブル、架空配線ケーブル等は、付表－３－１(P51)～付表-３-３(P53)、付図-３－１３(P54)～付図-３－１７(P57)に記載の数量とする。

２　湿気防止等の処理

信号制御機、車両感知器、視覚障害者用付加装置、電源開閉器箱、回線接続箱等の絶縁ブッシング部、制御機等を自立式又は内通式の柱に設置する場合には、湿気防止等の処理として、ネオシール（相当品）を詰めること。

第13　その他の工事

その他の工事に関する詳細は監督員の指示によること。

第４章　　検査

第１　検査

１　工事が完成したときは、監督員立会いの上の検査を行う。

なお、検査の詳細は、別途打ち合わせるものとする。

⑴　外観検査

⑵　員数検査

⑶　機能検査

２　上記の検査に直接必要な一切の機器及び費用は、請負者の負担とする。

第２　引渡し

設備の引渡しは、検査合格をもって引渡とする。

第５章　　その他

信号機の運用については、下記の指針に基づき随時見直しを行っていることから、工事箇所において、指針とは異なる運用が行われているのであれば、漫然と工事を進めることなく、確実に監督へ報告し指示を受けること。

１　右折矢印信号現示関係

平成31年３月20日付け丁規発第48号

右折矢印信号現示による制御に関する運用指針の制定について

www.npa.go.jp/laws/notification/koutuu/kisei/kisei20190320-2.pdf

２　時差式信号現示関係

平成31年３月20日付け丁規発第49号

時差式信号現示による制御に関する運用指針の制定について

www.npa.go.jp/laws/notification/koutuu/kisei/kisei20190320-3.pdf

３　押ﾎﾞﾀﾝ式信号における信号制御関係及び狭幅員従道路を有する交差点における信号制御関係

平成31年３月28日付け丙規発第13号

より合理的な交通規制の推進について

www.npa.go.jp/laws/notification/koutuu/kisei/kisei20190328-3.pdf

４　視覚障害者用付加装置関係

平成31年３月27日付け丙規発第59号

視覚障害者用付加装置に関する装置・運用指針の制定について

www.npa.go.jp/laws/notification/koutuu/kisei/kisei20190327-4.pdf

資料－１－１　　工 事 資 料　目 次

工　事　資　料

〇 〇 土 木 事 務 所
県道〇〇号線

場　　所　〇〇〇町〇〇〇〇　△△△－△

交差点名　〇〇〇〇（□□－□□□□）

１　建柱場所　位置図

２　交通信号機工事設計図

３　建柱場所　写真

４　基礎図（平面・断面図）

資料－１－２

工 事 資 料　位 置 図

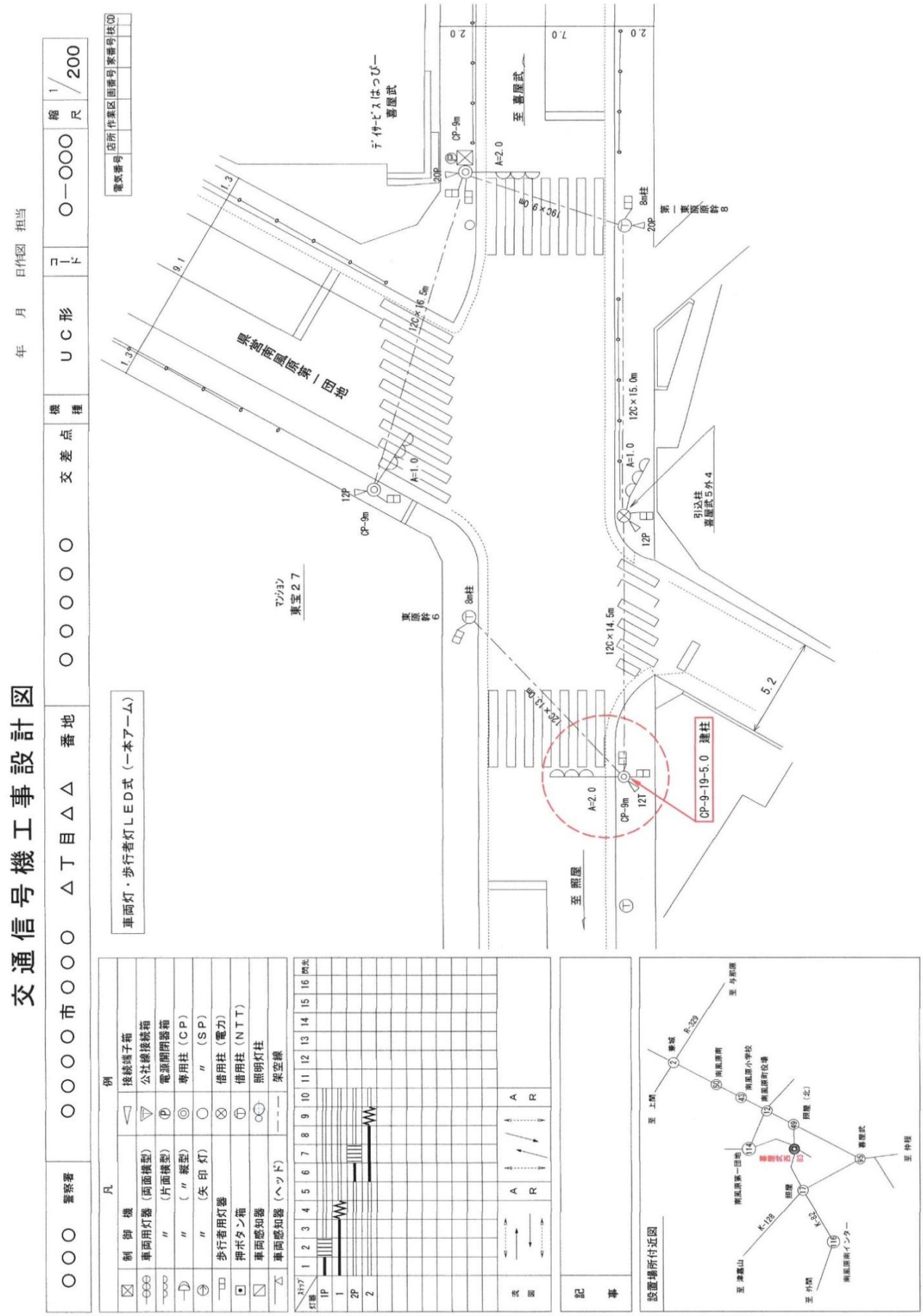
現　場　位　置　図

住所：○○○○○○　△△△－△



資料－１－３

工 事 資 料　設 計 図



資料－１－４

工 事 資 料　写 真

現 場 調 査 写 真

○○○○　P4柱　建柱予定場所　（県道○○号線）



○○○○　P4柱　建柱予定場所　（県道○○号線）

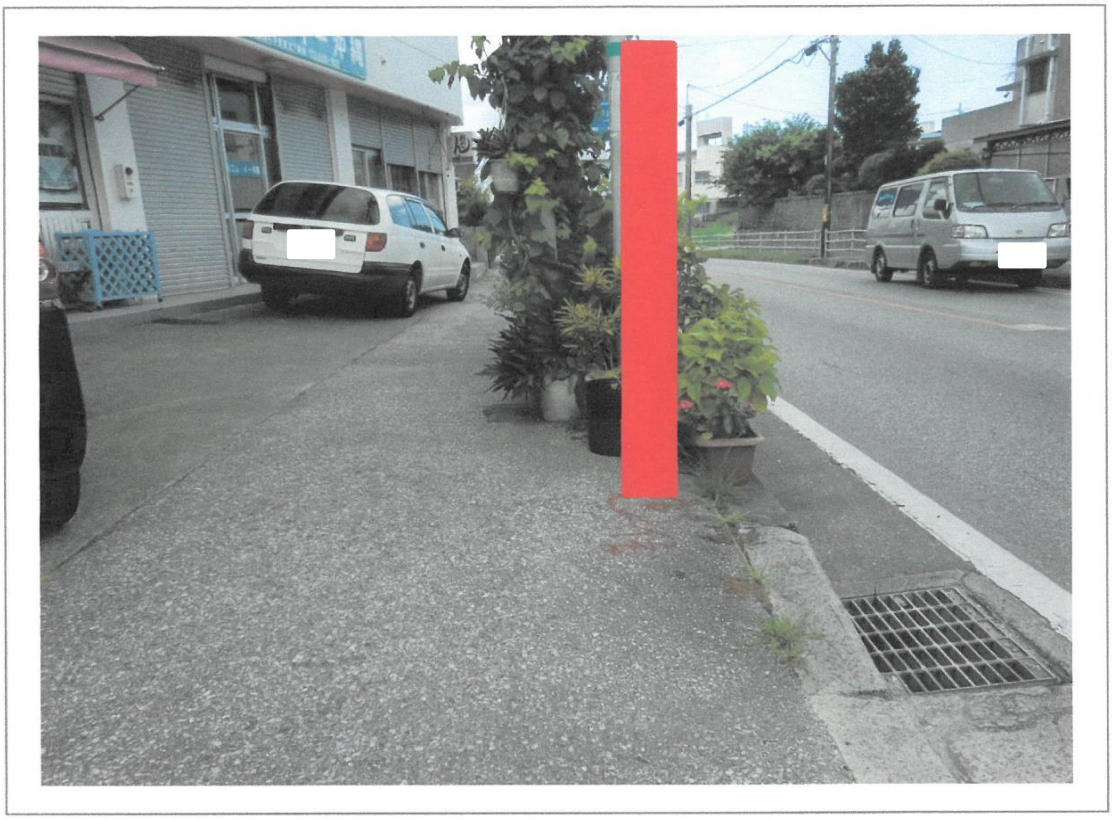


資料－１－５

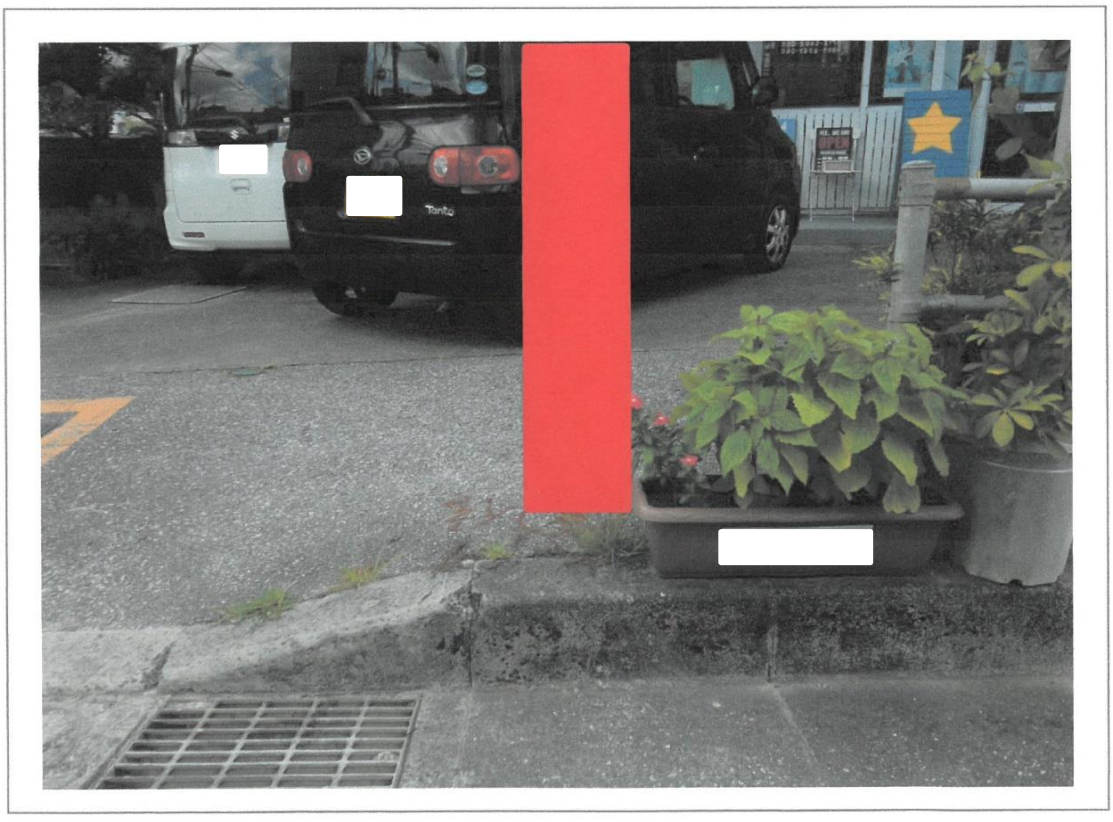
工 事 資 料　 写 真

現 場 調 査 写 真

○○○○　P4柱　建柱予定場所　（県道○○号線）



○○○○　P4柱　建柱予定場所　（県道○○号線）

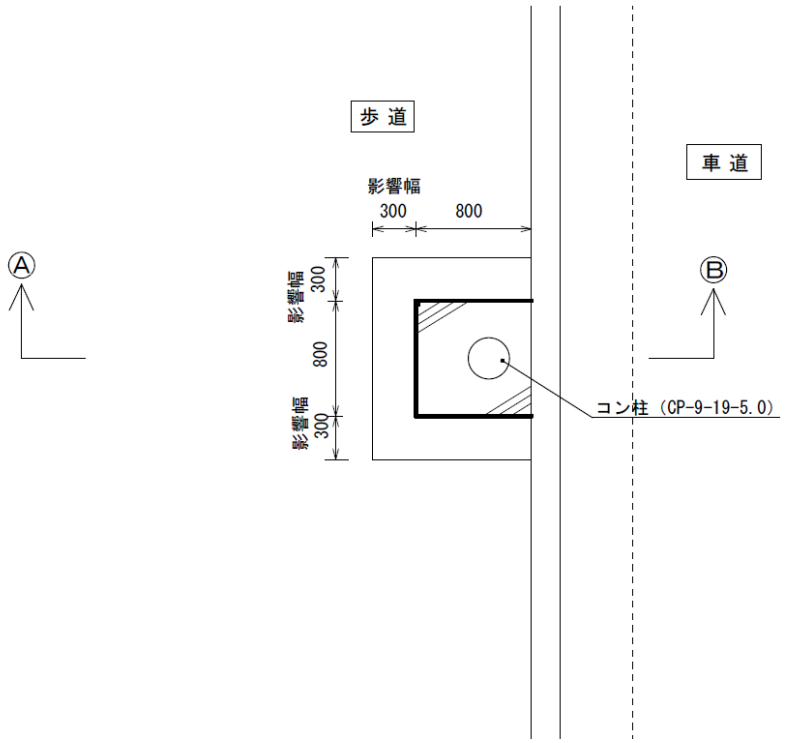


資料－１－６

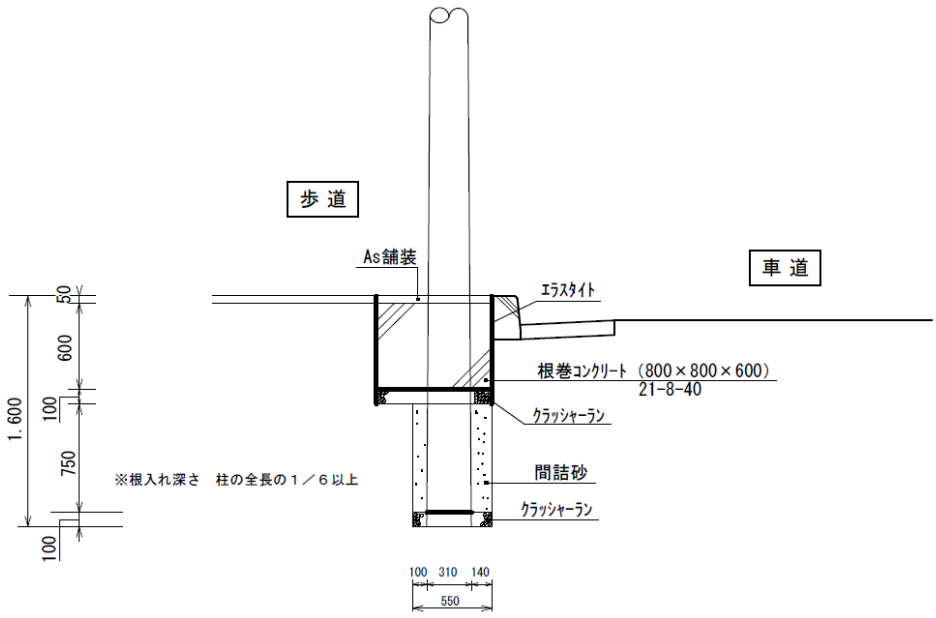
工 事 資 料　基 礎 図

信号機（ｺﾝｸﾘｰﾄ柱）基礎図

平　面　図　S＝1/50



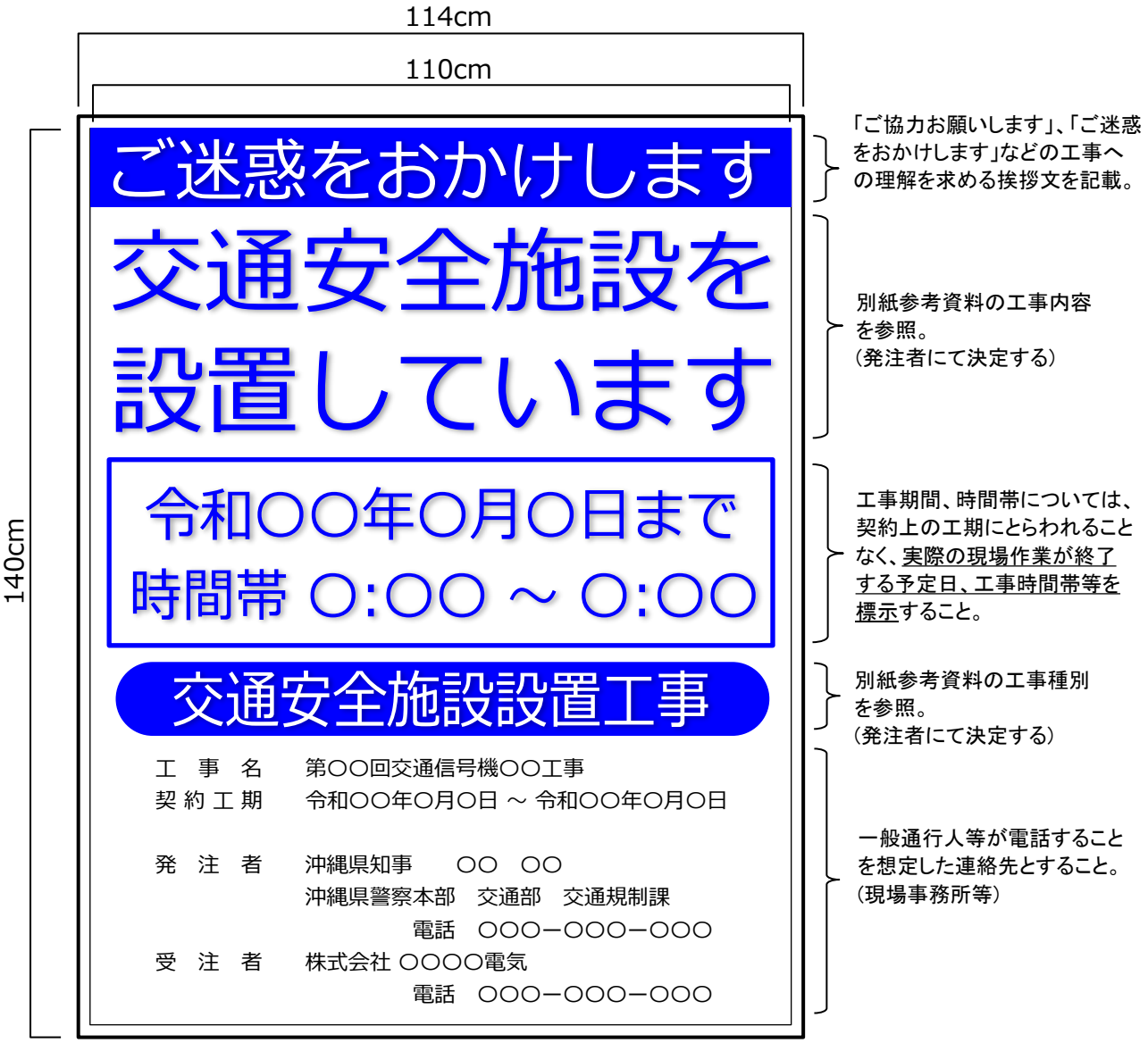
Ⓐ～Ⓑ 断　面　図　S＝1/50



資料－１－７　　工事標示施設（板）　　参考

工事現場における工事標示施設(板)の設置について

工事を行う場合は、必要な標示施設等を設置するほか工事区間の起終点に下に示す内容を記載した標示板を設置するものとする。



※ 看板表面の素材は、原則として「高輝度反射式」または同等以上のものとする。
使用しない場合については、監督員と協議すること。

※ 色彩は、「ご迷惑をおかけします」等の挨拶文及び「〇〇〇〇工事」等の工事種別は青地に白抜き文字とし、「〇〇〇〇〇〇〇〇をなおしています」等の工事内容、工事期間については青色文字、その他の文字及び線は黒色、地を白色とする。

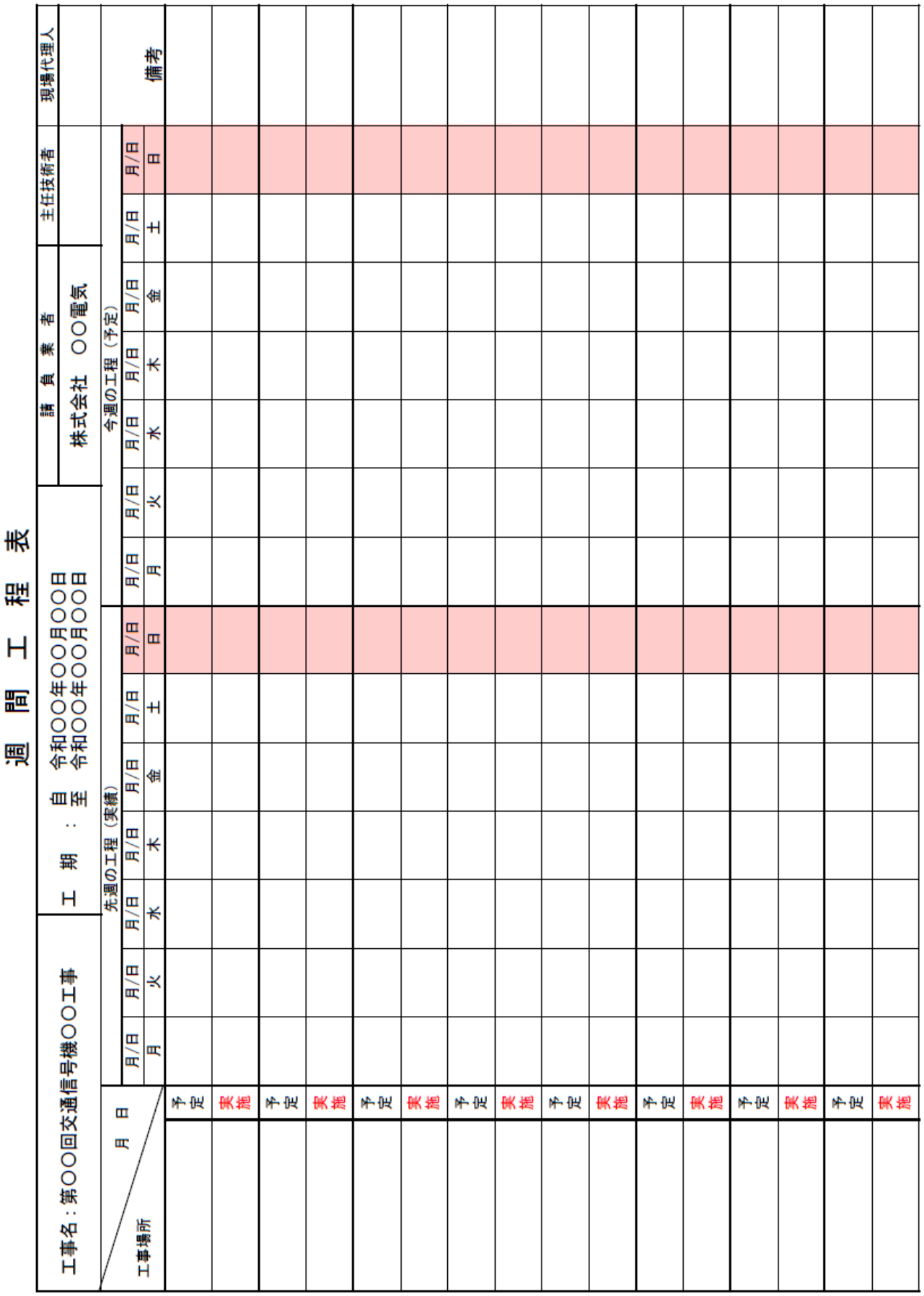
※ 縁の余白は２cm、縁線の太さは１cm、区画線の太さは０．５cmとする。

※ 時間帯は２４時間表示とする。

※ 内容(請負額以外)に変更が発生した場合は、速やかに改定すること。

付表－１－1

週間工程表（参考）



資料－１－８　　工事写真撮影方法（参考）

工事名　：　第○○回交通信号機○○工事

建柱場所の全景写真
（建柱前）

場所：○○○（△△△－□□□）
全景：主方向から撮影
P○柱
施工前

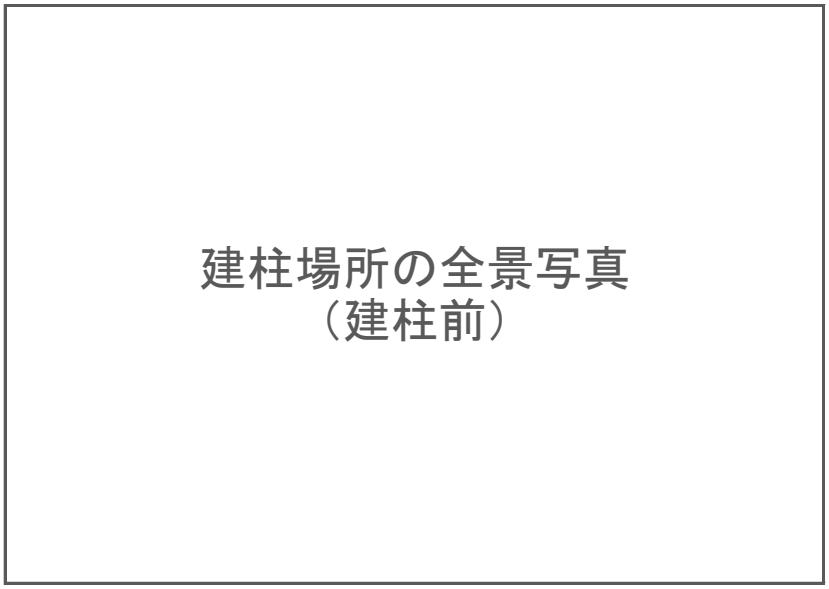
建柱場所の全景写真
（建柱後）

場所：○○○（△△△－□□□）
全景：主方向から撮影
P○柱
施工後

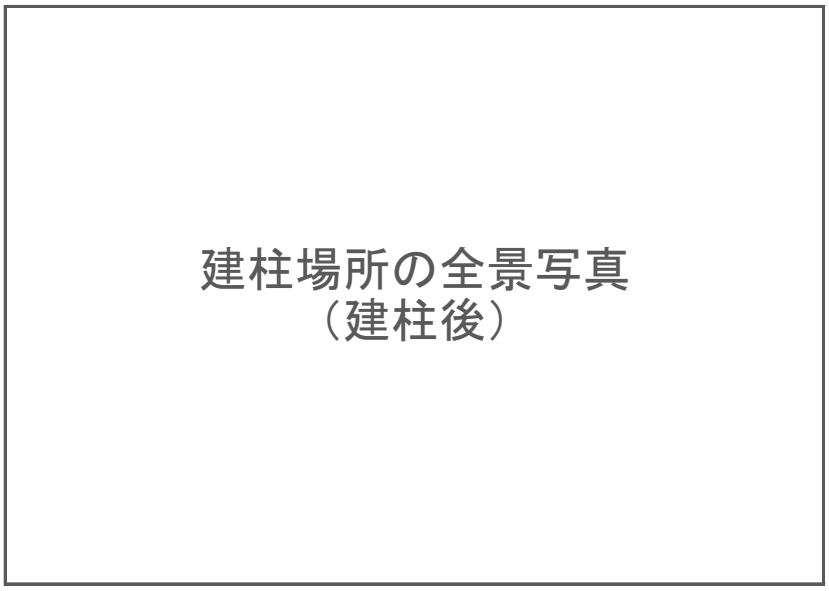
余　白

資料－１－９　　工事写真撮影方法（参考）

工事名　：　第○○回交通信号機○○工事



場所：○○○（△△△－□□□）
全景：従方向から撮影
P○柱
施工前



場所：○○○（△△△－□□□）
全景：従方向から撮影
P○柱
施工後



資料－１－１０　　工事写真撮影方法（参考）

工事名　：　第○○回交通信号機○○工事

掘削場所の施工前写真	場所：○○○（△△△－□□□） 工種：掘削・建柱 P○柱 施工前
アスファルトカット 状況写真	場所：○○○（△△△－□□□） 工種：掘削・建柱 P○柱 アスファルト舗装カット状況
濁水処理状況の写真	場所：○○○（△△△－□□□） 工種：掘削・建柱 P○柱 濁水処理状況

資料－１－１１　　工事写真撮影方法（参考）

工事名　：　第○○回交通信号機○○工事

出来形 深さ
H=1.700測定写真

場所：○○○(△△△－□□□)
工種：掘削・建柱
P○柱
建柱穴（根入部）出来形
H=1.700

出来形 深さ
H=1.６00測定写真

場所：○○○(△△△－□□□)
工種：掘削・建柱
P○柱
建柱穴（根入部）出来形
H=1.600

建柱状況の写真

場所：○○○(△△△－□□□)
工種：掘削・建柱
P○柱
建柱状況

資料－１－１２　　工事写真撮影方法（参考）

工事名　：　第○○回交通信号機○○工事

基礎穴出来形
再生砕石敷設前の写真

場所：○○○(△△△－□□□)
工種：掘削・建柱
P○柱
基礎穴出来形
H=750
W=800
L=800

基礎穴出来形
再生砕石敷設後の写真

場所：○○○(△△△－□□□)
工種：掘削・建柱
P○柱
基礎穴出来形
H=650

接地棒打込状況写真

場所：○○○○(△△△－□□□)
工種：接地工事
P○柱
接地棒打込状況

資料－１－１３　　工事写真撮影方法（参考）

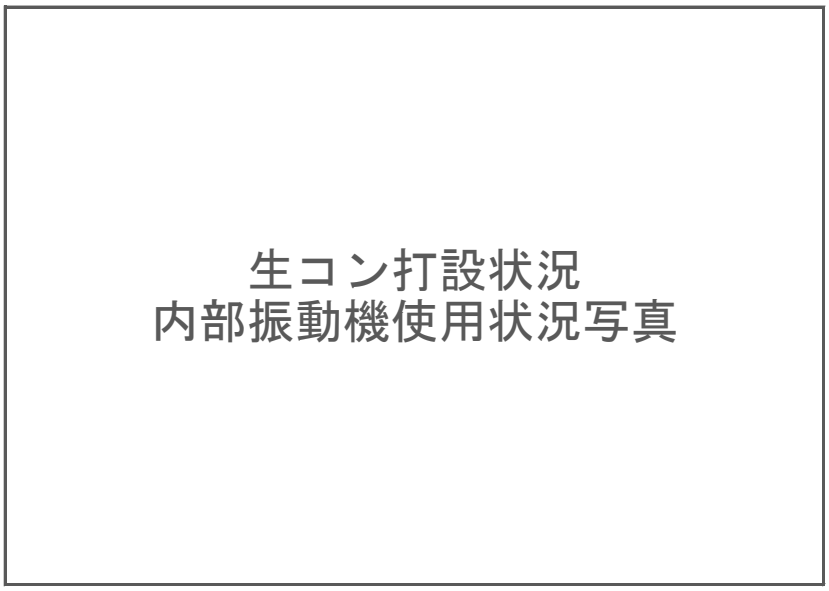
工事名　：　第○○回交通信号機○○工事



場所：○○○（△△△－□□□）
工種：接地工事
P○柱
接地抵抗測定状況
○○Ω



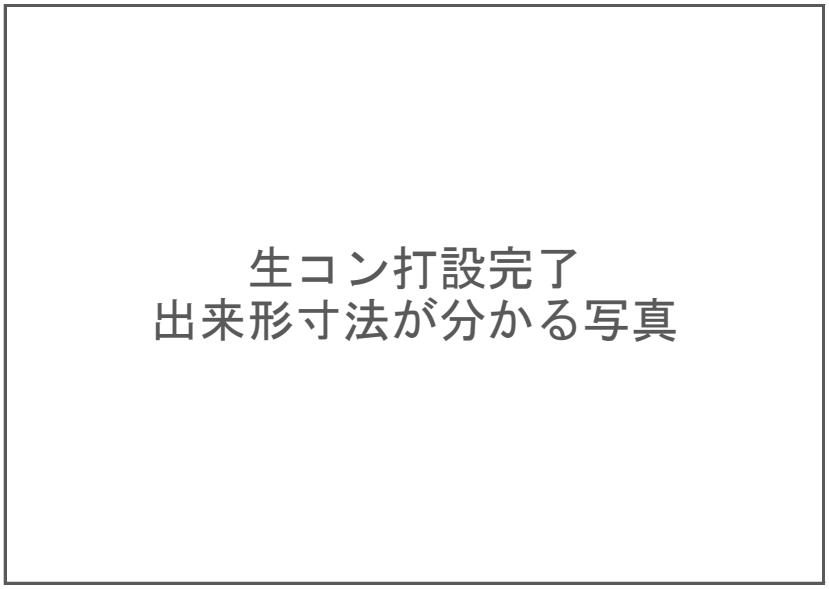
場所：○○○（△△△－□□□）
工種：掘削・建柱
P○柱
接地抵抗測定状況
○○Ω



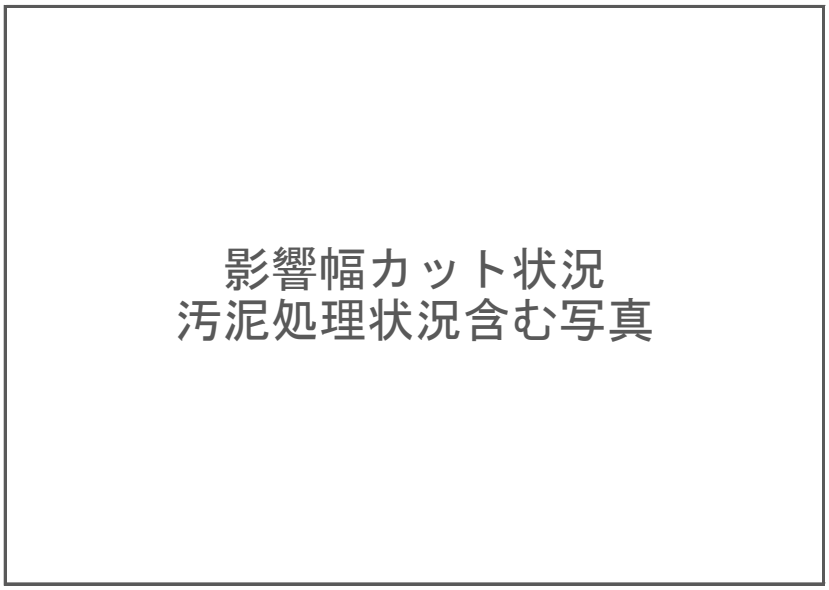
場所：○○○（△△△－□□□）
工種：コンクリート工事
P○柱
生コン打設状況

資料－１－１４　工事写真撮影方法（参考）

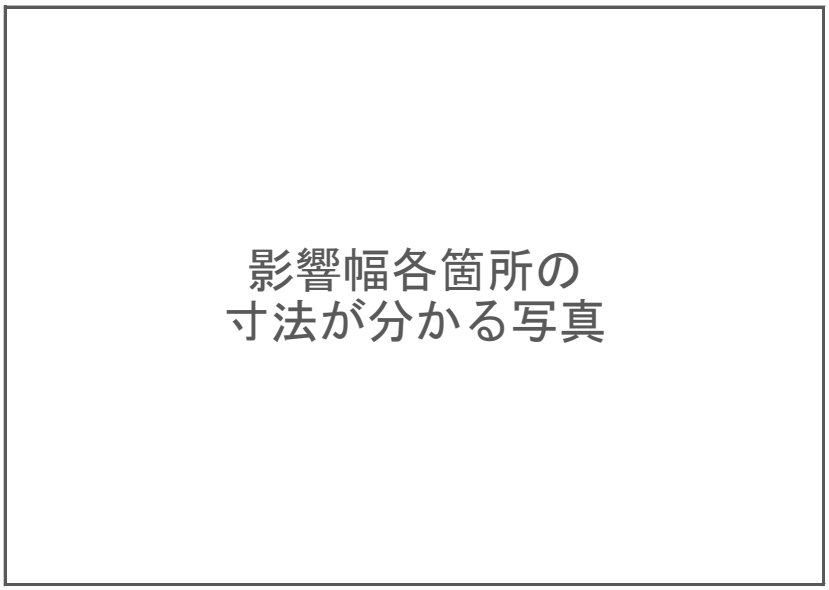
工事名　：　第○○回交通信号機○○工事



場所：○○○(△△△－□□□)
工種：コンクリートエ事
P○柱
生コン打設完了
H＝50



場所：○○○(△△△－□□□)
工種：路面復旧工事
P○柱
アスファルト影響幅カット状況



場所：○○○(△△△－□□□)
工種：路面復旧工事
P○柱
影響幅剥ぎ取り寸法
影響幅＝300

資料－１－１５　　工事写真撮影方法（参考）

工事名　：　第○○回交通信号機○○工事

乳剤を舗装復旧面 全体に塗布後の写真	場所：○○○（△△△－□□□） 工種：路面復旧工事 P○柱 乳剤散布状況
合材を転圧（プレート等） 状況写真	場所：○○○（△△△－□□□） 工種：路面復旧工事 P○柱 転圧状況
路面復旧完成写真	場所：○○○（△△△－□□□） 工種：路面復旧工事 P○柱 アスファルト舗装完了 影響幅＝300

資料－１－１６　　工事写真撮影方法（参考）

工事名　：　第○○回交通信号機○○工事



場所：○○○（△△△－□□□）
工種：機器取付工事
P○柱
歩行者用灯器取付
施工前



場所：○○○（△△△－□□□）
工種：機器取付工事
P○柱
歩行者用灯器取付
施工状況



場所：○○○（△△△－□□□）
工種：機器取付工事
P○柱
歩行者用灯器取付
施工後

資料－１－１７　　完成図書（参考）

１ ＣＤ－Ｒ

交通信号機工事完成図（ＣＡＤ及びＰＤＦ）データ、交通信号機管理簿（Excel）データ、視覚障害者用付加装置管理表（Excel）データをＣＤ－Ｒに保存して提出すること。

① ＣＤ－Ｒ表示（ラベル）・・・年度 + 工事件名 + 施工会社名
（例） 令和〇年度 第〇回交通信号機〇〇工事　　施工〇〇会社

② フォルダー名・・・交通信号機工事完成図 年度 + 工事件名 + 施工会社名
（例） 交通信号機工事完成図 令和〇年度 第〇回交通信号機〇〇工事 施工〇〇会社
ファイル名、管理番号 + 交差点名 + 完成年月
（例） 01－000 〇〇〇〇 202104

③ フォルダー名、交通信号機管理簿・・・年度 + 工事件名 + 施工会社名
（例） 交通信号機管理簿 令和〇年度 第〇回交通信号機〇〇工事　　施工〇〇会社
ファイル名、管理番号 + 交差点名 + 完成年月 + K
（例） 01－000 〇〇〇〇 202104 K

④ フォルダー名、視覚障害者用付加装置管理表・・・年度 + 工事件名 + 施工会社名
（例） 視覚障害者用付加装置管理表 令和〇年度 第〇回交通信号機〇〇工事 施工〇〇会社
ファイル名、管理番号 + 交差点名 + 完成年月 + S
（例） 01－000 〇〇〇〇 202104 S

※ 数字・記号については半角とする
※ 年度と工事件名、工事件名と施工会社名の間については、半角スペースを開けること。

２ 完成図書目次

① ＣＤ－Ｒ
② 工事写真
※工事写真帳及び完成図書は、同一ファイルを使用（10ｃｍ以内に収まる場合）
③ 交通信号機工事完成図
④ 交通信号機管理簿
以下、必要と認められる成果物等

３ 工事写真及び完成図、管理簿の編綴順序

工事写真及び完成図、管理簿の編綴順序は、工事設計書の目次順に並べて提出すること。

資料－１－１８　　完成図面及び設計図面

交通信号機工事完成図及び設計図については、下記事項に従い作成すること。

１　図面

⑴　図面は、Ａ４サイズとし縮尺どおりに作成すること。

⑵　印刷範囲は、Ａ４ 100%とすること。

２　レイヤー及び図面線色については、以下のとおりとする。

⑴　レイヤー

①　レイヤー　０－０　縮尺１／１・・・ 図面枠

②　レイヤー　１－０　縮尺１／１・・・ 署轄、住所、交差点名、機種、コード、縮尺、階梯図、流図、付近図

③　レイヤー　２－０　縮尺１／道路状況に応じた縮尺・・道路図

④　レイヤー　３－０　縮尺１／道路状況に応じた縮尺・・信号機シンボル、柱番号等文字

⑵　図面線色

①　完成図面線色

・黒線　　道路図、信号シンボル等

・赤線　　工事施工箇所

②　設計図面線色

・黒線　　道路図、信号シンボル等

・赤線　　新設施工箇所

・青線　　撤去施工箇所

・緑線　　撤去（再）施行箇所

３　その他

⑴　道路幅、歩道幅、横断歩道は縮尺どおり作図し、車道・歩道幅を記載すること。

⑵　図面と付近図は同一方向で作図すること。

⑶　現地調査で道路標示矢印がある場合は、図面にも作図すること。

⑷　付近図には、信号機番号及び交差点名を入れること。

⑸　住所記載については、信号制御機の後方の住所を、後方に住所がない場合はその付近を記載すること。地番変更等過去の住所で記載されている場合は、訂正すること。

⑹　図面内に方位マーク（方向）を記載すること。

⑺　電源開閉箱（災害対策用）については、「Ｐ」の横に「災」を記載すること。

⑻　回線集約がある場合、回線集約構成図を図面内記載すること。

⑼　図面のタイトルは、改良工事等の図面は「交通信号機工事完成図」とし、設計委託による図面は、「交通信号機工事設計図」とすること。

付表－１－２

交通信号機工事完成図書式

交通信号機工事完成図

年　月　日 作図 担当

警察署	番地	交差点	機種		コード	―	縮尺	1／

電気番号	店所	作業区	画番号	家番号	枝	CD

凡		例	
☒	制　御　機	☒	制御機（自立式）
⊖⊖⊖	車両用灯器（両面横型）	◁	接続端子箱
⊖⊖⊖	〃　（片面横型）	▽	回線接続箱
⊖	〃　（〃縦型）	Ⓟ	電源開閉器箱
⊖	〃　（矢印灯）	◎	専用柱（ＣＰ）
□	歩行者用灯器	○	〃　（ＳＰ）
⊡	押ボタン箱	⊗	借用柱（電力）
▨	車両感知器	Ⓣ	借用柱（ＮＴＴ）
△	感知器アーム、ヘッド	⊕	照明灯柱
― ― ―	架空線	○	スピーカー
………	地中線	音	視覚障害者用付加装置

ステップ／現示	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	四光

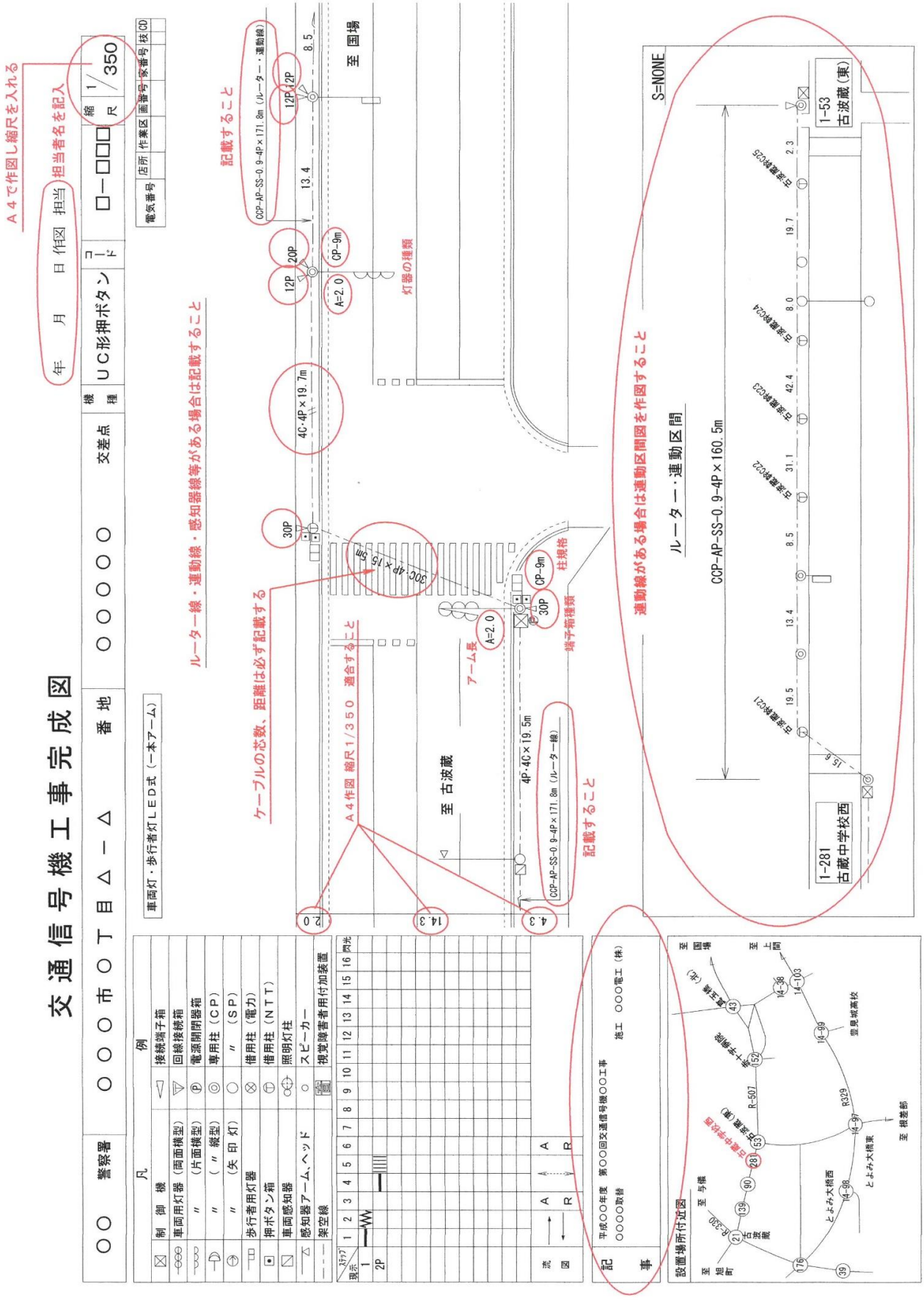
流図	

記事	

設置場所付近図

付図－１－１　交通信号機工事完成図作図基準（参考）

Ａ４ｻｲｽﾞでの作成、縮尺は適切に記載すること。
図面内記載項目は、下記参考図面　参照



付表－１－３

交通信号機管理簿書式

製造年月は西暦で記載すること

交　通　信　号　機　管　理　簿

平成　　年　　月　　日　作成

交差点名称		署轄		コード	－
設置場所					
道路	主	号線	車道 m	歩道 m	設置年月 年 月 日
	従	号線	車道 m	歩道 m	点灯年月 年 月 日

	機種	型式	会社	製造番号	製造年月	発々	二重
制御機							
	制御	□単独	□集中制御	□プロ多段系統	□有線系統	□無線系統	
	機能	連動　　機			交差点と　　連動		
付加機能	視覚障害者用付加装置	□音声式	機種	型式	製造番号	製造年月	会社
		□音響式	運用時間【　　】				
車両感知器		基　感知器ヘッド　　個					

灯器	灯種 / 灯質		車両用 三色	車両用 一色	矢印用 左	矢印用 直	矢印用 右	歩行者灯用(人形)		電球数	
	LED	250φ						LED		60 W	個
	LED	300φ						電球		70 W	個
	電球	300φ									
	計		0	0	0	0	0	計	0		

押ボタン箱	特殊型【　】個	Ⅰ型【　】個	Ⅱ型【　】個	弱者【　】個		
信号柱	専用柱	SP-9m-190　本	SP-9m-165　本	SP-9m-216　本	計	0 本
		CP-9m-500　本	CP-10m-500　本	SP-4.8m-190　本		
	共架柱	電力柱　本	NTT柱　本	照明複合柱　本	計	0 本
表示板	時差式信号機【　】枚	歩車分離【　】枚	バス専用【　】枚			
	【　】枚	【　】枚	その他【　】枚			
	地点名【　】	【　】枚				

年月日	記事
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	

過去に施工された工事も記載すること

現示 \ ステップ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	閃光色
																				周期	オフセット
P0																				0 秒	秒
P1																				0 秒	秒
P2																				0 秒	秒
P3																				0 秒	秒

流図

【パタン切替】　　【特殊日】

日種1(平日)

切替番号	時刻 時	時刻 分	パタン
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
A			

日種2(土曜)

切替番号	時刻 時	時刻 分	パタン
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
A			

日種3(日曜)

切替番号	時刻 時	時刻 分	パタン
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
A			

切替番号	指定日 年	指定日 月	指定日 日	日種
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
A				

【動作切替】

日種1(平日)

切替番号	時刻 時	時刻 分	動作	入切
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
A				

日種2(土曜)

切替番号	時刻 時	時刻 分	動作	入切
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
A				

日種3(日曜)

切替番号	時刻 時	時刻 分	動作	入切
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
A				

動作内容	
動作0	
動作1	
動作2	
動作3	
動作4	
動作5	
動作6	
動作7	
動作8	
動作9	
動作A	

視覚障害者用付加装置　管理表

交差点名	管理番号
設置年月日	
メーカー名	
機種	
形式	
製造番号	
製造年月	
ｽﾋﾟｰｶｰ(ﾋﾟﾖﾋﾟﾖ)	
ｽﾋﾟｰｶｰ(ｶｯｺｰ)	

表1　音量切替時刻設定表

	平日		土曜		休日	
設定順序	時　分	動作	時　分	動作	時　分	動作
1		昼		昼		昼
2		夜		夜		夜
3		切		切		切
4						
5						

表2　音量値設定表

履歴	環境	誘導音1			誘導音2			設定者	設定年月日
		車線	微調		車線	微調			
			昼	夜		昼	夜		
1									
2									
3									
4									

年月日	記事

令和３年４月改訂版

付表－２－１　使　用　材　料　表

名　称			規　格	備　考
機器	1	制御機用架台	1ドアー	溶融亜鉛メッキ又はSUS
	2	〃	2ドアー	〃
	3	架台用アンカーボルト	1ドアー用	溶融亜鉛メッキ
	4	〃	2ドアー用	〃
	5	車両灯器用ストレートアーム	A=4m　振止付	〃
	6	〃	A=2.5～3.5m　振止付	〃
	7	〃	A=2m　以下　振止付	〃
	8	〃	A=1m　振止付	〃
	9	〃	A=0.5m	〃
	10	〃	A=1m　（縦型）	〃
	11	〃	A=0.5m　（縦型）	〃
	12	歩行者灯器用ストレートアーム	A=0.7m	〃
	13	〃	A=1.0m	〃
	14	〃	A=1.2m	〃
	15	〃	A=1.5m	〃
	16	車両用感知器アーム	A=12.5m　振止付	〃
	17	〃	A=12.0m　以下　振止付	〃
	18	〃	A=9.5m　以下　振止付	〃
	19	〃	A=8.0m　以下　振止付	〃
	20	〃	A=7.5m　以下　振止付	〃
	21	〃	A=6.0m　以下　振止付	〃
	22	〃	A=4.0m　以下　振止付	〃
	23	〃	A=1.0m	〃
	24	電源開閉器箱（定額用）	漏電遮断器（2P30A）付	溶融亜鉛メッキ又はSUS
	25	電源開閉器箱（災害対策用）	〃	〃
	26	電源開閉器箱（定額用）H350 ﾀﾞｸﾄ式	〃	〃
	27	電源開閉器箱（災害対策用）H350 ﾀﾞｸﾄ式	〃	〃
	28	電源・回線箱（定額用）H700 ﾀﾞｸﾄ式	〃	〃
	29	電源・回線箱（災害対策用）H700 ﾀﾞｸﾄ式	〃	〃
	30	電源・回線箱　従来型	〃	〃
	31	メーター用電源箱	〃	〃
	32	回線接続箱		〃
	33	回線接続箱（光回線用）H350		〃
	34	回線接続箱（光回線用）H350 ﾀﾞｸﾄ式		〃
	35	制御機用ダクト		溶融亜鉛メッキ
	36	電源箱用ダクト		〃
	37	電源・回線箱用ダクト		〃
	38	押ボタン用ダクト		〃
	39	感知器用ダクト		〃
	40	付加装置用ダクト　底面2面ボルト		〃
	41	付加装置用ダクト　底面4面ボルト		〃
専用柱	1	鋼管柱 定周期灯器用 （直管式）	SP190.7φ-5.3t-9m	溶融亜鉛メッキ
	2	鋼管柱 定周期制御機用 （直管式）	〃	〃
	3	鋼管柱 押ボタン制御機用 （直管式）	〃	〃
	4	鋼管柱 押ボタン灯器用 （直管式）	〃	〃
	5	鋼管柱 車両感知器用 （直管式）	〃	〃
	6	鋼管柱 車両感知器灯器用 （直管式）	〃	〃
	7	鋼管柱 電源灯器用 （直管式）	〃	〃
	8	鋼管柱 定周期灯器用 （直管式）	SP190.7φ-5.3t-10m	〃
	9	鋼管柱 定周期制御機用 （直管式）	〃	〃
	10	鋼管柱 押ボタン制御機用 （直管式）	〃	〃
	11	鋼管柱 押ボタン灯器用 （直管式）	〃	〃
	12	鋼管柱 車両感知器用 （直管式）	〃	〃
	13	鋼管柱 車両感知器灯器用 （直管式）	〃	〃
	14	鋼管柱 電源灯器用 （直管式）	〃	〃
	15	鋼管柱 定周期灯器用 （直管式）	SP216.3φ-5.8t-9m	〃
	16	鋼管柱 定周期制御機用 （直管式）	〃	〃
	17	鋼管柱 押ボタン制御機用 （直管式）	〃	〃
	18	鋼管柱 押ボタン灯器用 （直管式）	〃	〃
	19	鋼管柱 車両感知器用 （直管式）	〃	〃
	20	鋼管柱 車両感知器灯器用 （直管式）	〃	〃
	21	鋼管柱 電源灯器用 （直管式）	〃	〃

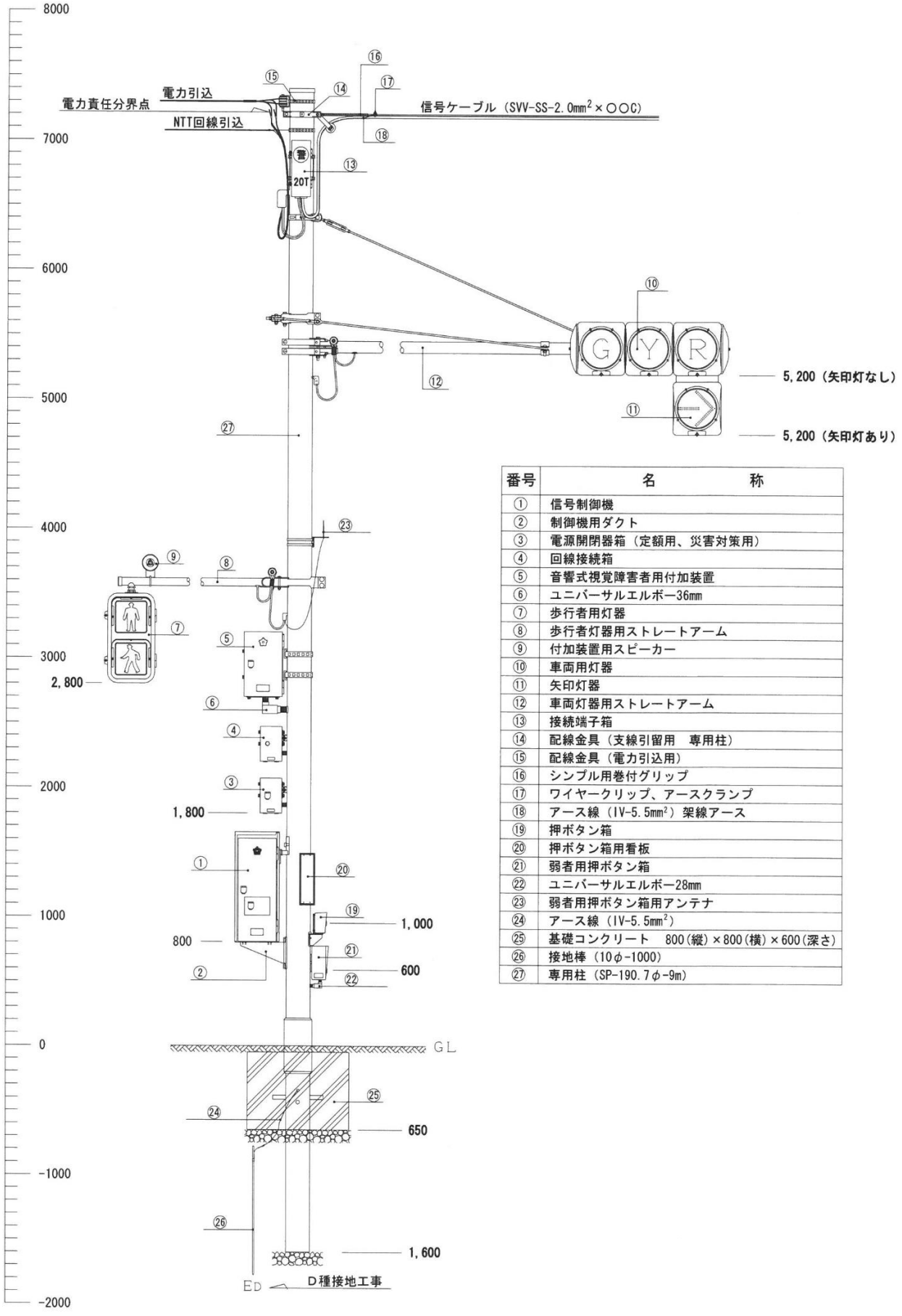
付表－２－２　使　用　材　料　表

名　称			規　格	備　考
専用柱	22	鋼管柱 定周期灯器用 （直管式）	SP216.3φ-5.8t-10m	溶融亜鉛メッキ
	23	鋼管柱 定周期制御機用 （直管式）	〃	〃
	24	鋼管柱 押ボタン制御機用 （直管式）	〃	〃
	25	鋼管柱 押ボタン灯器用 （直管式）	〃	〃
	26	鋼管柱 車両感知器用 （直管式）	〃	〃
	27	鋼管柱 車両感知器灯器用 （直管式）	〃	〃
	28	鋼管柱 電源灯器用 （直管式）	〃	〃
	29	鋼管柱定周期灯器用 （立込式）	SP190.7φ-5.3t-9m	〃
	30	鋼管柱定周期制御機用 （立込式）	〃	〃
	31	鋼管柱押ボタン制御機用 （立込式）	〃	〃
	32	鋼管柱押ボタン灯器用 （立込式）	〃	〃
	33	鋼管柱 車両感知器用 （立込式）	〃	〃
	34	鋼管柱 車両感知器灯器用 （立込式）	〃	〃
	35	鋼管柱 電源灯器用 （立込式）	〃	〃
	36	鋼管柱 歩行者灯器用 （立込式）	SP190.7φ-5.3t-5.5m	〃
	37	鋼管柱定周期灯器用 （立込式）	SP190.7φ-5.3t-10m	〃
	38	鋼管柱定周期制御機用 （立込式）	〃	〃
	39	鋼管柱押ボタン制御機用 （立込式）	〃	〃
	40	鋼管柱押ボタン灯器用 （立込式）	〃	〃
	41	鋼管柱 車両感知器用 （立込式）	〃	〃
	42	鋼管柱 車両感知器灯器用 （立込式）	〃	〃
	43	鋼管柱 電源灯器用 （立込式）	〃	〃
	44	鋼管柱定周期灯器用 （立込式）	SP216.3φ-5.8t-9m	〃
	45	鋼管柱定周期制御機用 （立込式）	〃	〃
	46	鋼管柱押ボタン制御機用 （立込式）	〃	〃
	47	鋼管柱押ボタン灯器用 （立込式）	〃	〃
	48	鋼管柱 車両感知器用 （立込式）	〃	〃
	49	鋼管柱 車両感知器灯器用 （立込式）	〃	〃
	50	鋼管柱 電源灯器用 （立込式）	〃	〃
	51	鋼管柱定周期灯器用 （立込式）	SP216.3φ-5.8t-10m	〃
	52	鋼管柱定周期制御機用 （立込式）	〃	〃
	53	鋼管柱押ボタン制御機用 （立込式）	〃	〃
	54	鋼管柱押ボタン灯器用 （立込式）	〃	〃
	55	鋼管柱 車両感知器用 （立込式）	〃	〃
	56	鋼管柱 車両感知器灯器用 （立込式）	〃	〃
	57	鋼管柱 電源灯器用 （立込式）	〃	〃
	58	コンクリート柱	CP9m-19cm-500kg	
	59	コンクリート柱	CP10m-19cm-500kg	
材料	1	600Vﾋﾞﾆﾙ絶縁電線 IV5.5㎟	JIS C 3307	
	2	600Vﾋﾞﾆﾙ絶縁ﾋﾞﾆﾙｼｰｽｹｰﾌﾞﾙ(丸型) VVR-5.5㎟×2C	JIS C 3342	
	3	600Vﾋﾞﾆﾙ絶縁ﾋﾞﾆﾙｼｰｽｹｰﾌﾞﾙ(平型) VVF-1.6mm×2C	〃	
	4	屋外線 ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ絶縁ﾋﾞﾆﾙｼｰｽ巻付形SS 065mm×1P		
	5	SVV-2.0㎟ × 2C	JRS36203-3C-14AROC	旧国鉄規格
	6	SVV-2.0㎟ × 4C	〃	〃
	7	SVV-2.0㎟ × 6C	〃	〃
	8	SVV-2.0㎟ × 8C	〃	〃
	9	SVV-2.0㎟ × 12C	〃	〃
	10	SVV-2.0㎟ × 19C	〃	〃
	11	SVV-2.0㎟ × 30C	〃	〃
	12	SVV-SSD-2.0㎟ × 2C	〃	〃
	13	SVV-SSD-2.0㎟ × 4C	〃	〃
	14	SVV-SSD-2.0㎟ × 6C	〃	〃
	15	SVV-SSD-2.0㎟ × 8C	〃	〃
	16	SVV-SSD-2.0㎟ ×12C	〃	〃
	17	SVV-SSD-2.0㎟ ×19C	〃	〃
	18	SVV-SSD-2.0㎟ ×30C	〃	〃
	19	CCP-AP-0.9mm × 4P	JCS 9072	
	20	CCP-AP-0.9mm × 10P	〃	

付表－２－３　使　用　材　料　表

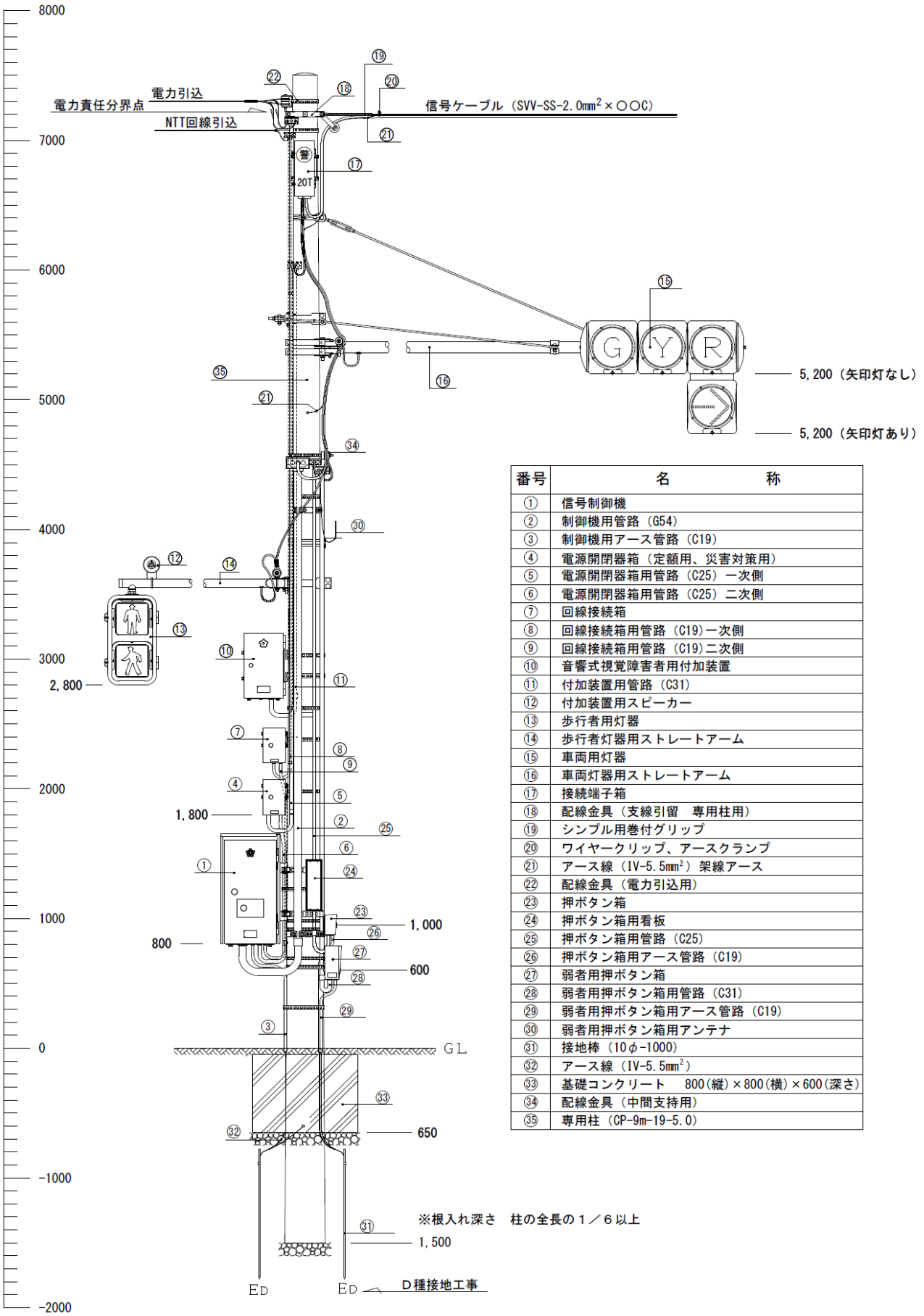
		名　称	規　格	備　考
	21	CCP-AP-0.9mm × 20P	JCS 9072	
	22	CCP-AP-SS-0.9mm × 4P	〃	
	23	CCP-AP-SS-0.9mm × 10P	〃	
	24	CCP-AP-SS-0.9mm × 20P	〃	
	25	接続端子箱 10P	通信用　　取付金具付	SUS
	26	接続端子箱 20P	〃　　〃	〃
	27	接続端子箱 12T	挿入式　　取付金具付	〃
	28	接続端子箱 20T	〃　　〃	〃
	29	接続端子箱 30T	〃　　〃	〃
	30	接続端子台 12T	挿入式　　鋼管柱内取付	
	31	接続端子台 20T	〃　　〃	
	32	接続端子台 30T	〃　　〃	
	33	支持金具	IBT-212 370φ以内	溶融亜鉛メッキ
	34	〃	IBT-208 250φ以内	〃
	35	支持引留金具	D形 160φ	〃
	36	〃	D形 190φ	〃
	37	〃	D形 210φ	〃
	38	〃	4BD-HD-12 120φ～195φ	〃
	39	〃	4BD-HD-17 170φ～265φ	〃
	40	〃	4BD-HD-23 230φ～325φ	〃
	41	直付吊架金具	WLH-1	〃
	42	〃	WLH-2	〃
	43	槍出金具用アーム	DCA－60	〃
	44	〃	DCA－100	〃
	45	槍出金具用芯付ﾊﾞﾝﾄﾞ	DCBD-17	〃
	46	〃	DCBD-23	〃
	47	〃	DCBD-28	〃
	48	低圧引留碍子	75φ×65	
材	49	シンブル	14㎟～22㎟用	溶融亜鉛メッキ
料	50	ストラップ	108mm×32mm 2.3t	〃
	51	ボルトナット	M12×100	〃
	52	多溝碍子	低圧用 2溝用	
	53	低圧用ラック		溶融亜鉛メッキ
	54	柱間分岐金具	TWBC-1	〃
	55	巻付けグリップ	18㎟ シンブル用	
	56	〃	22㎟ シンブル用	
	57	ワイヤークリップ	14㎟～24㎟用	
	58	ラッシングロッド	2号 L＝750	
	59	〃	3号 L＝750	
	60	〃	2号 L＝1000	
	61	〃	3号 L＝1000	
	62	接地棒	10φ×1000	
	63	両端角度調整金具	照明柱用	溶融亜鉛メッキ
	64	表示板(時差式信号機)	1200mm×300mm t3 灯器下取付型	
	65	〃	1200mm×300mm t3 アーム取付型	
	66	表示板(歩車分離式)	1200mm×300mm t3 灯器下取付型	
	67	〃	1200mm×300mm t3 アーム取付型	
	68	表示板(時差式信号機)	1000mm×250mm t3 灯器下取付型	
	69	〃	1000mm×250mm t3 アーム取付型	
	70	表示板(歩車分離式)	1000mm×250mm t3 灯器下取付型	
	71	〃	1000mm×250mmmm t3 アーム取付型	
	72	ユニバーサルエルボー	70mm	溶融亜鉛メッキ
	73	〃	54mm	〃
	74	〃	42mm	〃
	75	〃	36mm	〃
	76	〃	28mm	〃
	77	〃	22mm	〃
	78	電源用SPD	クラスⅡ、単相2線110V AC	

付図－３－１　交通信号機標準構成図（鋼管柱）　S= 1/40



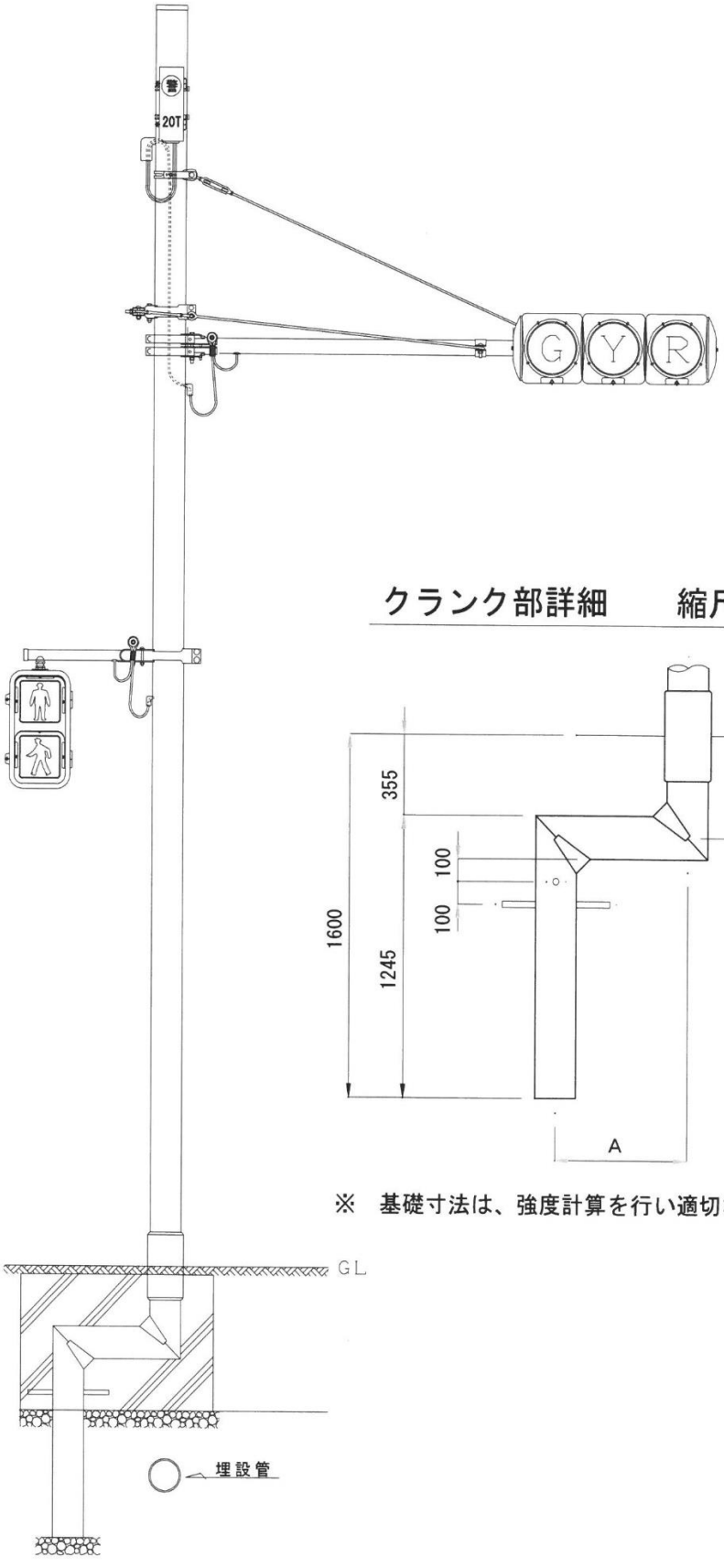
番号	名　　称
①	信号制御機
②	制御機用ダクト
③	電源開閉器箱（定額用、災害対策用）
④	回線接続箱
⑤	音響式視覚障害者用付加装置
⑥	ユニバーサルエルボー36mm
⑦	歩行者用灯器
⑧	歩行者灯器用ストレートアーム
⑨	付加装置用スピーカー
⑩	車両用灯器
⑪	矢印灯器
⑫	車両灯器用ストレートアーム
⑬	接続端子箱
⑭	配線金具（支線引留用　専用柱）
⑮	配線金具（電力引込用）
⑯	シンブル用巻付グリップ
⑰	ワイヤークリップ、アースクランプ
⑱	アース線（IV-5.5mm²）架線アース
⑲	押ボタン箱
⑳	押ボタン箱用看板
㉑	弱者用押ボタン箱
㉒	ユニバーサルエルボー28mm
㉓	弱者用押ボタン箱用アンテナ
㉔	アース線（IV-5.5mm²）
㉕	基礎コンクリート　800(縦)×800(横)×600(深さ)
㉖	接地棒（10φ-1000）
㉗	専用柱（SP-190.7φ-9m）

付図－３－２　交通信号機標準構成図（コン柱）　S= 1/40



番号	名　　称
①	信号制御機
②	制御機用管路（G54）
③	制御機用アース管路（C19）
④	電源開閉器箱（定額用、災害対策用）
⑤	電源開閉器箱用管路（C25）一次側
⑥	電源開閉器箱用管路（C25）二次側
⑦	回線接続箱
⑧	回線接続箱用管路（C19）一次側
⑨	回線接続箱用管路（C19）二次側
⑩	音響式視覚障害者用付加装置
⑪	付加装置用管路（C31）
⑫	付加装置用スピーカー
⑬	歩行者用灯器
⑭	歩行者灯器用ストレートアーム
⑮	車両用灯器
⑯	車両灯器用ストレートアーム
⑰	接続端子箱
⑱	配線金具（支線引留　専用柱用）
⑲	シンプル用巻付グリップ
⑳	ワイヤークリップ、アースクランプ
㉑	アース線（IV-5.5mm²）架線アース
㉒	配線金具（電力引込用）
㉓	押ボタン箱
㉔	押ボタン箱用看板
㉕	押ボタン箱用管路（C25）
㉖	押ボタン箱用アース管路（C19）
㉗	弱者用押ボタン箱
㉘	弱者用押ボタン箱用管路（C31）
㉙	弱者用押ボタン箱用アース管路（C19）
㉚	弱者用押ボタン箱用アンテナ
㉛	接地棒（10φ-1000）
㉜	アース線（IV-5.5mm²）
㉝	基礎コンクリート　800(縦)×800(横)×600(深さ)
㉞	配線金具（中間支持用）
㉟	専用柱（CP-9m-19-5.0）

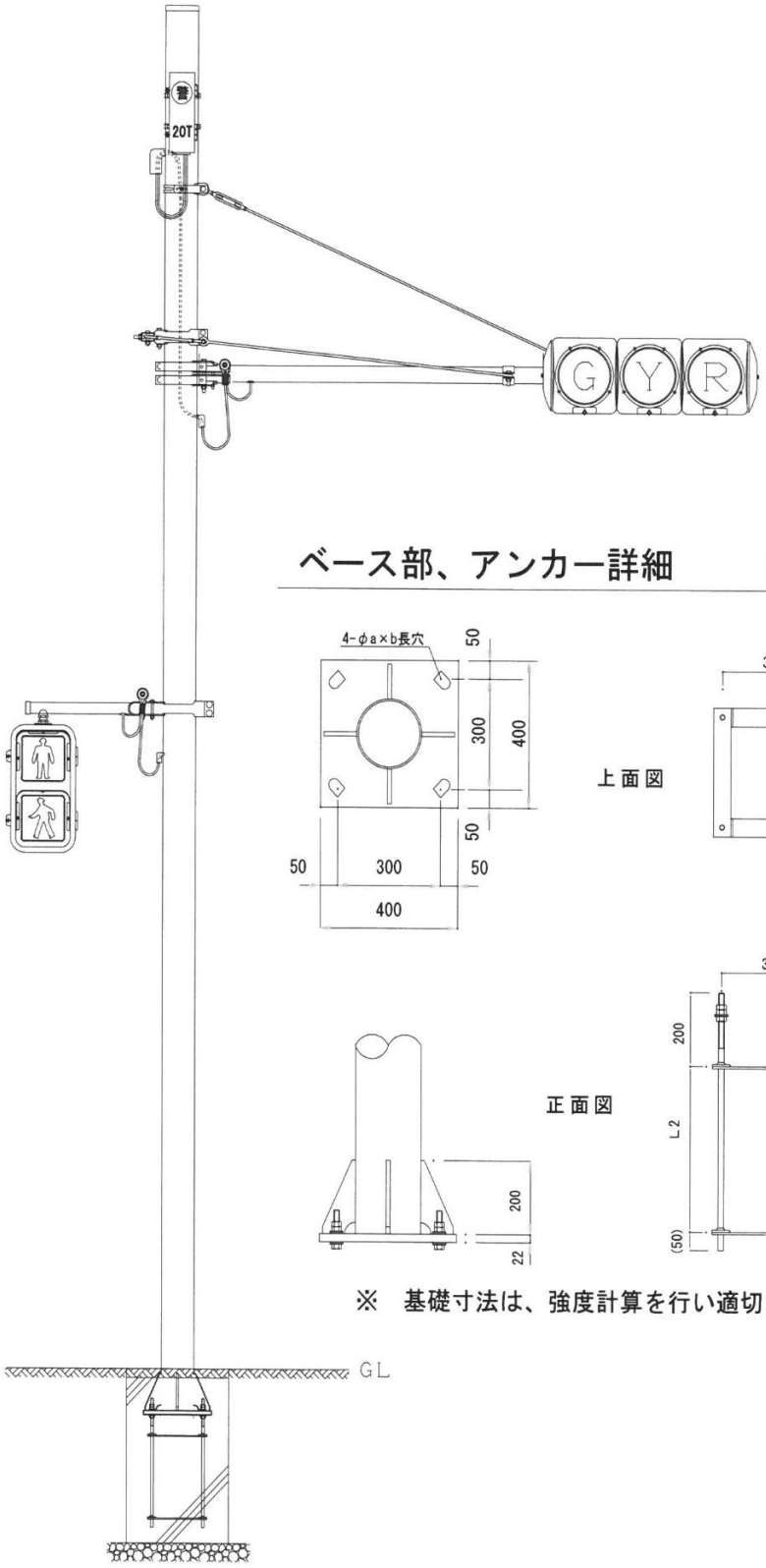
付図－３－３　　クランク加工柱　　S= 1/40



クランク部詳細　　縮尺 1/30

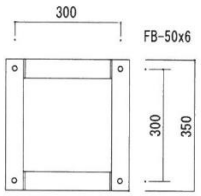
※　基礎寸法は、強度計算を行い適切な基礎とする

付図－３－４　　ベ ー ス 加 工 柱　　S= 1/40

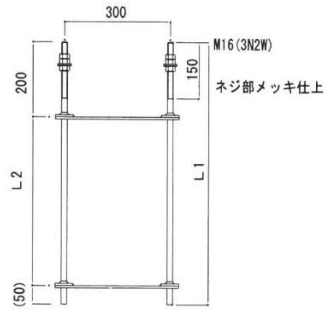


ベース部、アンカー詳細　　縮尺 1/20

上面図



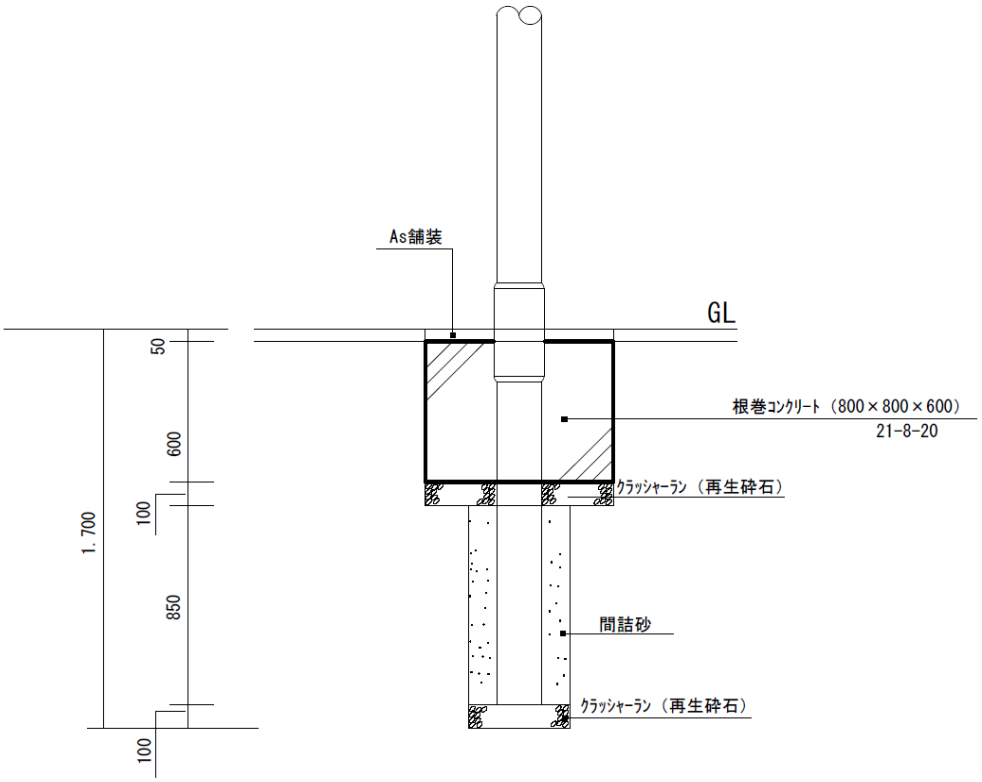
正面図



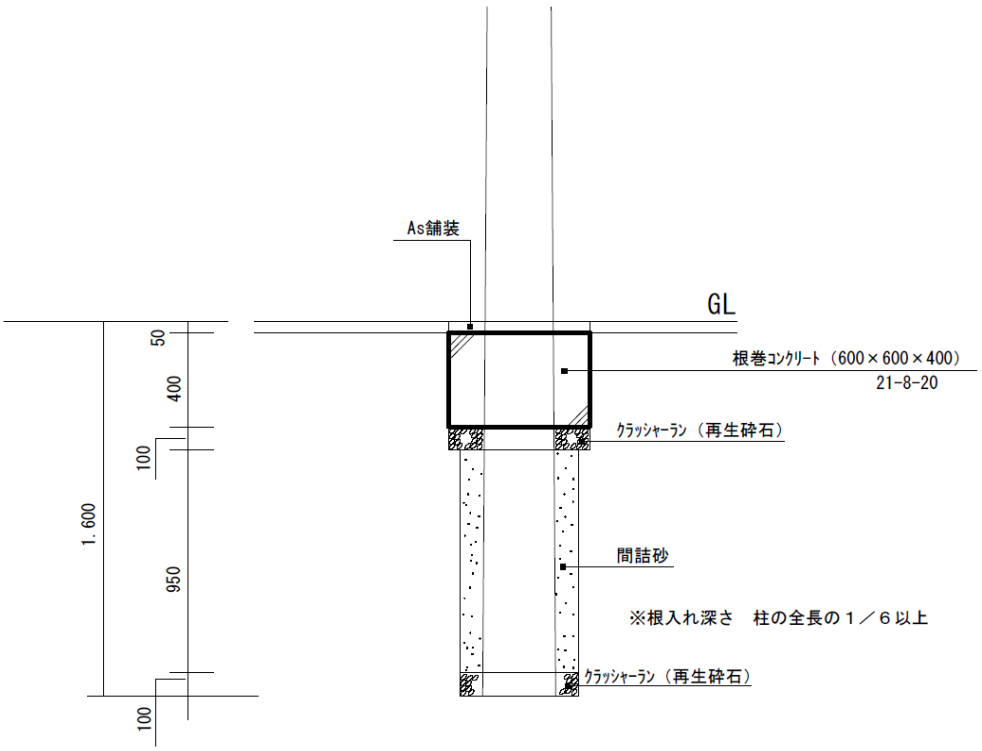
※　基礎寸法は、強度計算を行い適切な基礎とする

付図－３－５　　基　礎　出　来　形　　S= 1/30

信号機、感知器柱
（幅800×奥行800×深さ600）

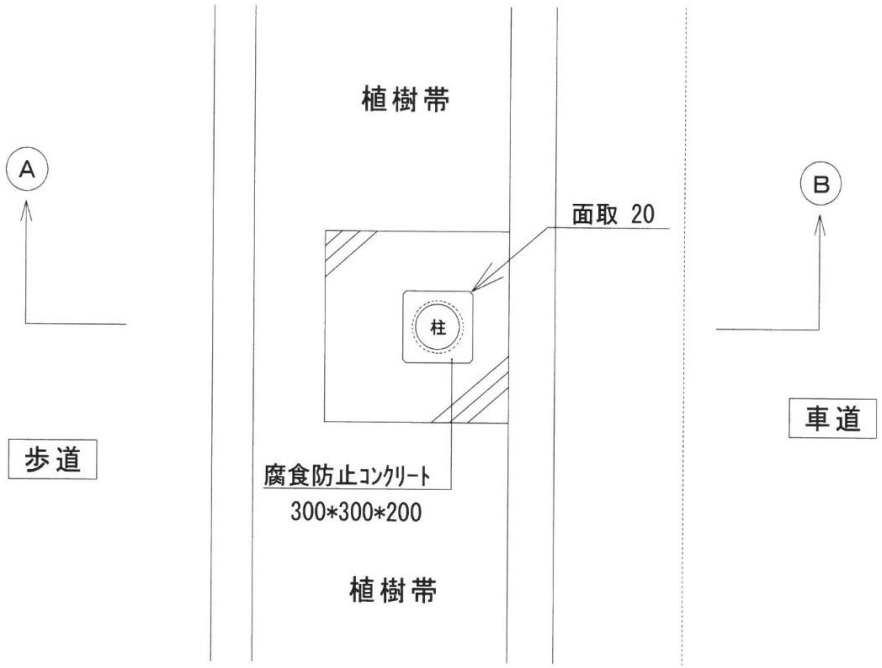


中継柱（コン柱）
（幅600×奥行600×深さ400）

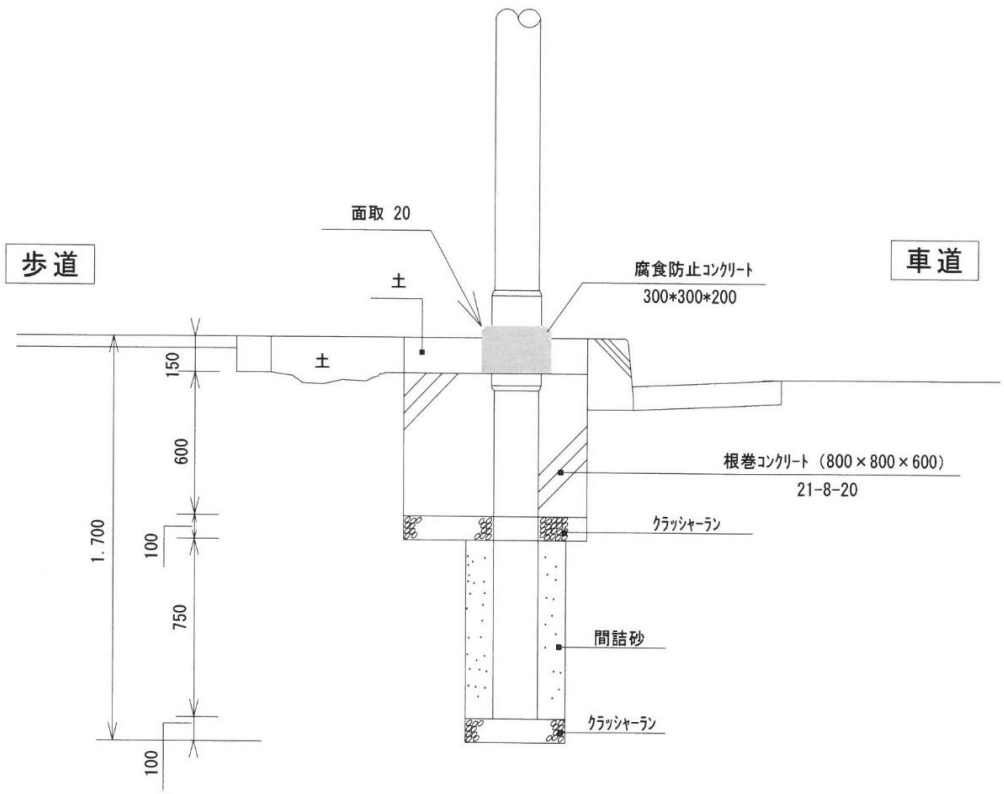


付図－３－６　鋼管柱（地際）腐食防止　S= 1/30

平　面　図　S＝1/30

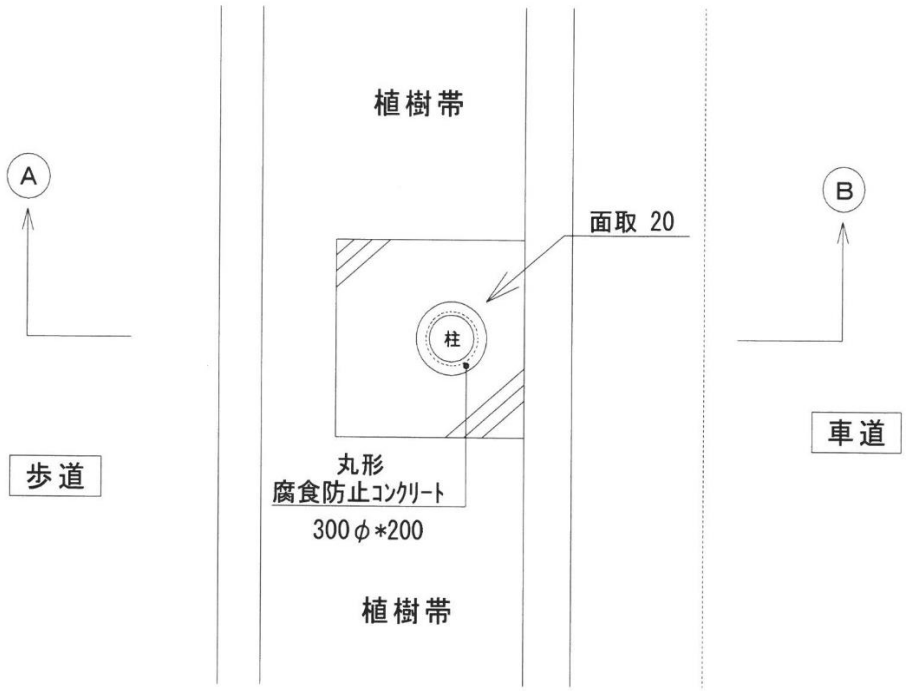


Ⓐ～Ⓑ　断　面　図　S＝1/30

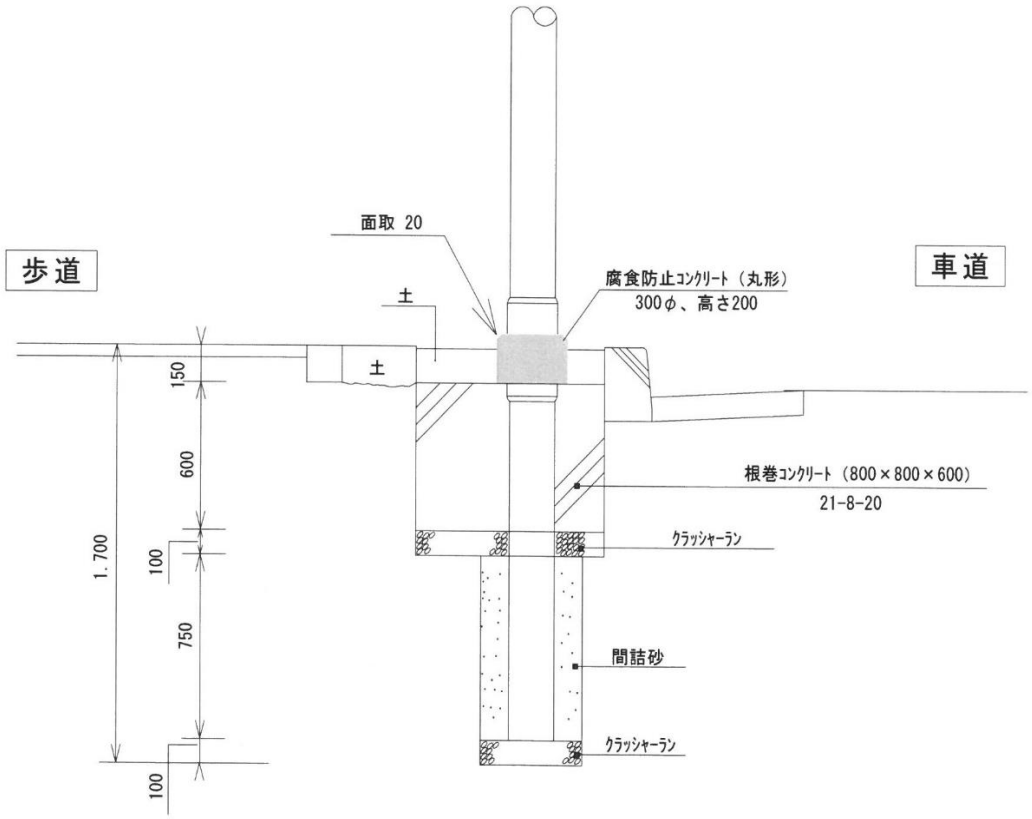


付図－３－７　鋼管柱（地際）腐食防止　S= 1/30

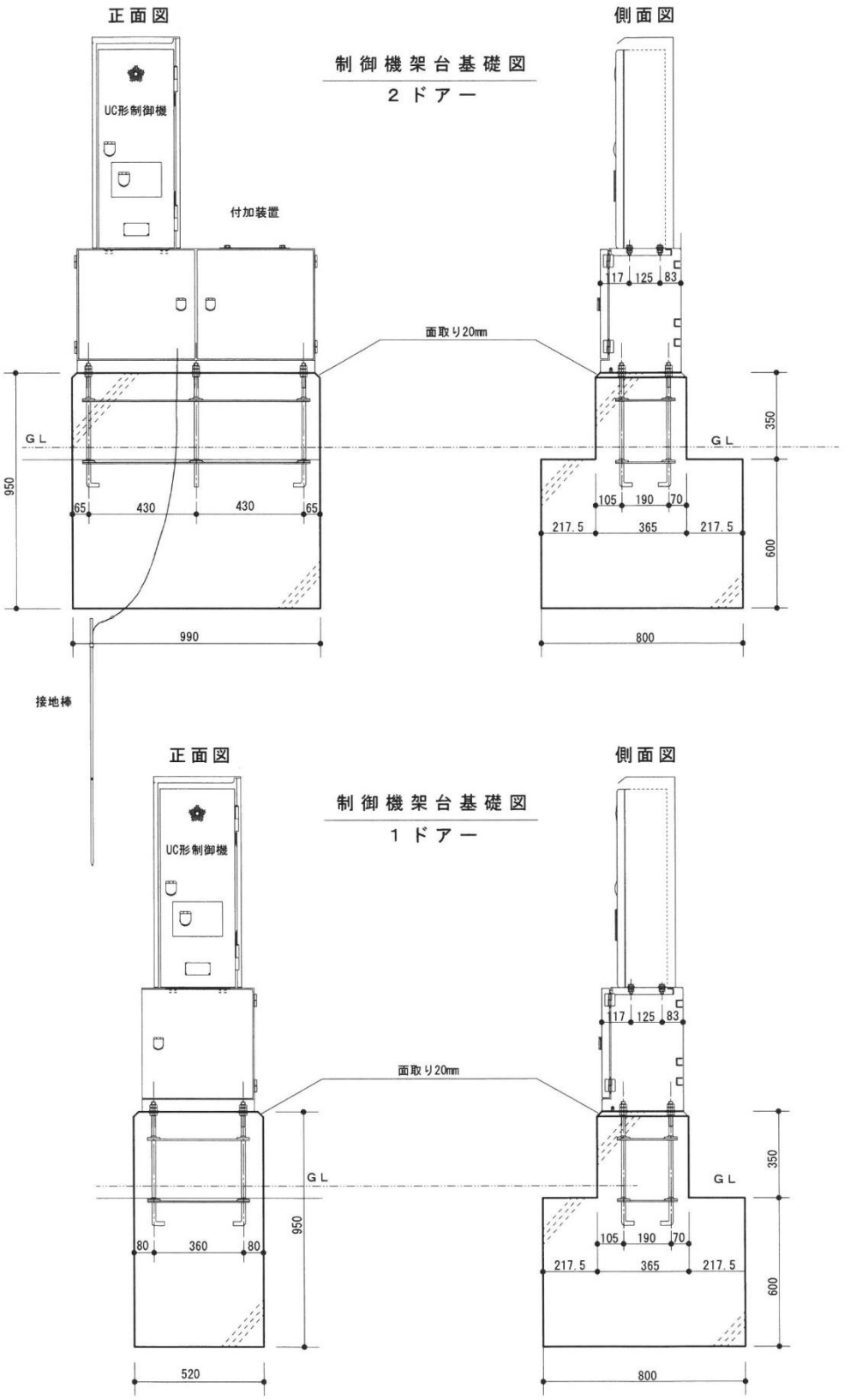
平　面　図　S＝1/30



Ⓐ～Ⓑ　断　面　図　S＝1/30



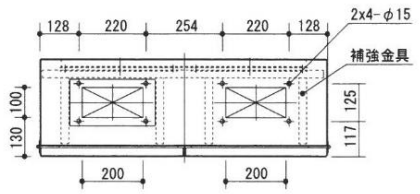
付図－３－８　　制 御 機 自 立 式　　S= 1/25



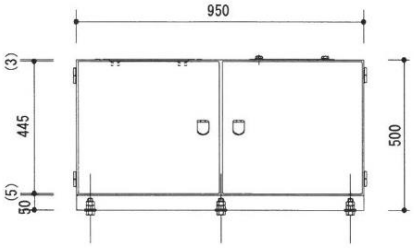
付図－３－９　制御機架台・アンカー　S= 1/25

制御機架台図
２ドアー

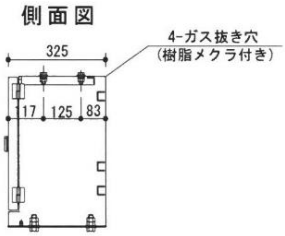
上面図



正面図

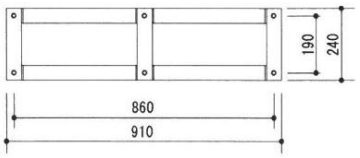


側面図

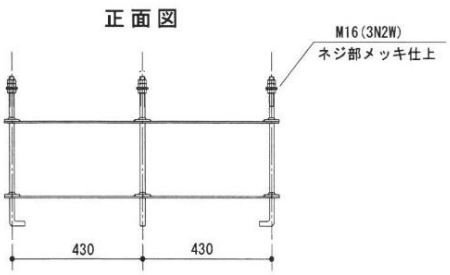


架台アンカー図
２ドアー用

上面図



正面図



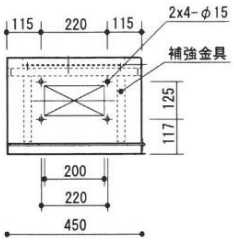
側面図

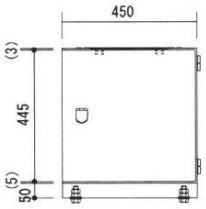


付図－３－１０　制御機架台・アンカー　S= 1/25

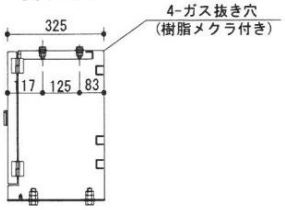
制御機架台図
１ドアー

上面図



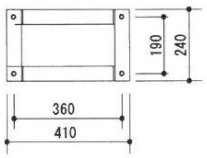


側面図

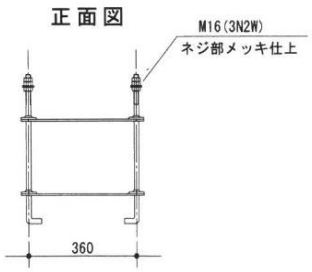


架台アンカー図
１ドアー用

上面図



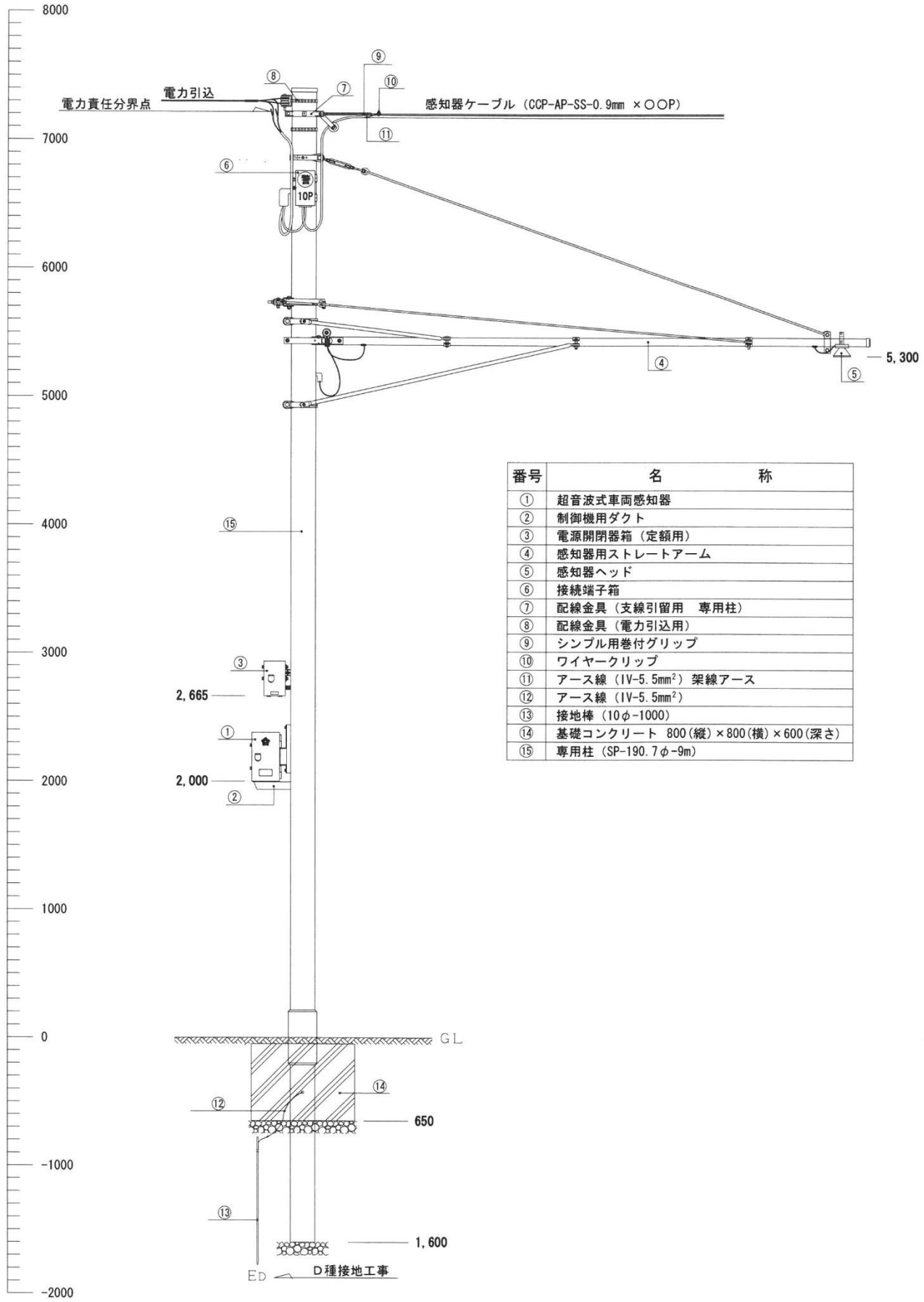
正面図



側面図

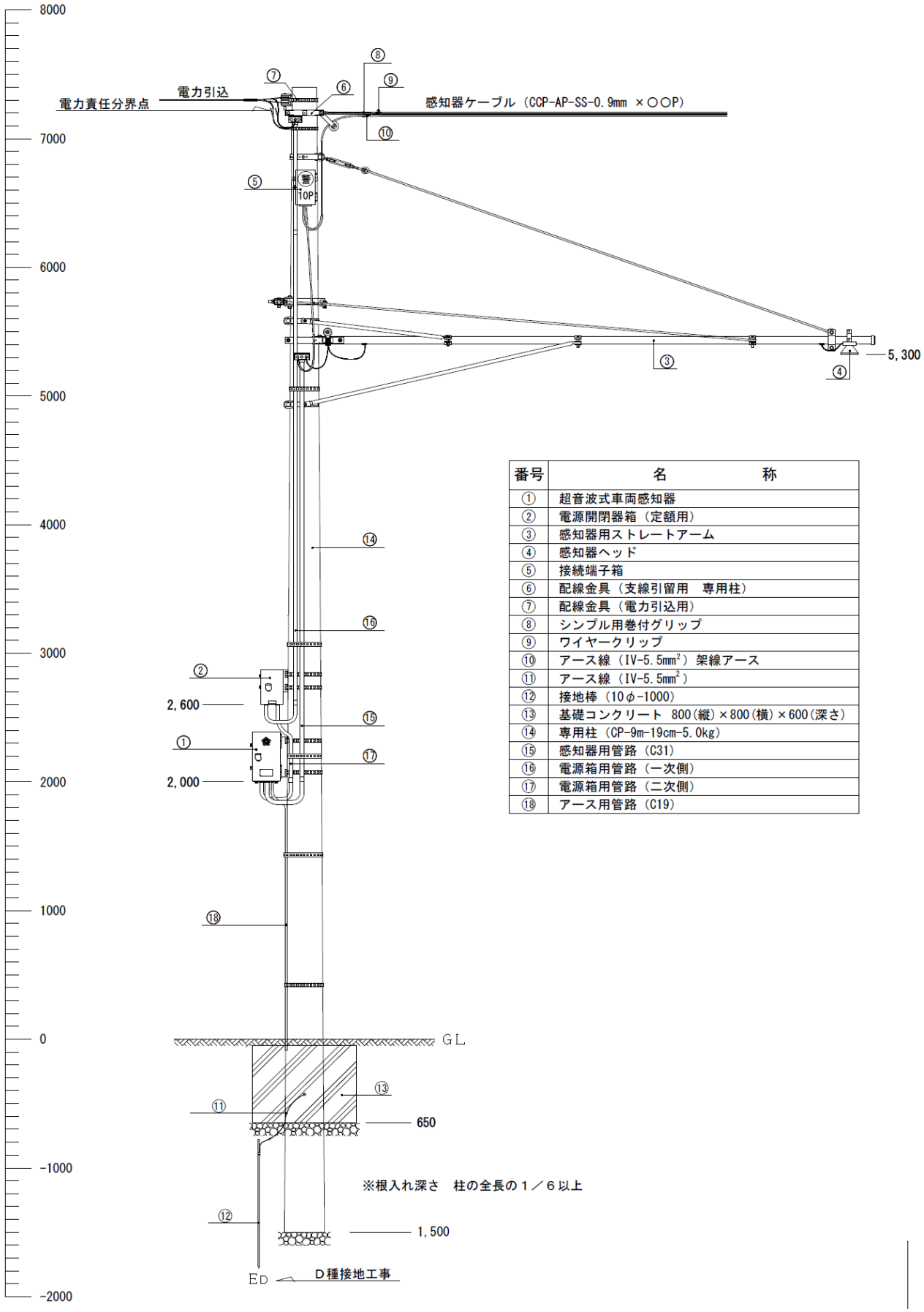


付図－３－１１　車両感知器標準構成図（鋼管柱）　S= 1/40



番号	名　　称
①	超音波式車両感知器
②	制御機用ダクト
③	電源開閉器箱（定額用）
④	感知器用ストレートアーム
⑤	感知器ヘッド
⑥	接続端子箱
⑦	配線金具（支線引留用　専用柱）
⑧	配線金具（電力引込用）
⑨	シンブル用巻付グリップ
⑩	ワイヤークリップ
⑪	アース線（IV-5.5mm²）架線アース
⑫	アース線（IV-5.5mm²）
⑬	接地棒（10φ-1000）
⑭	基礎コンクリート　800(縦)×800(横)×600(深さ)
⑮	専用柱（SP-190.7φ-9m）

付図－３－１２　車両感知器標準構成図（コン柱）　S= 1/40



番号	名　　称
①	超音波式車両感知器
②	電源開閉器箱（定額用）
③	感知器用ストレートアーム
④	感知器ヘッド
⑤	接続端子箱
⑥	配線金具（支線引留用　専用柱）
⑦	配線金具（電力引込用）
⑧	シンプル用巻付グリップ
⑨	ワイヤークリップ
⑩	アース線（IV-5.5mm²）架線アース
⑪	アース線（IV-5.5mm²）
⑫	接地棒（10φ-1000）
⑬	基礎コンクリート　800(縦)×800(横)×600(深さ)
⑭	専用柱（CP-9m-19cm-5.0kg）
⑮	感知器用管路（C31）
⑯	電源箱用管路（一次側）
⑰	電源箱用管路（二次側）
⑱	アース用管路（C19）

付表－３－１　ケーブル・電線　数量表

制御機用ケーブル

区　間	種　類	積算数
制御機～接続端子箱 （コン柱　架空配線）	SVV-2.0㎟ × ○○c	9.0m
制御機～接続端子箱 （鋼管柱　架空配線）	SVV-2.0㎟ × ○○c	11.0m
制御機～鋼管柱内接続端子台 （鋼管柱　地中配線）	SVV-2.0㎟ × ○○c	4.0m
制御機～制御機架台内接続端子台 （鋼管柱　地中配線）	SVV-2.0㎟ × ○○c	3.0m

信号機用電源ケーブル、電線

区　間	種　類	積算数
電源開閉器箱～電力責任分界点	IV5.5㎟ （白）1本	8.0m
〃	IV5.5㎟ （黒）1本	8.0m
電源開閉器箱～信号制御機	IV5.5㎟ （白）1本	3.0m
〃	IV5.5㎟ （黒）1本	3.0m
（コン柱　架空配線）	合計	22m
電源開閉器箱～電力責任分界点	VVR-5.5㎟-2c	7.5m
電源開閉器箱～信号制御機	VVR-5.5㎟-2c	3.5m
（鋼管柱　架空配線）	合計	11m
電源開閉器箱～信号制御機 （鋼管柱　地中配線）	VVR-5.5㎟-2c	3.0m
制御機架台内漏電遮断機～信号制御機 （鋼管柱　地中配線）	VVR-5.5㎟-2c	3.0m

車両感知器用（光ビーコン）電源ケーブル、電線

区　間	種　類	積算数
電源開閉器箱～電力責任分界点	IV5.5㎟ （白）1本	6.0m
〃	IV5.5㎟ （黒）1本	6.0m
電源開閉器箱～感知器制御機	IV5.5㎟ （白）1本	2.0m
〃	IV5.5㎟ （黒）1本	2.0m
（コン柱　架空配線）	合計	16.0m
電源開閉器箱～電力責任分界点	VVR-5.5㎟-2c	7.0m
電源開閉器箱～感知器制御機	VVR-5.5㎟-2c	2.0m
（鋼管柱　架空配線）	合計	9.0m
電源開閉器箱～感知器制御機 （鋼管柱　地中配線）	VVR-5.5㎟-2c	2.0m

車両用感知器ケーブル

区　間	種　類	積算数
車両用感知器～接続端子箱 （コン柱　架空配線）	SVV-2.0㎟ × ○c CCP-AP-0.9mm×○p	7.0m
車両用感知器～接続端子箱 （鋼管柱　架空配線）	SVV-2.0㎟ × ○c CCP-AP-0.9mm×○p	8.0m
車両用感知器～接続端子台 （鋼管柱　地中配線）	SVV-2.0㎟ × ○c CCP-AP-0.9mm×○p	4.0m

視覚障害者用付加装置ケーブル

区　間	種　類	積算数
視覚障害者用付加装置～接続端子箱 （コン柱　架空配線）	SVV-2.0㎟ × 12c	7.0m
視覚障害者用付加装置～接続端子箱 （鋼管柱　架空配線）	SVV-2.0㎟ × 12c	8.0m
視覚障害者用付加装置～接続端子台 （鋼管柱　地中配線）	SVV-2.0㎟ × 12c	4.0m

接地線（アース）

区　間	種　類	積算数
信号制御機	IV5.5㎟ （緑）	3.0m
電源開閉器箱	IV5.5㎟ （緑）	2.0m
回線接続箱	IV5.5㎟ （緑）	3.0m
視覚障害者用付加装置	IV5.5㎟ （緑）	4.0m
押ボタン箱	IV5.5㎟ （緑）	2.0m
車両感知器	IV5.5㎟ （緑）	4.0m
架線	IV5.5㎟ （緑）	10.0m
架線渡り	IV5.5㎟ （緑）	1.0m

灯器用ケーブル（コン柱　架空配線）

区　間	種　類	積算数
車両用灯器～接続端子箱 車灯ストレートアーム長　A=0.5～1.0M	SVV-2.0㎟ × ○c	6.0m
車両用灯器～接続端子箱 車灯ストレートアーム長　A=1.5～2.0M	SVV-2.0㎟ × ○c	7.0m
車両用灯器～接続端子箱 車灯ストレートアーム長　A=2.5～3.0M	SVV-2.0㎟ × ○c	8.0m
車両用灯器～接続端子箱 車灯ストレートアーム長　A=3.5～4.0M	SVV-2.0㎟ × ○c	9.0m
歩行者用灯器～接続端子箱 歩灯ストレートアーム長　A=0.7M	SVV-2.0㎟ ×4c	7.0m

灯器用ケーブル（鋼管柱　架空配線）

区　間	種　類	積算数
車両用灯器～接続端子箱 車灯ストレートアーム長　A=0.5M	SVV-2.0㎟ × ○c	6.0m
車両用灯器～接続端子箱 車灯ストレートアーム長　A=1.0～1.5M	SVV-2.0㎟ × ○c	7.0m
車両用灯器～接続端子箱 車灯ストレートアーム長　A=2.0～2.5M	SVV-2.0㎟ × ○c	8.0m
車両用灯器～接続端子箱 車灯ストレートアーム長　A=3.0～3.5M	SVV-2.0㎟ × ○c	9.0m
車両用灯器～接続端子箱 車灯ストレートアーム長　A=4.0M	SVV-2.0㎟ × ○c	10.0m
歩行者用灯器～接続端子箱 歩灯ストレートアーム長　A=0.7M	SVV-2.0㎟ ×4c	9.0m

灯器用ケーブル（鋼管柱　地中配線）

区　間	種　類	積算数
車両用灯器～接続端子台 車灯ストレートアーム長　A=0.5M	SVV-2.0㎟ × ○c	10.0m
車両用灯器～接続端子台 車灯ストレートアーム長　A=1.0.～1.5M	SVV-2.0㎟ × ○c	11.0m
車両用灯器～接続端子台 車灯ストレートアーム長　A=2.0～2.5M	SVV-2.0㎟ × ○c	12.0m
車両用灯器～接続端子台 車灯ストレートアーム長　A=3.0～3.5M	SVV-2.0㎟ × ○c	13.0m
車両用灯器～接続端子台 車灯ストレートアーム長　A=4.0M	SVV-2.0㎟ × ○c	14.0m
歩行者用灯器～接続端子台 歩灯ストレートアーム長　A=0.7M	SVV-2.0㎟ ×4c	7.0m

車灯用ケーブル共通項目

区　間	種　類	積算数
車両用灯器 両面（渡りケーブル）	SVV-2.0㎟ × 4c	2.0m
車両用灯器 矢印灯（渡りケーブル）	SVV-2.0㎟ × 2c	1.0m

※　車両用灯器（片面）　SVV-2.0㎟ × 4c
※　車両用灯器（片面）矢印灯　SVV-2.0㎟ × 6c
※　車両用灯器（両面）時差式　SVV-2.0㎟ × 8c

押ボタン箱用ケーブル

区　間	種　類	積算数
コン柱　架空配線	SVV-2.0㎟ × 4c	7.0m
鋼管柱　架空配線	SVV-2.0㎟ × 4c	8.0m
鋼管柱　地中配線	SVV-2.0㎟ × 4c	2.0m

弱者用押ボタン箱ケーブル

区　間	種　類	積算数
コン柱　架空配線	SVV-2.0㎟ × 8c	8.0m
鋼管柱　架空配線	SVV-2.0㎟ × 8c	9.0m
鋼管柱　地中配線	SVV-2.0㎟ × 8c	2.0m

付表－３－２　制御機用ケーブル長計算式

（定周期制御機用　SVV－2.0㎟ × 19C・30C、押ボタン制御機用　SVV－2.0㎟ × 12C）

１．コン柱、架空配線 （制御機～接続端子箱） 9.0m

1000+(4560×1.1)+2000+1000＝9016≒9.0m

① ＋（② × ③）＋ ④ ＋ ⑤

① 制御機内成端処理長

② 制御機用管路長

③ 制御機用管路内補正値

④ エントランス水切り～接続端子箱までの長さ

⑤ 接続端子箱成端処理長

２．鋼管柱、架空配線 （制御機～接続端子箱） 11.0m

1000+(6500×1.1)+2000+1000＝11150≒11m

① ＋（② × ③）＋ ④ ＋ ⑤

① 制御機内成端処理長

② エルボー(ダクト)～鋼管柱上部ケーブル取出孔までの長さ

③ 鋼管柱内補正値

④ ケーブル取出孔水切り～接続端子箱までの長さ

⑤ 接続端子箱成端処理長

３．鋼管柱、地中配線 （制御機～鋼管柱内接続端子台） 4.0m

1000+(1500×1.1)+1500＝4150≒4m

① ＋（② × ③）＋ ④ ＋ ⑤

① 制御機内成端処理長

② エルボー(ダクト)～鋼管柱内接続端子台までの長さ

③ 鋼管柱内補正値

④ 接続端子台成端処理長

４．鋼管柱、地中配線 （制御機～制御機架台内接続端子台） 3.0m

1000+2000＝3000≒3m

① ＋ ②

① 制御機内成端処理長

② 制御機～架台接続端子台までの長さ

付表－３－３　　電源箱用ケーブル長計算式

コン柱　(IV(600V)5.5㎟　２本)　、　鋼管柱(VVR(600V)5.5㎟×2C)

１．コン柱、架空配線　(電源開閉器箱～電力責任分界点)　　一次側

600 + (5300×1.1) + 800＝7230

① ＋(② × ③)＋ ④

コン柱、架空配線　(電源開閉器箱～制御機)　　二次側

600 + (1300×1.1) + 900＝2930

①　＋(⑤ × ⑥) ＋ ⑦

一次側 + 二次側 ＝7230 + 2930＝10.160 ≒ 11.0m × 2

① 電源開閉器箱内成端処理長(一次側)
② 電源開閉器箱用管路長
③ 電源開閉器箱管路内補正値
④ エントランス水切り～責任分界点までの長さ

① 電源開閉器箱内成端処理長(二次側)
⑤ 電源開閉器箱用管路長
⑥ 電源開閉器箱管路内補正値
⑦ 制御機内成端処理長

２．鋼管柱、架空配線　(電源開閉器箱～電力責任分界点)　一次側

500+(4745×1.1)+1500＝7219

① ＋(② × ③)＋ ④

鋼管柱、架空配線　(電源開閉器箱～制御機)　　二次側

500+(1.230×1.1)+1500＝3353

①　＋(⑤ × ⑥) ＋ ⑦

一次側 + 二次側 ＝ 7219 + 3353＝10.572 ≒ 11.0m

① 電源開閉器箱内成端処理長(一次側)
② 電源開閉器箱～鋼管柱上部ケーブル取出孔までの長さ
③ 鋼管柱内補正値
④ ケーブル取出孔水切り～責任分界点までの長さ

① 電源開閉器箱内成端処理長(二次側)
⑤ 電源開閉器箱～制御機までの長さ
⑥ 鋼管柱内補正値
⑦ 制御機内成端処理長

３．鋼管柱、地中配線　(電源開閉器箱～制御機)　二次側　**3.0m**

500+(1150×1.1)+1000＝2.765 ≒ 3.0m

①　＋(② × ③)＋ ④

① 電源開閉器箱内成端処理長(二次側)
② 電源開閉器箱～制御機までの長さ
③ 鋼管柱内補正値
④ 制御機内成端処理長

４．鋼管柱、地中配線　(制御機～制御機架台内漏電ブレーカー)二次側　**3.0m**

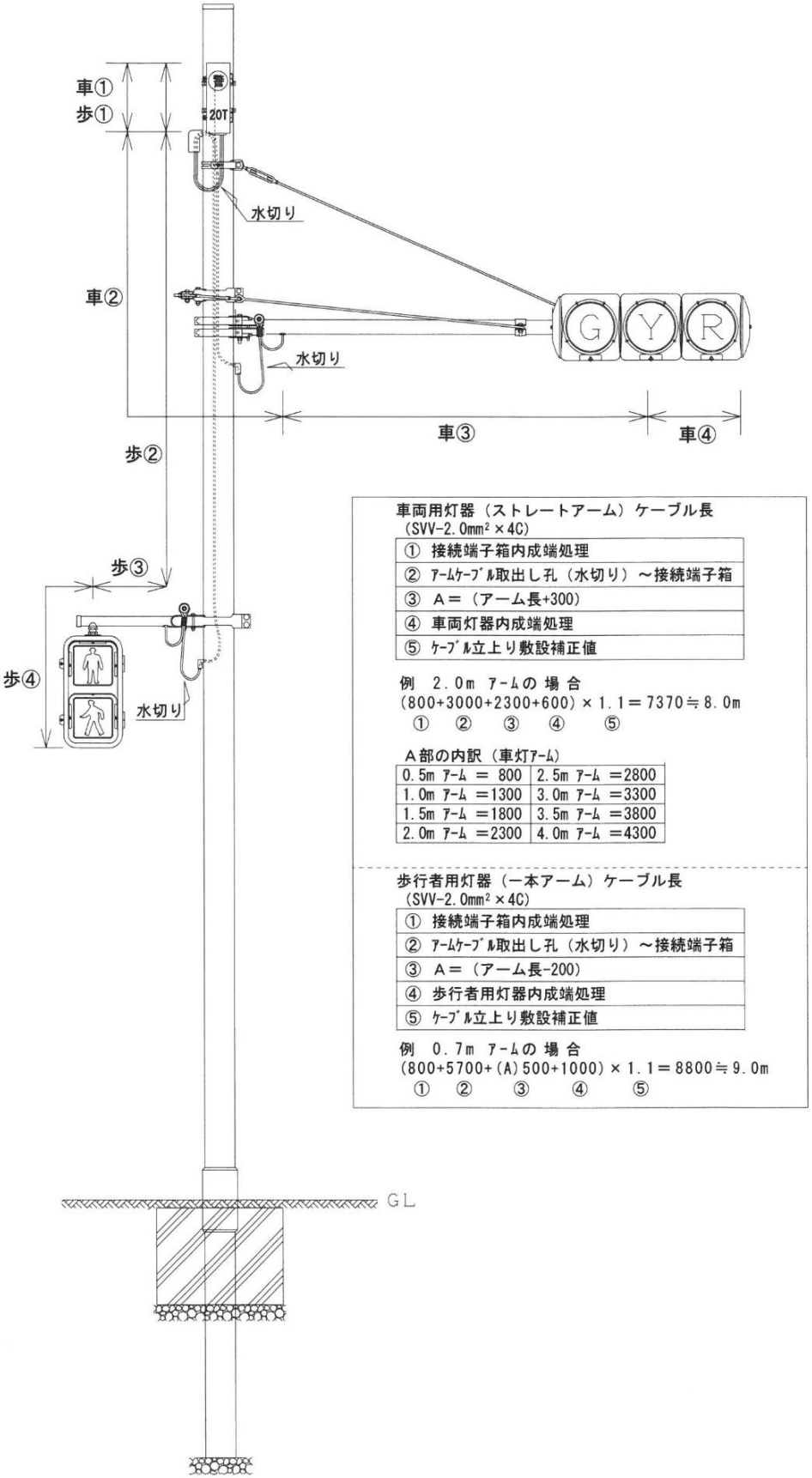
1000 + 2000＝3000 ≒ 3.0m

①　＋　②

① 制御機内成端処理長(二次側)
② 制御機～制御機架台漏電ブレーカーまでの長さ

付図－３－１３　　車両灯、歩行者灯ケーブル長計算式　　S= 1/40

鋼管柱　直管式



車両用灯器（ストレートアーム）ケーブル長
（SVV-2.0mm² × 4C）

① 接続端子箱内成端処理
② ｱｰﾑｹｰﾌﾞﾙ取出し孔（水切り）～接続端子箱
③ Ａ＝（アーム長+300）
④ 車両灯器内成端処理
⑤ ｹｰﾌﾞﾙ立上り敷設補正値

例　2.0m ｱｰﾑの 場 合
(800+3000+2300+600) × 1.1＝7370≒8.0m
①　②　③　④　⑤

Ａ部の内訳（車灯ｱｰﾑ）

0.5m ｱｰﾑ ＝ 800	2.5m ｱｰﾑ ＝2800
1.0m ｱｰﾑ ＝1300	3.0m ｱｰﾑ ＝3300
1.5m ｱｰﾑ ＝1800	3.5m ｱｰﾑ ＝3800
2.0m ｱｰﾑ ＝2300	4.0m ｱｰﾑ ＝4300

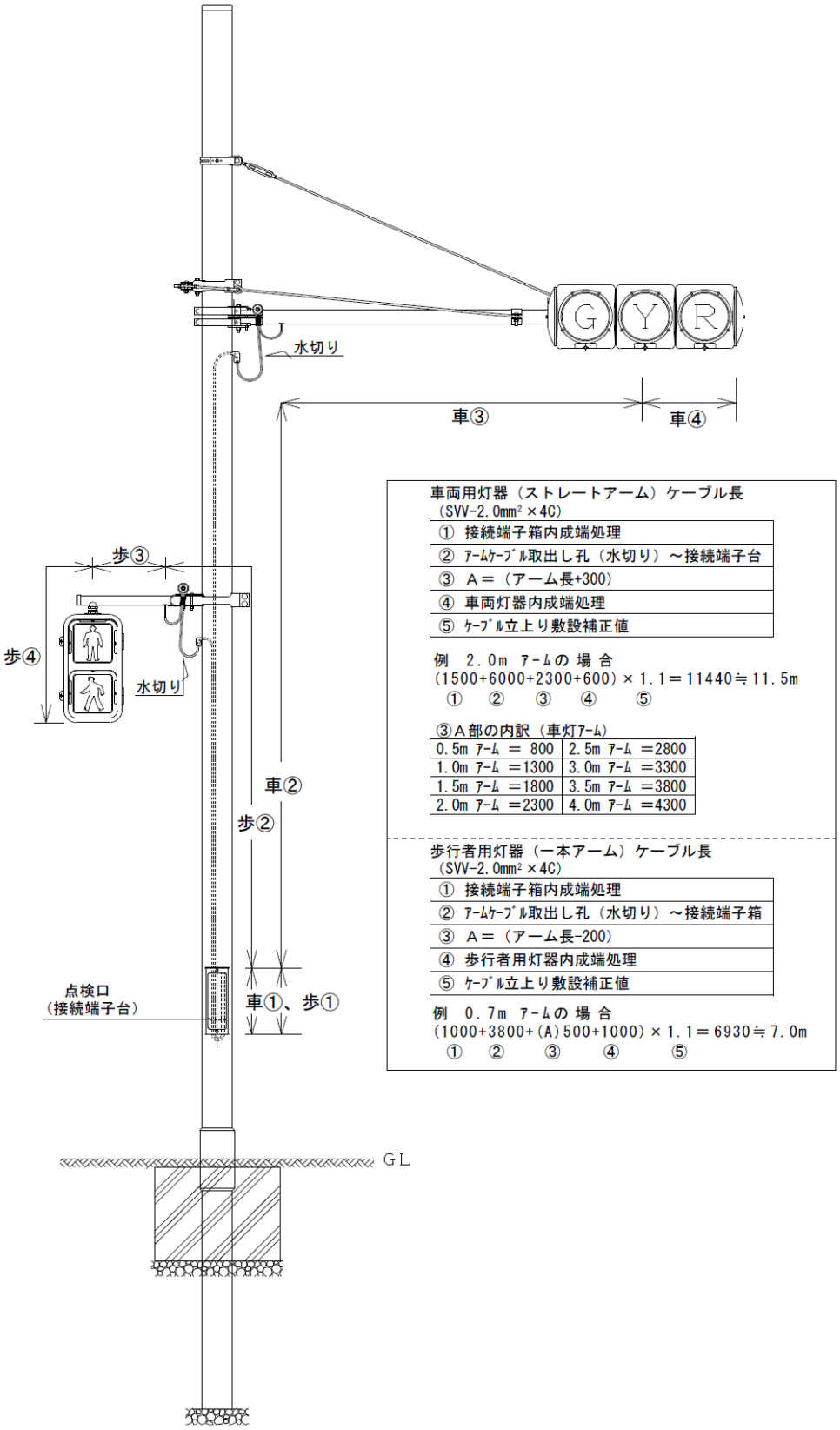
歩行者用灯器（一本アーム）ケーブル長
（SVV-2.0mm² × 4C）

① 接続端子箱内成端処理
② ｱｰﾑｹｰﾌﾞﾙ取出し孔（水切り）～接続端子箱
③ Ａ＝（アーム長-200）
④ 歩行者用灯器内成端処理
⑤ ｹｰﾌﾞﾙ立上り敷設補正値

例　0.7m ｱｰﾑの 場 合
(800+5700+(A)500+1000) × 1.1＝8800≒9.0m
①　②　③　④　⑤

付図－３－１４　　車両灯、歩行者灯ケーブル長計算式　　S= 1/40

鋼管柱　立込式



車両用灯器（ストレートアーム）ケーブル長
（SVV-2.0mm²×4C）

① 接続端子箱内成端処理
② ｱｰﾑｹｰﾌﾞﾙ取出し孔（水切り）～接続端子台
③ Ａ＝（アーム長+300）
④ 車両灯器内成端処理
⑤ ｹｰﾌﾞﾙ立上り敷設補正値

例　2.0m ｱｰﾑの 場 合
(1500+6000+2300+600)×1.1＝11440≒11.5m
①　②　③　④　⑤

③Ａ部の内訳（車灯ｱｰﾑ）

0.5m ｱｰﾑ ＝ 800	2.5m ｱｰﾑ ＝2800
1.0m ｱｰﾑ ＝1300	3.0m ｱｰﾑ ＝3300
1.5m ｱｰﾑ ＝1800	3.5m ｱｰﾑ ＝3800
2.0m ｱｰﾑ ＝2300	4.0m ｱｰﾑ ＝4300

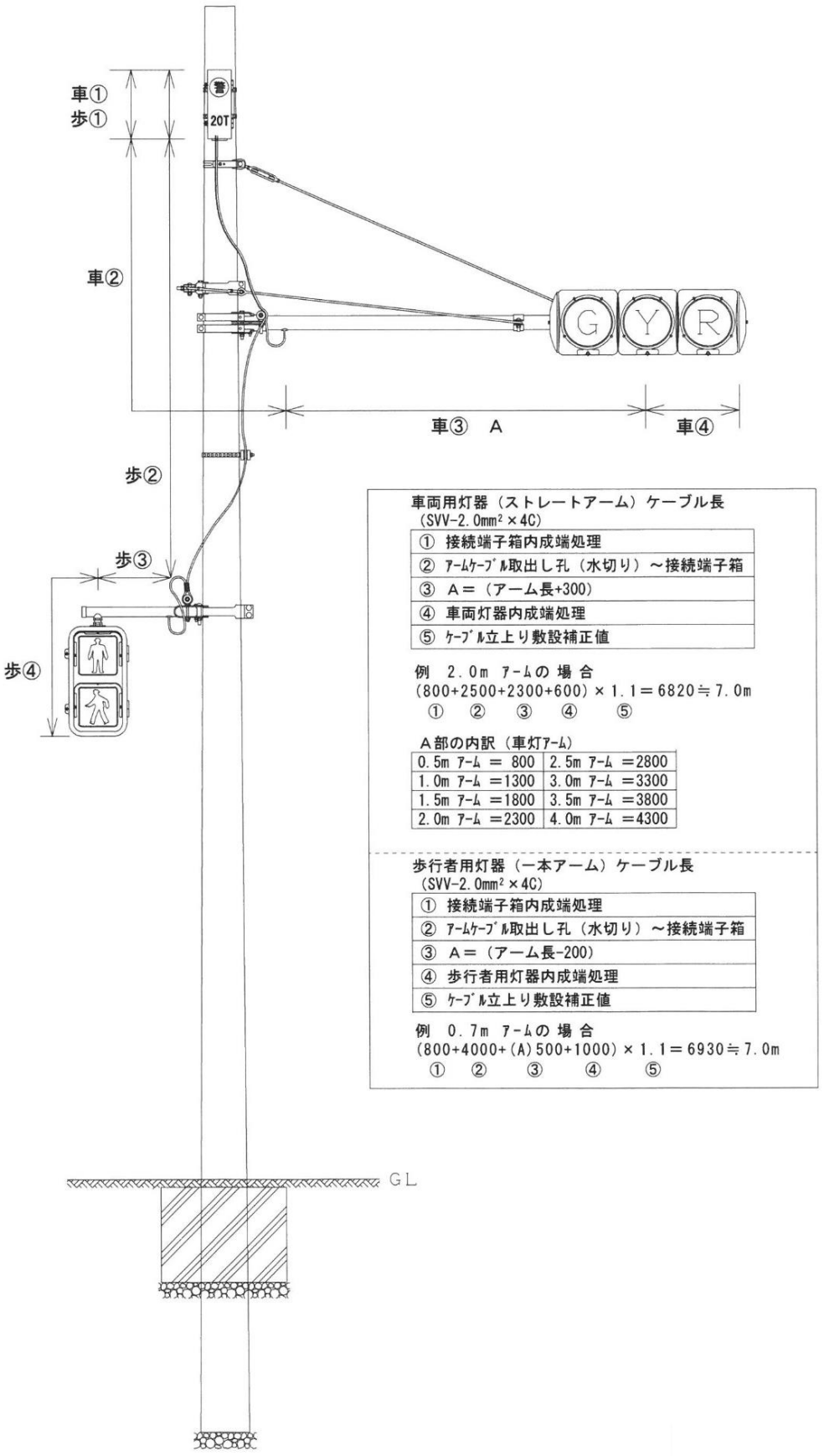
歩行者用灯器（一本アーム）ケーブル長
（SVV-2.0mm²×4C）

① 接続端子箱内成端処理
② ｱｰﾑｹｰﾌﾞﾙ取出し孔（水切り）～接続端子箱
③ Ａ＝（アーム長-200）
④ 歩行者用灯器内成端処理
⑤ ｹｰﾌﾞﾙ立上り敷設補正値

例　0.7m ｱｰﾑの 場 合
(1000+3800+(A)500+1000)×1.1＝6930≒7.0m
①　②　③　④　⑤

付図－３－１５　　車両灯、歩行者灯ケーブル長計算式　　S= 1/40

コンクリート柱



車両用灯器（ストレートアーム）ケーブル長
（SVV-2.0mm²×4C）

① 接続端子箱内成端処理
② ｱｰﾑｹｰﾌﾞﾙ取出し孔（水切り）～接続端子箱
③ Ａ＝（アーム長+300）
④ 車両灯器内成端処理
⑤ ｹｰﾌﾞﾙ立上り敷設補正値

例　2.0m ｱｰﾑの 場 合
(800+2500+2300+600)×1.1＝6820≒7.0m
①　②　③　④　⑤

Ａ部の内訳（車灯ｱｰﾑ）

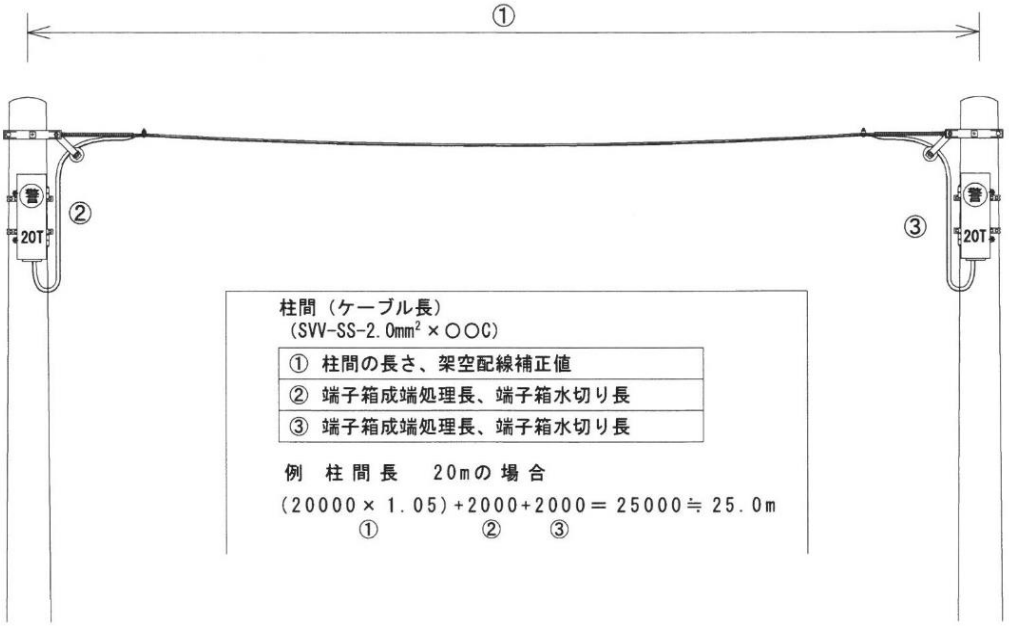
0.5m ｱｰﾑ ＝ 800	2.5m ｱｰﾑ ＝2800
1.0m ｱｰﾑ ＝1300	3.0m ｱｰﾑ ＝3300
1.5m ｱｰﾑ ＝1800	3.5m ｱｰﾑ ＝3800
2.0m ｱｰﾑ ＝2300	4.0m ｱｰﾑ ＝4300

歩行者用灯器（一本アーム）ケーブル長
（SVV-2.0mm²×4C）

① 接続端子箱内成端処理
② ｱｰﾑｹｰﾌﾞﾙ取出し孔（水切り）～接続端子箱
③ Ａ＝（アーム長-200）
④ 歩行者用灯器内成端処理
⑤ ｹｰﾌﾞﾙ立上り敷設補正値

例　0.7m ｱｰﾑの 場 合
(800+4000+(A)500+1000)×1.1＝6930≒7.0m
①　②　③　④　⑤

付図－３－１６　架空配線柱間ケーブル長計算式　S= 1/40
コン柱、鋼管柱直管式



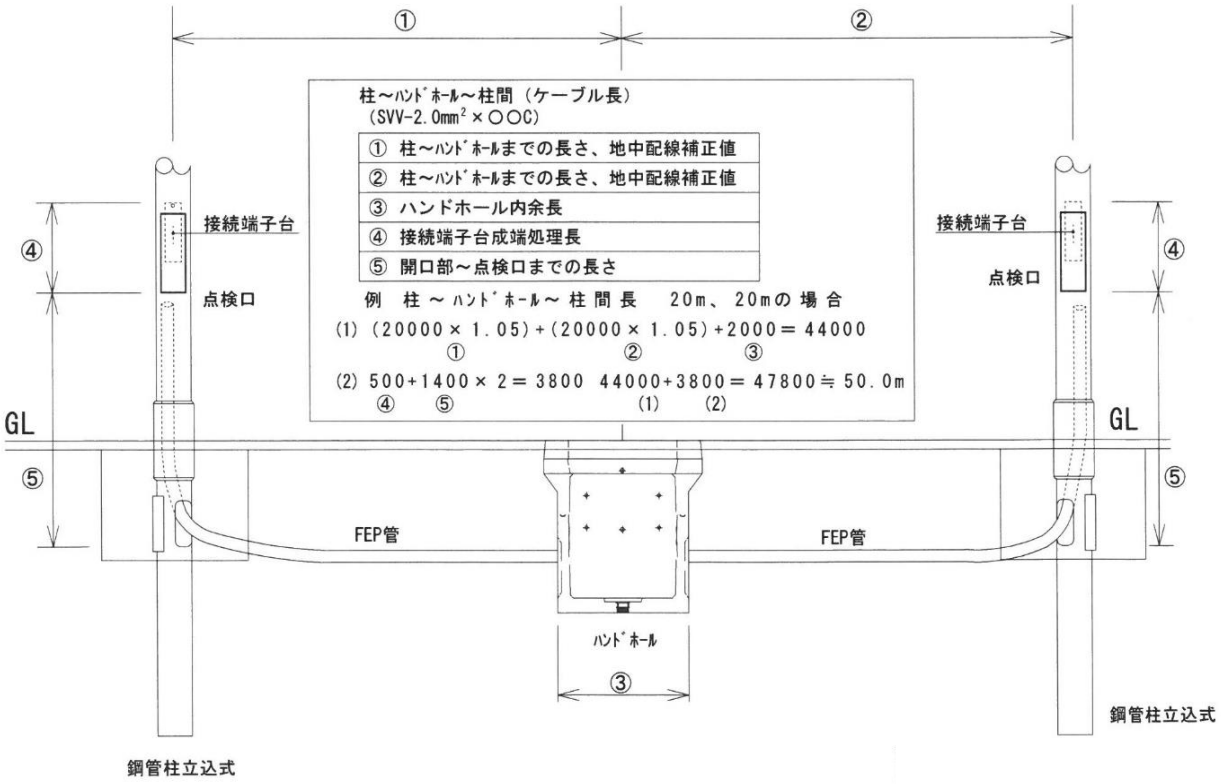
柱間（ケーブル長）
（SVV-SS-2.0mm² × ○○C）

① 柱間の長さ、架空配線補正値
② 端子箱成端処理長、端子箱水切り長
③ 端子箱成端処理長、端子箱水切り長

例　柱間長　20mの場合

(20000 × 1.05)+2000+2000 ＝ 25000 ≒ 25.0m
①　②　③

付図－３－１７　地中配線柱間ケーブル長計算式　S= 1/40
鋼管柱立込式



柱～ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ～柱間（ケーブル長）
（SVV-2.0mm² × ○○C）

① 柱～ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙまでの長さ、地中配線補正値
② 柱～ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙまでの長さ、地中配線補正値
③ ハンドホール内余長
④ 接続端子台成端処理長
⑤ 開口部～点検口までの長さ

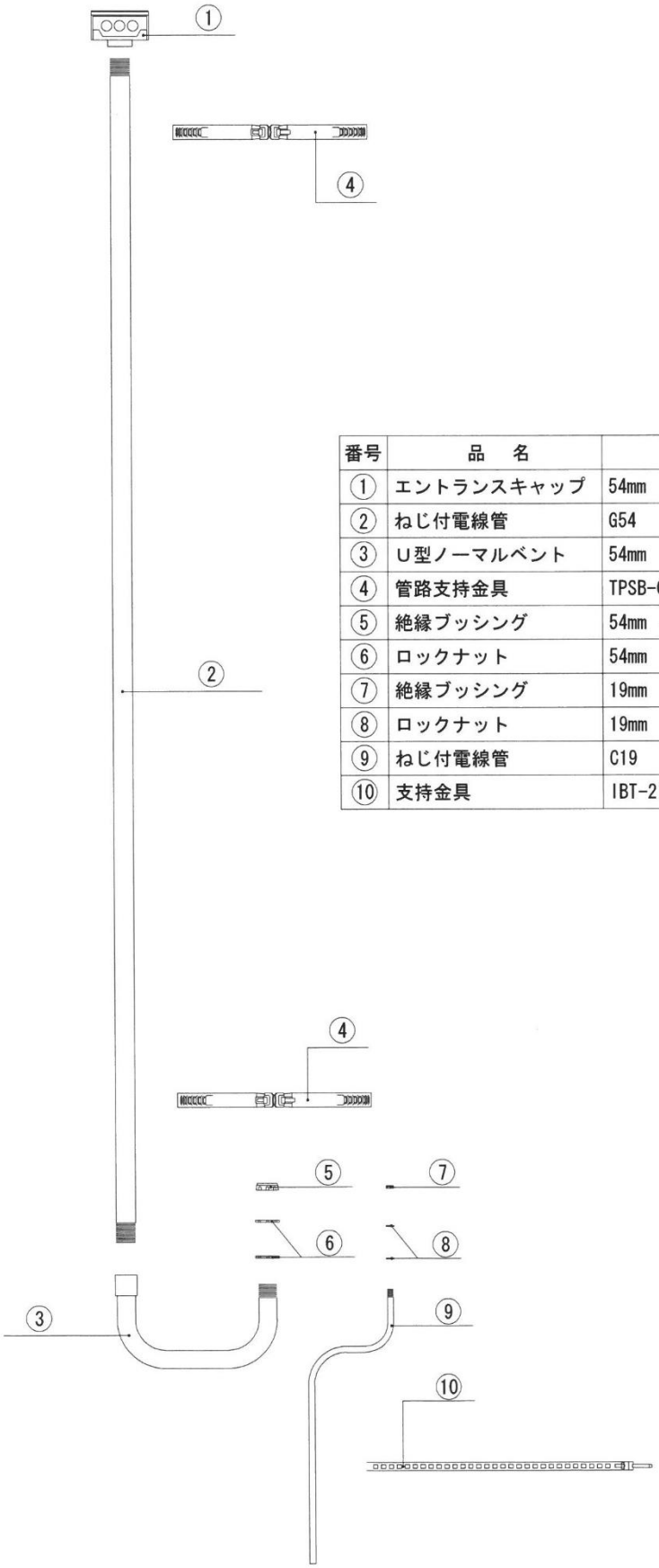
例　柱～ﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ～柱間長　20m、20mの場合

(1) (20000 × 1.05)+(20000 × 1.05)+2000 ＝ 44000
①　②　③

(2) 500+1400 × 2 ＝ 3800　44000+3800 ＝ 47800 ≒ 50.0m
④　⑤　(1)　(2)

付図－３－１８　　制御機用管路　詳細図　　S= 1/20

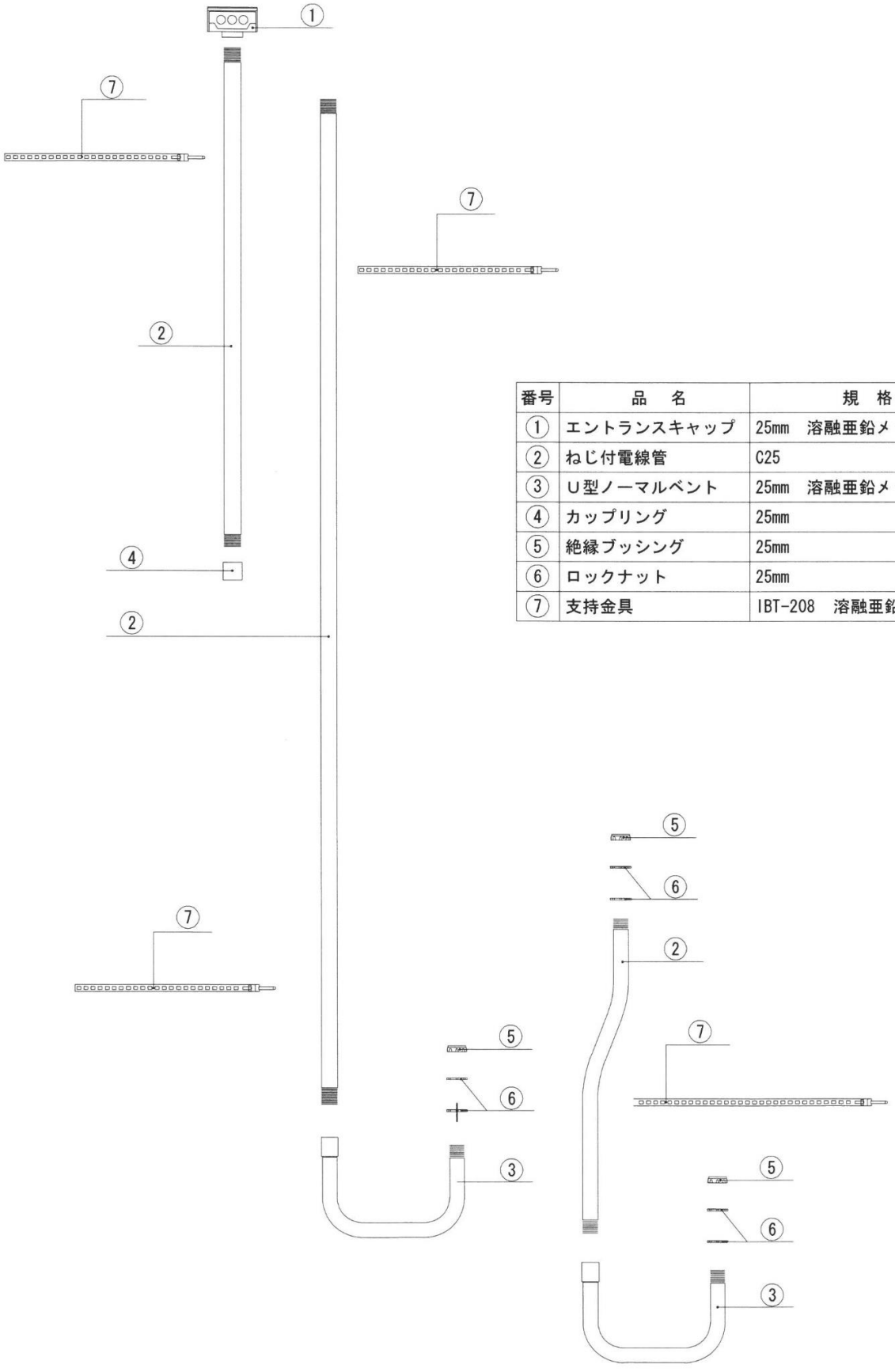
コン柱用



番号	品　名	規　格	単位	数量
①	エントランスキャップ	54mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
②	ねじ付電線管	G54	本	1
③	U型ノーマルベント	54mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
④	管路支持金具	TPSB-CP59　溶融亜鉛メッキ	個	2
⑤	絶縁ブッシング	54mm	個	1
⑥	ロックナット	54mm	個	2
⑦	絶縁ブッシング	19mm	個	1
⑧	ロックナット	19mm	個	2
⑨	ねじ付電線管	C19	本	1/3
⑩	支持金具	IBT-212　溶融亜鉛メッキ	本	1

付図－３－１９　　電源箱用管路　詳細図　　S=NONE

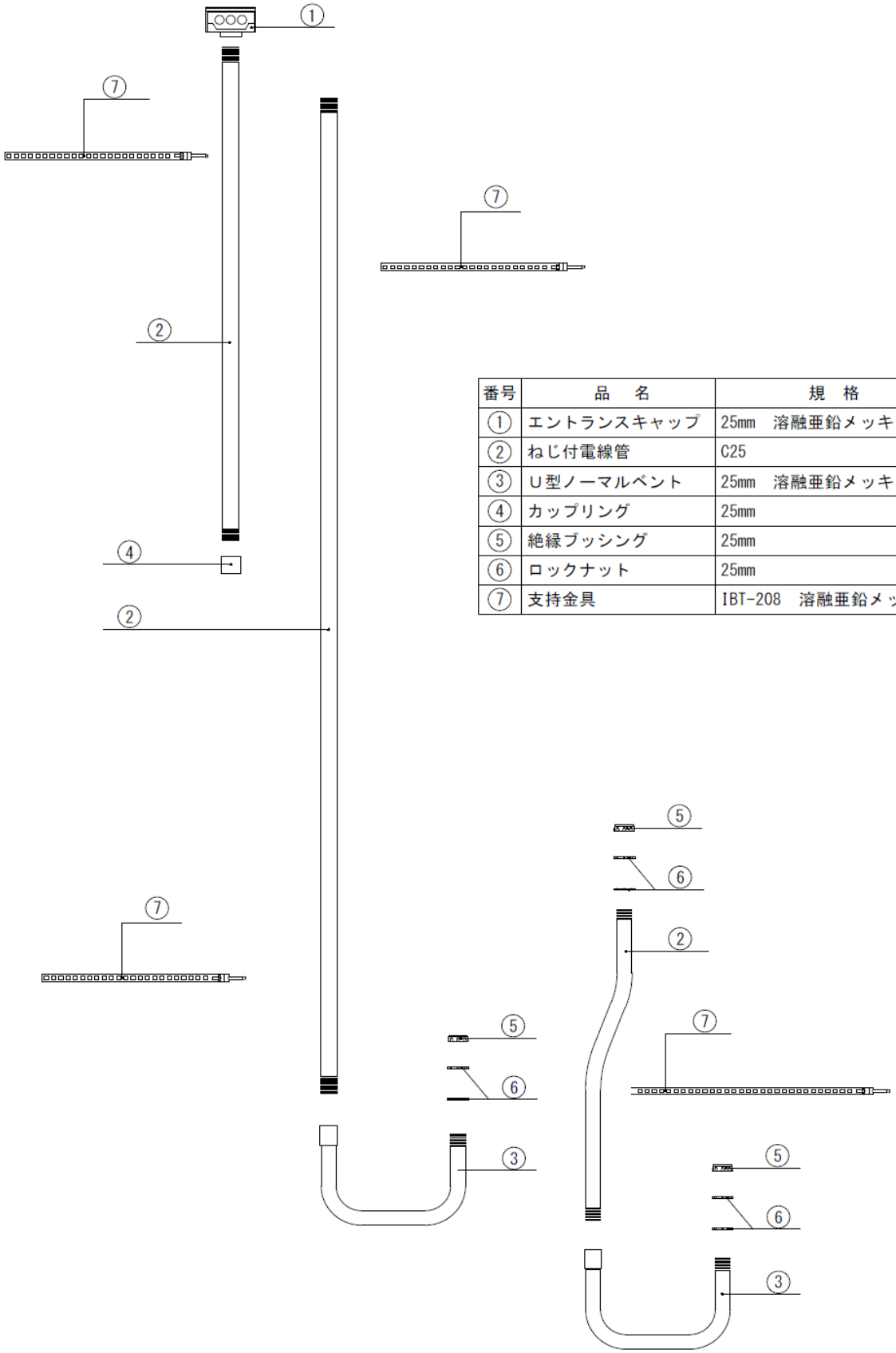
コン柱用



番号	品　名	規　格	単位	数量
①	エントランスキャップ	25mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
②	ねじ付電線管	C25	本	2
③	Ｕ型ノーマルベント	25mm　溶融亜鉛メッキ	個	2
④	カップリング	25mm	個	1
⑤	絶縁ブッシング	25mm	個	3
⑥	ロックナット	25mm	個	6
⑦	支持金具	IBT-208　溶融亜鉛メッキ	本	4

付図－３－２０　　回線箱用管路　詳細図　　S=NONE

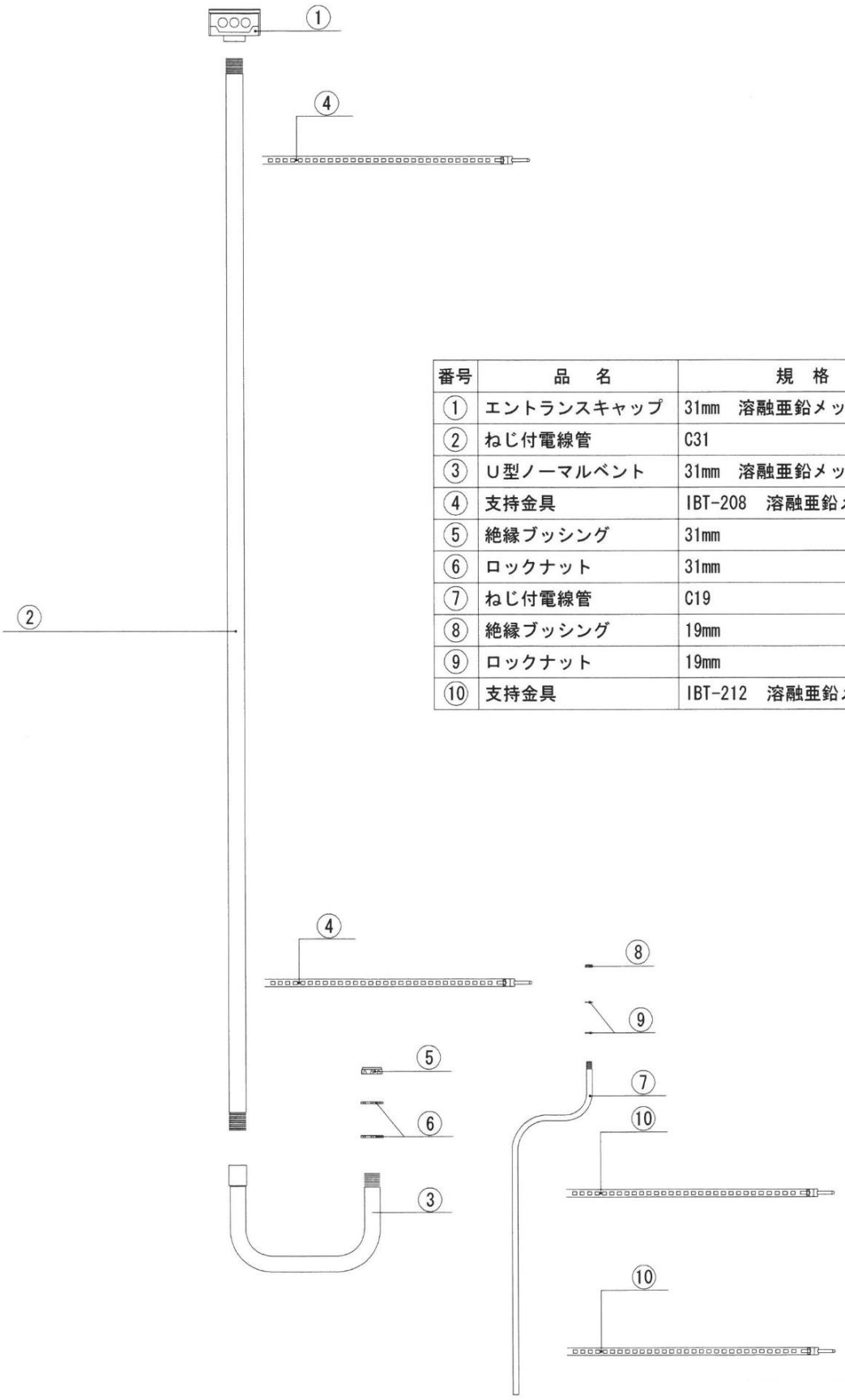
コン柱用



番号	品　名	規　格	単位	数量
①	エントランスキャップ	25mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
②	ねじ付電線管	C25	本	2
③	Ｕ型ノーマルベント	25mm　溶融亜鉛メッキ	個	2
④	カップリング	25mm	個	1
⑤	絶縁ブッシング	25mm	個	3
⑥	ロックナット	25mm	個	6
⑦	支持金具	IBT-208　溶融亜鉛メッキ	本	4

付図－３－２１　　車両感知器用管路　詳細図　　S=NONE

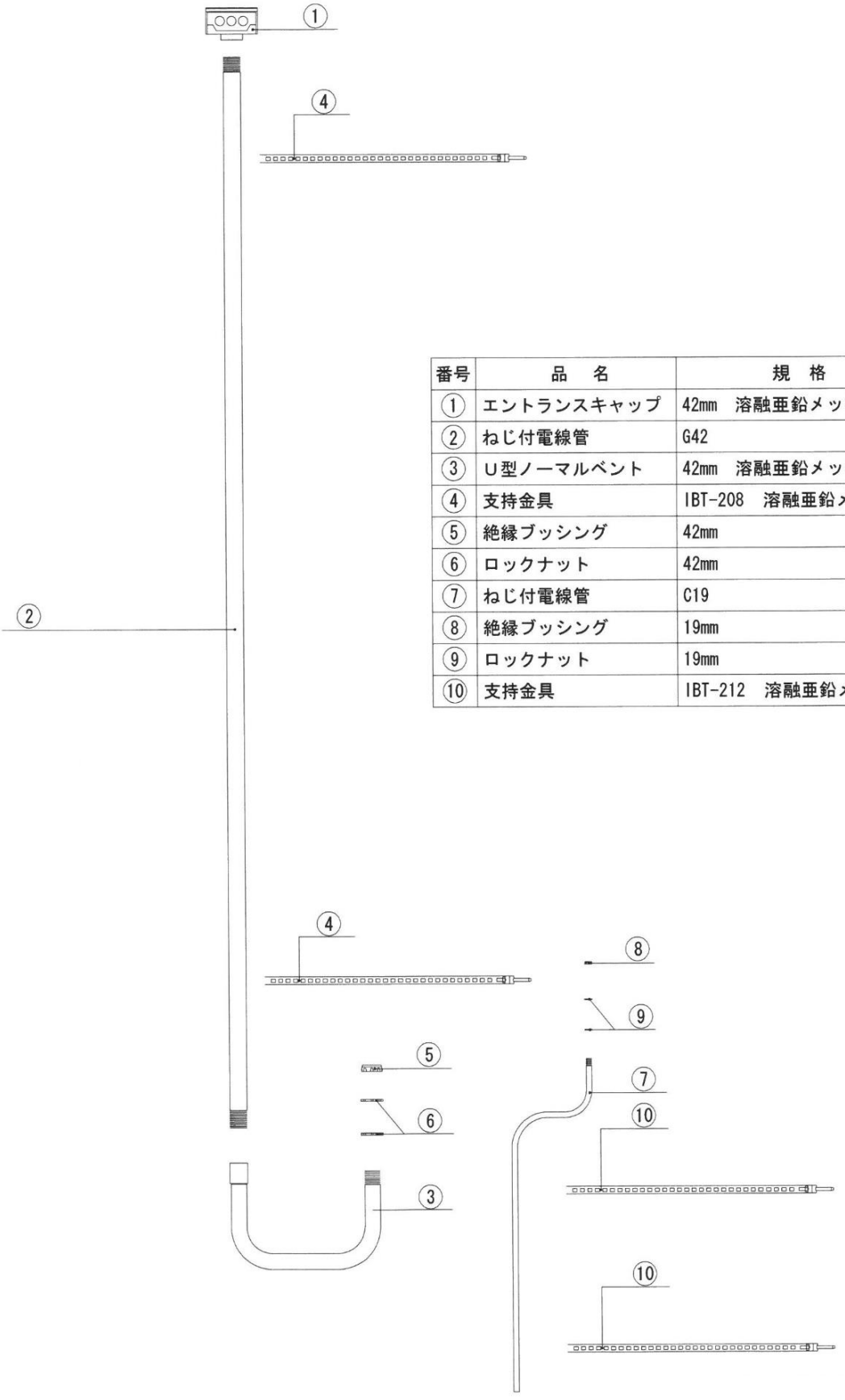
コン柱用



番号	品　名	規　格	単位	数量
①	エントランスキャップ	31mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
②	ねじ付電線管	C31	本	1
③	Ｕ型ノーマルベント	31mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
④	支持金具	IBT-208　溶融亜鉛メッキ	個	2
⑤	絶縁ブッシング	31mm	個	1
⑥	ロックナット	31mm	個	2
⑦	ねじ付電線管	C19	本	2/3
⑧	絶縁ブッシング	19mm	個	1
⑨	ロックナット	19mm	本	2
⑩	支持金具	IBT-212　溶融亜鉛メッキ	本	2

付図－３－２２　　光ビーコン用管路　詳細図　　S=NONE

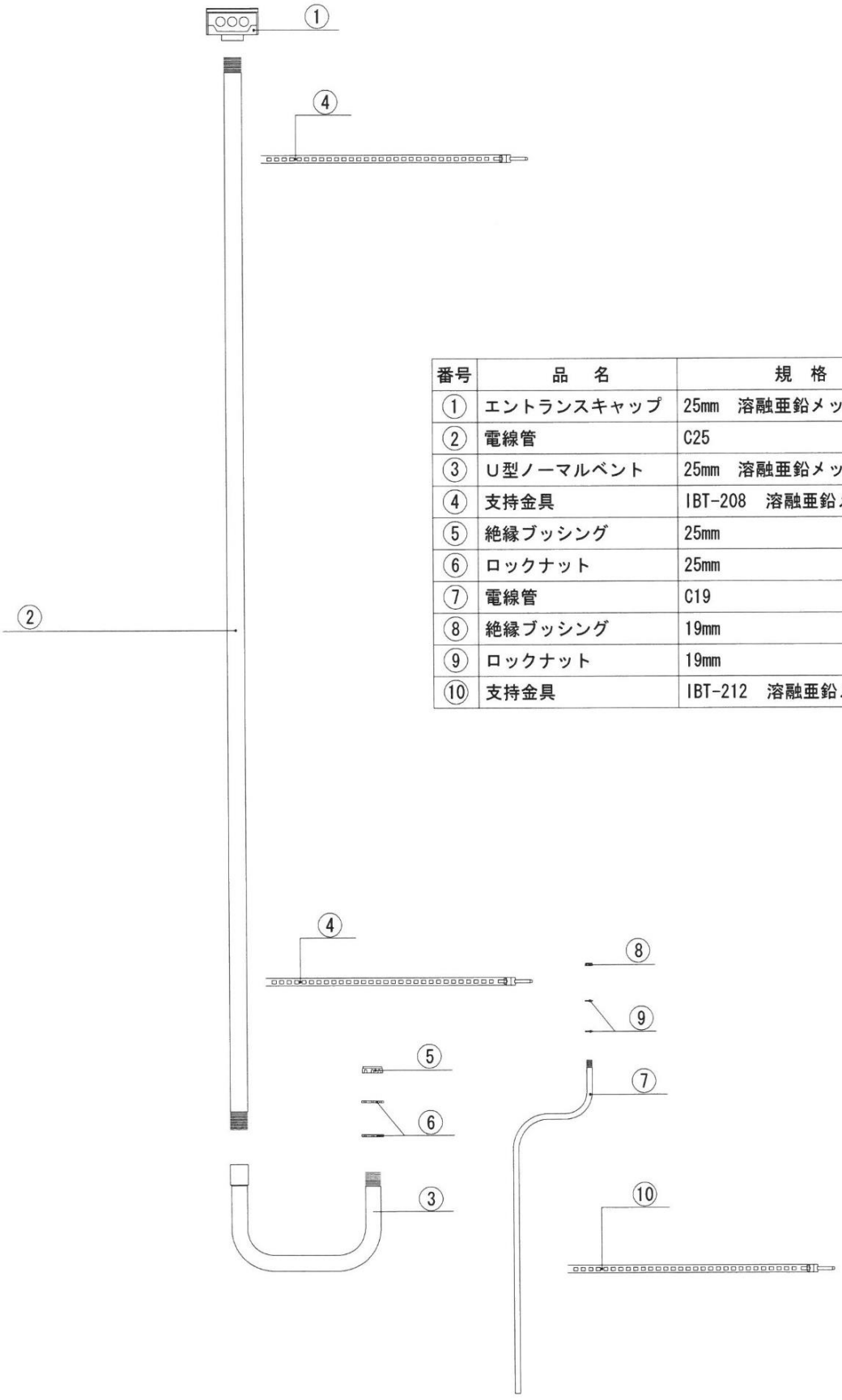
コン柱用



番号	品　名	規　格	単位	数量
①	エントランスキャップ	42mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
②	ねじ付電線管	G42	本	1
③	U型ノーマルベント	42mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
④	支持金具	IBT-208　溶融亜鉛メッキ	個	2
⑤	絶縁ブッシング	42mm	個	1
⑥	ロックナット	42mm	個	2
⑦	ねじ付電線管	C19	本	2/3
⑧	絶縁ブッシング	19mm	個	1
⑨	ロックナット	19mm	本	2
⑩	支持金具	IBT-212　溶融亜鉛メッキ	本	2

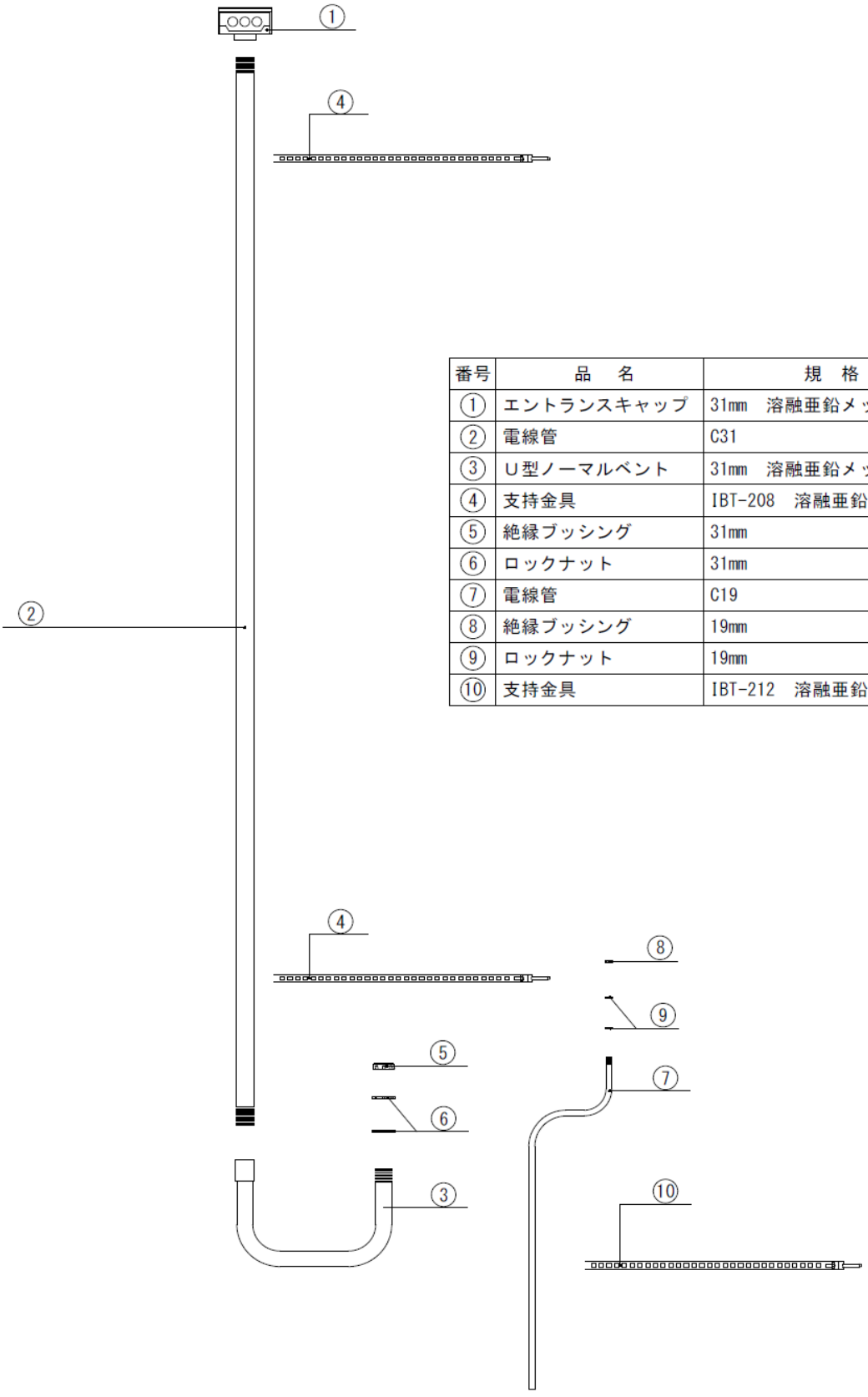
付図－３－２３　　押ボタン箱用管路　詳細図　　S=NONE

コン柱用



番号	品　名	規　格	単位	数量
①	エントランスキャップ	25mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
②	電線管	C25	本	1
③	U型ノーマルベント	25mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
④	支持金具	IBT-208　溶融亜鉛メッキ	個	2
⑤	絶縁ブッシング	25mm	個	1
⑥	ロックナット	25mm	個	2
⑦	電線管	C19	本	1/3
⑧	絶縁ブッシング	19mm	個	1
⑨	ロックナット	19mm	本	2
⑩	支持金具	IBT-212　溶融亜鉛メッキ	本	1

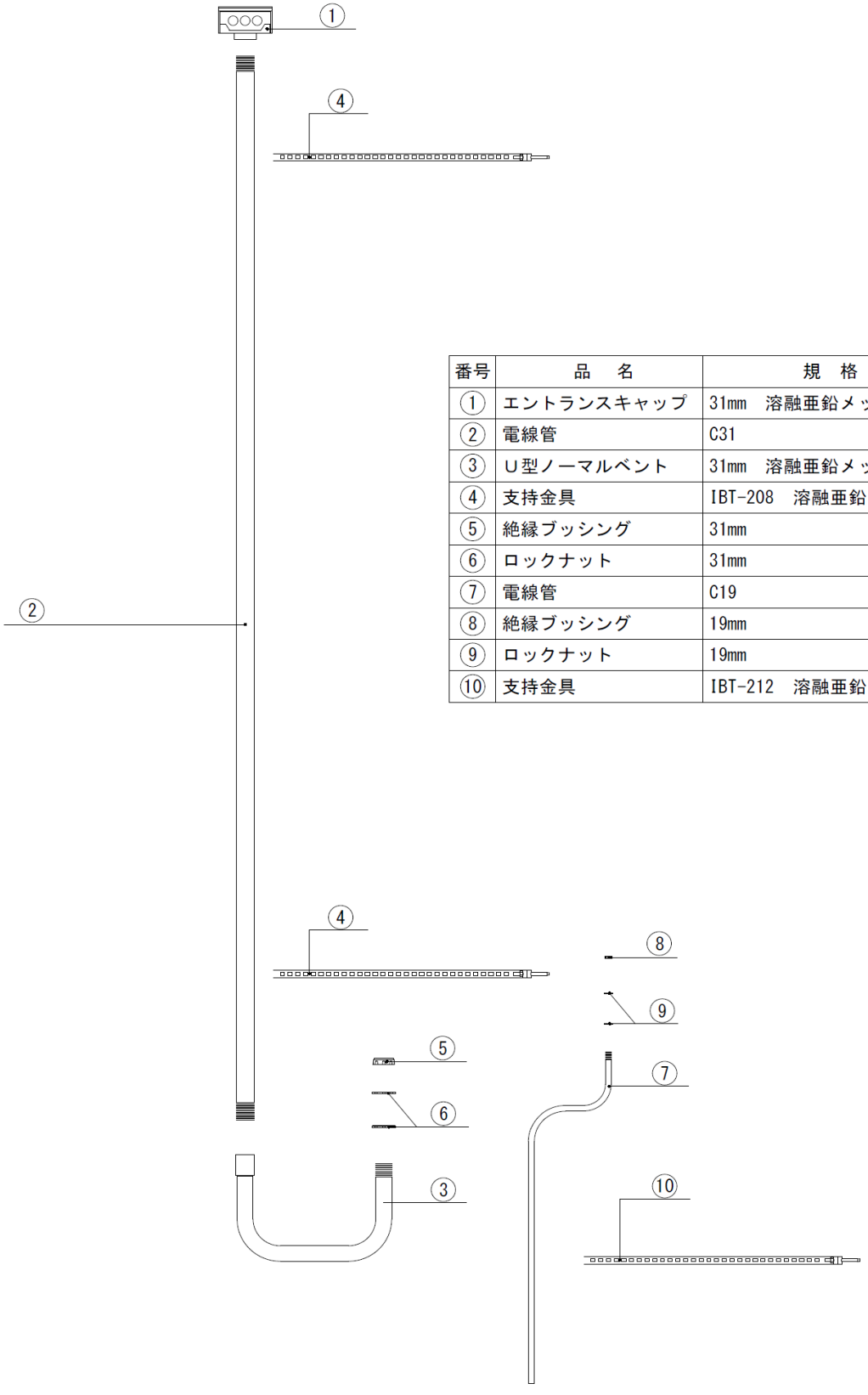
付図－３－２４　高齢者等押ボタン箱用管路　詳細図　S=NONE
コン柱用



番号	品　名	規　格	単位	数量
①	エントランスキャップ	31mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
②	電線管	C31	本	1
③	Ｕ型ノーマルベント	31mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
④	支持金具	IBT-208　溶融亜鉛メッキ	個	2
⑤	絶縁ブッシング	31mm	個	1
⑥	ロックナット	31mm	個	2
⑦	電線管	C19	本	1/3
⑧	絶縁ブッシング	19mm	個	1
⑨	ロックナット	19mm	本	2
⑩	支持金具	IBT-212　溶融亜鉛メッキ	本	1

付図－３－２５　視覚障害者用付加装置用管路　詳細図　S=NONE

コン柱用



番号	品　名	規　格	単位	数量
①	エントランスキャップ	31mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
②	電線管	C31	本	1
③	Ｕ型ノーマルベント	31mm　溶融亜鉛メッキ	個	1
④	支持金具	IBT-208　溶融亜鉛メッキ	個	2
⑤	絶縁ブッシング	31mm	個	1
⑥	ロックナット	31mm	個	2
⑦	電線管	C19	本	1/2
⑧	絶縁ブッシング	19mm	個	1
⑨	ロックナット	19mm	本	2
⑩	支持金具	IBT-212　溶融亜鉛メッキ	本	1

付図－３－２６

標準端子配列（現示）

交　差　点

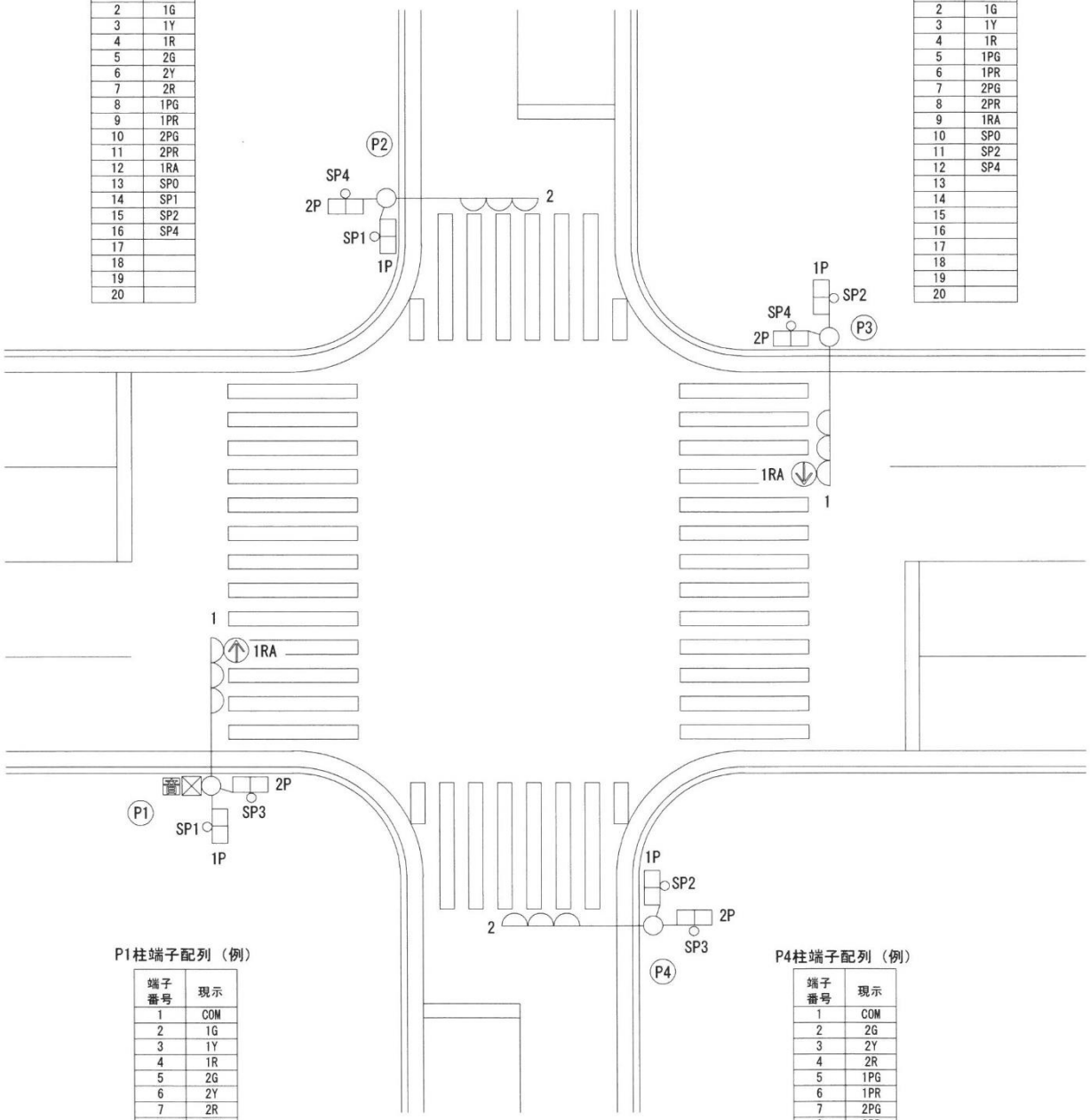
S=　1/30

P2柱端子配列（例）

端子番号	現示
1	COM
2	1G
3	1Y
4	1R
5	2G
6	2Y
7	2R
8	1PG
9	1PR
10	2PG
11	2PR
12	1RA
13	SPO
14	SP1
15	SP2
16	SP4
17	
18	
19	
20	

P3柱端子配列（例）

端子番号	現示
1	COM
2	1G
3	1Y
4	1R
5	1PG
6	1PR
7	2PG
8	2PR
9	1RA
10	SPO
11	SP2
12	SP4
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	



P1柱端子配列（例）

端子番号	現示
1	COM
2	1G
3	1Y
4	1R
5	2G
6	2Y
7	2R
8	1PG
9	1PR
10	2PG
11	2PR
12	1RA
13	SPO
14	SP1
15	SP2
16	SP3
17	SP4
18	
19	AC1
20	AC2

P4柱端子配列（例）

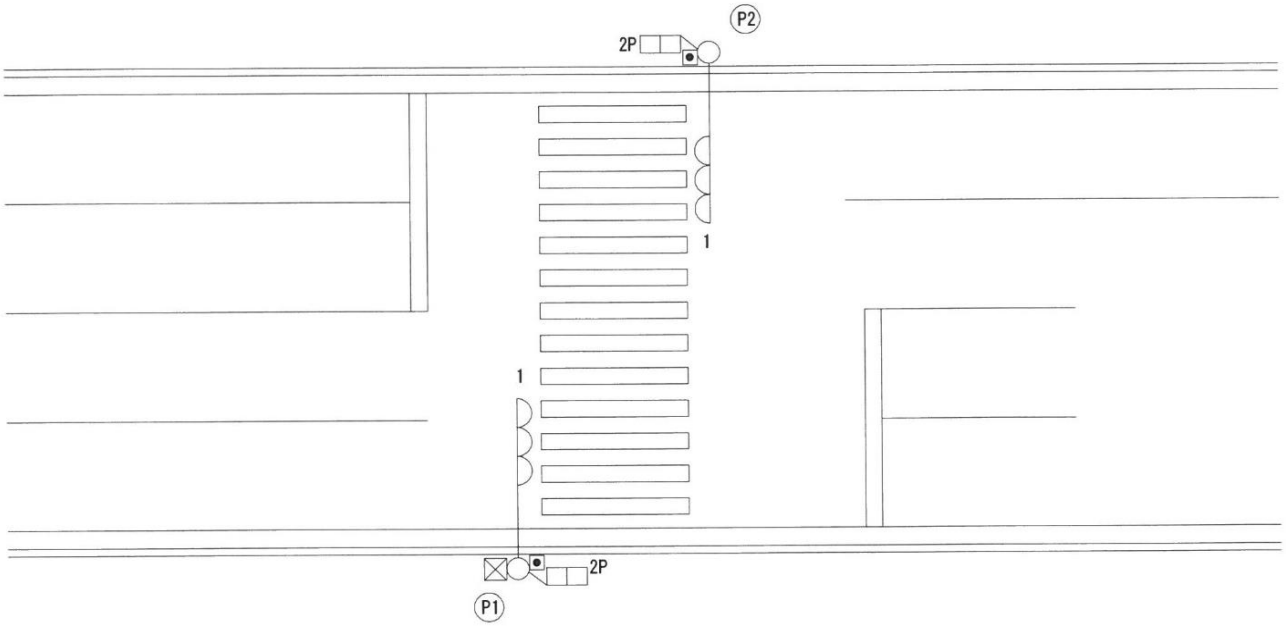
端子番号	現示
1	COM
2	2G
3	2Y
4	2R
5	1PG
6	1PR
7	2PG
8	2PR
9	SPO
10	SP2
11	SP3
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

付図－３－２７　　標準端子配列（現示）　　S= 1/30

横　断　路

P2柱端子配列（例）

端子番号	現示
1	COM
2	1G
3	1Y
4	1R
5	2PG
6	2PR
7	PL0
8	PL1
9	PB0
10	PB1
11	
12	



P1柱端子配列（例）

端子番号	現示
1	COM
2	1G
3	1Y
4	1R
5	2PG
6	2PR
7	PL0
8	PL1
9	PB0
10	PB1
11	PB1
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

付図－３－２８　交通信号機設置位置及び埋設配管図　S= 1/350

